

再學級經營	正 七四	小中	三三弘道館	二〇〇 教育學校管理法
機械設計工作便覽	森田 敬治 七四	一小	五〇博文館	一〇〇 工學機械工學
機械現業家の設計の參考、作業の伴侶として平易明瞭に叙述す。				
經濟裁縫術	尾崎芳太郎 七四	一中	四三止善堂	一〇〇 家事裁縫
裁方、用具、縫方等に斧鉞を加へ、裁縫時間も早く、形も改良したる經濟裁縫術を研究す。				
現代女子消息	文高桑 文子 七五	一中	二二寶文館	〇五 語學 日本語—作文
著者の實際人々に送りし文を集む、文體雅俗の間をゆきて姉女子の模範文に適す。				
現代新俳句	楠里 編 七四	一小	三三阿蘭陀書房	〇五 文學俳諧
ホト、ギス派の鳴雪、虚子其他十餘人の代表的俳句を精選編輯す。				
現代名家の學修勉強法	大畑徳太郎 編 七四	一小	三三岡村書店	〇〇 教育學 修法
實行せる學	三宅、奥田、高田、遠藤、井上、江木、田中、高根、澤柳、姉崎、穂積、岡松、新渡戸、富井、横井、清水、加藤、丘、仁井田、浮田諸博士等の學科の選擇法、學修上の心得、讀書法等を集む			
工業財務論	興相奎太郎 七四	一中	五七太田書館	三〇〇 經濟工業經濟
工業財務の概念、工業資金の調達、放下、回收、工業資本及収益等を論ず。				
國史の研究	各説之部 黑板 勝美 七四	一中	八七文會堂	五五〇 歴史 日本歴史
神代より江戸幕府の末期に至る各時代の研究。				
家庭教育の子供のしつけ方	菊池庄次郎 七四	小中	一五阿蘭陀書房	〇八五 教育家庭教育
兒童の體育問題と勤勞問題を中心として平易親切にしつけ方を解説勸誘す。				
債權各論	第三分册 未弘 殿太郎 七四	一中	三七有斐閣	一〇〇 法律民法
懸賞契約の續きより、損害賠償債權の終りまで。				

作法作文大觀	内海 弘藏 七四	小中	三三高正堂	一〇〇 語學 日本語—作文
構想法、表彰法、文章の要領、文章の分類を説明し多くの文範を掲ぐ。				
抱負士官の卵	學生生活叢書 外編 金丸 庫三 七四	一小	三三東亞堂	〇五 軍事軍事教育
士官候補生生活の滑稽的方面を記述したるもの。				
新實際的家禽全書	相田良太郎 七四	一中	三〇大鏡閣	一〇〇 農業養禽
學理の基礎の上に立ち實驗的研究、實利的經營の結果を發表せるもの。				
西伯利亞	利亞 野中 春洋 七四	小中	三九泰山房	一〇〇 地誌 西伯利亞
著者數回の實地視察と我在西領事館の調査報告書等に基づきて西伯利亞の現状を説明せり。				
春夏秋冬の美文	趣味叢書の内 水郷庵主人編 七四	一小	三三東亞堂	〇四〇 語學 日本語—作文
文章を作るに最も大切な心得、書翰文の作法等を説き模範文を多く掲ぐ。				
商店の會計	會計 興相奎太郎 七四	小中	三六天地書房	一五 商業會計
一般商店の會計を記帳計算する實際的方面を平易に述べたるもの。				
商用通信書翰	文章講習會編 七四	一小	三六東亞堂	〇五 商業商業作文
平易にして常識的なる仕組を以て説明す、自習用。				
眞實の教育	三浦修吾 七四	一中	三三成蹊學校	一五 教育教育—雜書
内外教育評論、新教育等に發表せる著者の論文等を纏めたるもの。				
新世の	中有 柳 猛 七四	一小	三三弘學館	一〇〇 倫理修養
主として著者の經驗上より青年の教訓となるべき事項を述べたるもの。				
スピノザ哲學大系	エチカ 和、スピノザ 小尾範治 譯 七四	一中	五〇岩波書店	二五〇 哲學哲學
スピノザの生涯及び思想發展を詳叙し次にエチカを翻譯す。				

戦後の事業

製鐵界及鐵工業、金屬鑛業、石炭及石油、船舶及汽車製造、纖維工業界、醫藥製造、工業藥品、染料及塗料工業、電氣及瓦斯、製肥工業、食料界、糖業及鹽業等諸事業の現状及將來を調査す。

胎内教育 育服部 北浜 七四 小中 三九 南北社 二〇〇 教育胎教

胎教の効果と事實を平易に説けるもの。

心身代表的強健法 白井規矩郎編 七四 小中 四七 止善堂 一〇〇 醫學衛生

主として明治以降に現れたる修養法、強健術に就て四十種餘の代表的方法を選択して一々其梗概を述べたるもの。

美談たどりしあ と 杉山忠恕編 七四 小中 三〇 大日本國體教育 一〇〇 倫理教育 訓

西郷糸子、山田富子、下田歌子、跡見花溪、片岡信子、三輪田眞佐子、小山清子、柳橋絢子、佐藤静子、鳩山春子、山脇房子、嘉悦孝子、吉岡彌生、高杉政子、奥村五百子の美談、立志談等。

五年中學漢文和譯自修書 原文 堤達也編 七四 小中 三三 敬文館 一〇〇 語學漢語

程度 敘事、說明、論文等に序列す。

中學大學卒業まで 葛岡 敏 七四 小中 一三 國民書院 〇〇 教育學校案内

中學より大學に互る徑路、歷程を細叙したる青年修學指針。

△手形 法 松本 蒸 治 七五 一中 五〇 中央大學 三〇 法律商法

主要なる事項に付き諸外國法及び海牙會議々定の統一法の規定を引用して我商法との間の異同を略叙したり。

天台四教儀講話 野 哲 七五 一中 四八 丙午出版社 二〇〇 宗教天台宗

天台學入門たる四教儀を通俗的に講述す。

刀工 總覽 室本阿彌光顯編 七四 小中 四三 南人社 一〇〇 兵事刀劍

古今の刀工ヲイロハ順に分ちて編纂せる銘集。

トルストイ書簡集(人と藝術叢書 第一編) 露、石田三治譯 七四 小中 二五 新潮社 〇〇 文學露西亞文學

家族、藝術家、友人、同志等へ宛てたる手紙十數種を集めたるもの。

新話謎の自然 界 大畑 徳太郎 七四 小中 四四 昭文堂 一〇〇 理學理學

星の数はどれほどあるか(一月直藏)深紅の色して昇る夜半の太陽(黒板勝美)颯風はどうして起るか(稻垣乙丙)山の重さはどの位あるか(寺田寅彦)いろくの温泉(横山又次郎)井戸を掘ればなぜ水が出るか(徳永重康)等。

日本基督教史 山本 秀 煌 七四 小中 四七 洛陽堂 一〇〇 宗教基督教史傳

足利末葉より安土桃山時代の終りに至る基督教の盛衰を叙す。

△日本債權法 各論上 鳩山 秀 雄 七五 一中 二九 岩波書店 一〇〇 法律民法

契約總論より契約各論の贈與まで。

農業倉庫經營論 橋田 丑 吾 七五 一中 三三 東京出版社 二〇〇 農業農業倉庫

農業倉庫の性質、効用、業務、組織、利弊、建築等に關し詳説せり。

俳句は斯く解し斯く味ふ 高 濱 清 七四 小中 二四 新潮社 〇〇 文學俳諧

俳句の解釋法を平易に説く。

繁昌小賣店の經營 商店雜誌社編 七四 小中 二四 佐藤出版部 〇〇 商業商店

最近米國にて行はれつゝある小賣商店の經營法を特に我が國の現狀に適するやう書き改めたるもの。

交際日々の作法 松崎 双葉 七四 小中 二〇 阿蘭陀書房 〇〇 倫理禮式

姿勢と進退、お辭儀の仕方、會釋の仕方及進退、品物の持方及進め方を説明す。

描寫の心得(文藝研究叢書 第三編) 小川 健 作 七四 小中 三三 春陽堂 〇〇 文學日本語作文

文章を作る人々の根本用意、抒情文と叙景文、文學上の態度、描字、主觀、文學に志す人々の用意に就て説明す。

普通動物圖說 小野 田 久 七四 小中 四八 大修館 一〇〇 理學動物學

中等教育及小學教育上に表はれたる動物を選び、且つ人生に最も關係深き動物を加へ、其形態習性分布及應用に於ける重要な點を記述し、各種類毎に圖版を挿入す。

△物權法提要 第二册 三 滿 信 三 三版 中 三〇 有 斐 閣 〇〇 法律 民 法

本版に於ては誤植を訂正したる外多少の修正を加へたり其著しきものは第百九十二條の適用範圍に關する部分なり。

筆 供 養 大町 芳 衛 七四 一 小 三三 富 山 房 〇五 文學 日本文學—文集

著者の文集。

邦人新發展 北 ボル ネ オ 三 穂 五 郎 二版 中 〇五 東方時論社 一五〇 地誌 北ボルネオ

地としての 二版に於て農業、農事試験所、鑛業、林業、製造工業、労働者、移民、人口、貿易、交通、サンダカン地方、西海岸地方、クワ

増 鏡 新 釋 佐野 保太郎 七四 中 〇三 有 精 堂 一三〇 歴史 日本 歴史

比較的簡單なるものは贅頭に、長きに互るものは本文の間に挿みて註釋す。

有 爲 生 活 高 木 信 威 七四 小 〇六 二 西 社 一四〇 倫理 修 養

常識道徳、青年の處世法等に關する論文、詩歌等八十五篇を收む。

模範 ユーニオン 第四讀本 長澤 英一郎 七四 小 〇五 研 究 社 一五〇 語學 英語—讀本

第四讀本の全譯講義。

兒童各自 理科教授 (小學教育實際) 小學教育研究會編 七四 一 中 三六 小學教育研究會 〇七 教育 教授法—理科

直觀實驗 の新研究 (叢書第十一卷) 小學教育研究會編 七四 一 中 三六 小學教育研究會 〇七 教育 教授法—理科

理科教授の趣旨、新氣運、教材選擇の要件、設備、方法、教材配當、教具及び學習用具に就て説明す。

第二 幼年書類

繪日 本 外 史 卷一 大町 芳 衛 譯 七五 一 中 三三 博文 館 一〇〇

日本外史を物語風に翻譯す。

小學 伽 四 學 年 卷七 藤 川 淡 水 七四 小 〇一 兒童出版社 〇〇〇

國定準據小學生自習用算術自由自在	金 谷 三 郎	七四	小	一六	大阪屋 號	〇五
中等學校入學準備算術自由自在	巖 谷 小 波 編	七四	小	四〇	博文 館	一〇〇
珍 世 界 お 伽 晰 第一集	柳 惟 一	七四	小	三五	修 美 堂	〇七〇
お伽 出 世 か が み	平 井 晚 村	七四	小	三三	國民書院	〇三
少年忠臣藏 (歴史小説文庫 第二編)	英、チツケンス	七四	小	三四	阿蘭陀書房	〇七五
勝利王の話 (ナカヨシお伽叢書 第四編)	木村 莊 太 譯	七四	小	二九	博 交 館	〇二八
尋常課 外 讀 本 四月の卷	葛 原 齒 編	七四	小	四四	實業之日本社	一三〇
世界童話集 東洋の卷	榎 本 秋 村	七四	小	二六	教育研究會	〇三〇
帝少年讀本 尋常科第六學年前期	久 留 島 武 治	七四	中	一七	博文 館	〇二〇
日本の山水美 (趣味の地理 第一編)	白 井 規 一 編	七四	小	一六	敬 文 館	〇三
兒童ものがたり 五の卷	島 田 牛 稚 編	七四	小	一六	敬 文 館	〇三
横 尾 眞 琴 編	横 尾 眞 琴 編	七四	小	一六	敬 文 館	〇三

第三 小説及劇

射 墜 されて から	獨、キリンガ	七四	小	二六	修 美 堂	一〇〇
獨逸飛行將校の冒險譚。	松室 健 男 譯	七四	小	二六	修 美 堂	一〇〇
怪 紳 士 (アルセーヌ・ルパ)	佛、ルアラ	七四	小	三三	金 剛 社	〇八五
川 德 前 編	保 藤 龍 緒 譯	七四	中	四〇	至 誠 堂	一五〇
賈造手形 (トルストイ叢書 第十二編)	露、トルストイ	七四	小	三七	新 潮 社	〇五
縮 終 編 荒 尾 讓 介	小 栗 風 葉	七四	小	二四	新 潮 社	〇五

小説入門 (文藝研究叢書 第二編)	德田秋聲	七四	小中	一八三	春陽堂	〇五〇
神經病時代 (新進作家叢書 第十二編)	廣津和郎	七四	小中	一六六	新潮社	〇四〇
大菩薩	中里介山	七四	小中	一五五	玉流堂	〇七五
日本漫畫道中見物	彌次多野	七四	小	二四九	中央出版社	一三〇
叛逆者 (有島武郎著作集 第四輯)	有島武郎	七四	小中	二四九	新潮社	〇五五

日本圖書協會 選定圖書目錄 合冊

定價 金壹圓七拾錢
郵稅 金八錢
全一冊 菊判 四六〇頁

日本圖書館協會選定新刊圖書目錄第一卷より第三卷までを合冊整理し分類別に排列したるもの、著者本名雅號一覽表を附す

右發行以來好評を博し殘部少數と相成り候に付御希望の向は此際至急發賣所東京市神田區神保町東京堂(振替東京二七〇)へ御申込下され度候

日本圖書館協會編輯部

大正七年六月十八日印刷納本
大正七年六月二十日發行

東京市四谷區谷町一丁目拾八番地
編輯兼發行者 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 連太郎

東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
印刷所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
發行所 日本圖書館協會編輯部 (一ヶ年前金壹圓郵稅不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第七卷

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
意外録	和田垣謙三	七五	小	二九	南北社	一三〇	隨筆	隨筆
潮來と鹿島香取	高塚丑之助	七五	小	一三	東京堂	〇〇〇	地誌	潮來及附近
胃腸の一年	湯川玄洋	七五	小	四三	弘學館	一三〇	醫學	胃腸病
精神逸話の泉	高島平三郎編	七六	小	四七	洛陽堂	一五〇	倫理	逸話
象記	厨川辰夫	七六	小	四五〇	積善館(大阪)	一五〇	地誌	米國
養世の渡り	方山田善三	七四	小	二五	朝野書店	〇六〇	倫理	修養
大坂陣前篇	福本誠	七五	小	三〇	南北社	一三〇	歴史	日本歴史

△………専門的のもの
×………卑近のもの
其他は………一般的のもの

大 四六二倍以上
中 菊六判
小 菊四六判
菊判半載以下

諸家の文書秘録より公私の成史、戦記に亘り多年の研鑽を経て大阪陣の真相の一斑を闡明す。
 品種 蠶の遺傳講話 外山 龜太郎 七五 中の 二六 弘學館 二〇〇 農業 蠶業
 蠶の品種改良上多大の成績を擧ぐるを得たる實驗研究の結果を公表したるもの。

教科學生の日本地理 三省堂編 七五 中の 二四〇 三省堂 〇五〇 地誌 日本地誌
 圖表、表解等多し中等學生の復習に適切。

各國流行玩具圖解製造法上卷 佐瀨 文哉 七五 中の 四四 目黒分店 二〇〇 工業 玩具
 木、金屬及び布製玩具の製造法を圖解す、大部分は著者の實驗に基きたるもの。

強肺法 (健康法研究叢書) 竹中 繁次郎 七五 中の 八五 新橋 堂 〇三〇 醫學 衛生—肺
 深呼吸、體操、寒冷應用、游泳運動、旅行及び登山等による強肺法を平易に講述す。

近代名著評釋 (文藝研究叢書) 本間 久 七五 中の 一九 春陽 堂 〇五〇 文學 西洋文學
 ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ、フロオベール、モウパッサン、イブセン、オスカア・ワイルド及びメエテルリ
 ンクの代表的作物を評釋す。

金融經濟論 飯島 輔司 七五 中の 三三 寶文館 一八〇 經濟 金融
 神戸高等商業學校に於て教授せる講義草稿の一部分を多少通俗的に書き改めたるもの。

桂月學生文範 下編 大町 芳衛 七五 中の 四六 實業之日本社 一〇〇 語學 日本語—作文
 本編には議論文、抒情文、新體詩、小品文を收む。

刑法總論及び各論の大要 要泉 二 新熊 八版 七五 中の 四七 有斐閣 二七五 法律 刑法
 刑法總論及び各論の大要。

化粧と着付 着付 遠藤 波津子 七五 中の 一六 阿蘭陀書房 一七〇 家事 化粧
 化粧と着付を職業とする著者の實際上の經驗を述べたるもの。
 劍聖 宮本 武藏 長田 權次郎 七五 中の 三六 白水社 一三〇 傳記 宮本武藏

劍より道に入りたる覺者としての宮本武藏傳、粉飾を排し眞を傳ふ。

公民年鑑 大正七年 帝國教育會編 七五 中の 五九 南北社 〇五五 雜年 年鑑
 皇室、土地、氣象、人口、官廳、帝國議會、外交、兵事、地方制度、財政、教育、神社及宗教、裁判、登記、戶籍、監獄、警察
 土木、衛生等に關する年鑑。

受驗國語漢文故事熟語解釋法 木下 茂雄 七五 中の 三三 泰山房 〇八五 語學 漢日—日本語
 參考國語漢文故事熟語解釋法 小中村 清名 七五 中の 三三 泰山房 〇八五 語學 漢日—日本語
 受驗參考とると同時に中等諸學校生徒の國語漢文故事熟語辭典と云ふを得べし。

官立學校國語問題模範詳解 遠山 操編 七五 中の 四七 東華堂 〇八〇 語學 日本語
 最近十年間の試驗問題を解釋す。

根本佛教講話 保坂 玉泉 七五 中の 四五 中央出版社 一七〇 宗教 佛教
 佛教の根本哲理及教説を比較的平易に講話體にて解説す。

最近乾式試金術 米、フルトン 永野 英輔譯 七五 中の 四三 老鶴園 三〇〇 工學 試金術
 金銀白金屬元素及其他の卑金屬を包括し諸家の所説に自己の斬新なる研究を加へて之を井然たる排列の下に統一し能く試金術
 の要綱を盡せり。

三角法 (初等數學叢書) 森 吉太郎 七五 中の 三五 大倉書店 〇四〇 數學 三角法
 三角形の性質、三角形の解法及測量上の應用。

誤り易き算術問題の解き方 菅 隼人 七五 中の 三五 精文館 〇六五 數學 算術
 考へ難き算術問題及び既往十五六ヶ年間の試驗問題中より困難なる問題を抜きて解釋す。

自りーダー研究 三卷〇の部 正則 英語研究會編 七五 中の 三六 日進堂 〇六〇 語學 英語—讀本
 自りーダー研究 五卷〇の部 正則 英語研究會編 七五 中の 三六 日進堂 一〇〇 語學 英語—讀本
 神田、岡倉、上條諸氏著述のリーダーを忠實に註解したるもの。

實驗自宅療法 本草研究會編 七五 中の 三二 文永堂 〇六五 醫學 治療法

藥草木による諸病の治療法を平易に述ぶ。

實驗 蠶の遺傳 外山龜太郎 七五 中 一八〇 二 松堂 二〇〇 農業 蠶業
日本種蠶、支那種蠶、歐洲種蠶に實驗遺傳學を應用し、各性質の遺傳の現象に就き實驗して得たる結果を基礎とし、蠶其他の動物の改良實驗を成せる顯著なる好成績を發表す。

實習佛蘭西文典 內藤 潤 七五 小中 二四三 佛蘭西學會 一〇五 語學 佛蘭西語—文典
過去八年間實際の授業に試みたる材料を整理しそれに多少の新材料を加へて編纂せる中級程度の文典。

兒童研究所紀要 第一卷 兒童研究所編 七五 大 三四 兒童研究所 一〇〇 教育 兒童研究
小學兒童の智能査定の研究(久保良英)學校衛生より見たる胸廓横断面の研究(三田谷啓)其他海外新著論文抄録等あり。

自動車 柴藤 管一 七五 小 六六 極東書院 三五〇 工學 自動車
多くの自動車を彙集分類し其代表的のものについて一般的説明を加へたり。

周易 講義 根本 通明 七五 中 六八 近田書店 四〇三 哲學 易
故著者の東京帝國大學に教授する傍ら私塾に於て初めて易を學ぶ者の爲に講述したるを速記者をして速記せしめたるもの。

趣味の動物 谷津 直秀 七五 小中 二四 實業之日本社 〇〇六 理學 動物
奇鳥ツーカーン、奇獸オカビ、兩手に武器を持つて居る蟹、赤坊を抱へて飛ぶ南洋の蝙蝠、裝飾用の植物に似た動物、雁の實る木、人間の親類に當るツバイヤ等。

紙庫 三宅雄二郎 七五 小 四三 耕文堂 一〇五 文學 論 説
世界の大勢、敏活と人物、社會と生活、風教、修養に關する著者の論文を蒐む。

小品文作法(新文章速達叢書) 第三編 德田 末雄 七五 小中 三〇〇 止善堂 〇〇五 語學 日本語—作文
文章の根本目的、意義より筆を起し順次小品文の内容技巧等の細かなる方面の説明に進む。

野菜果實 國濱 物法 奥村繁治郎 七五 小中 四三 大倉書店 一〇三 家事 料理
會津三五八漬、瓜の祇園漬、辛皮の味噌漬など珍らしき漬物仕方もあり。

新英文解釋 清水 起正 七五 小 四七 北星堂 一三三 語學 英語—英文和譯

英米諸大家の英文、現中學英語教科書及び既往の官立學校入學試験に出でたる英文和譯問題を集め、之をその中に含むイデオ

ムを基礎としてABC順に排列し、終りに之に對する譯文及び註釋を附したり。

文話新 作 文 大町 芳衛 七五 中 七六 大倉書店 二〇三 語學 日本語—作文
前編には文話を載せて文章の大要を説き後編には記事文、敘事文、抒情文、敘景文、議論文、解説文、儀式文、雜文の實例を載

せたり。

新幾何學 精講 根津 千治 七五 小中 三五六 日進堂 一三〇 數學 幾何學
幾何學を最も呑み込み易きやうに講述す、獨學者の良師友。

新算術 精講 根津 千治 七五 小中 三九三 日進堂 一〇〇 數學 算術
最も簡單明瞭に通俗的に算術を講述す。

新代數學 精講 根津 千治 七五 小中 四四〇 日進堂 一三〇 數學 代數學
初等代數學の全般を成るべく初學者に了解せらるゝやうに述べたるもの。

手数の新式珠算 小栗 孝三 七五 小中 三四 日進堂 〇八〇 數學 珠算
速算法は筆算に於けると同一の運算方法に依るが故に從來の如く除法に割り九句を記憶するの必要なし。

新書簡文作法(新文章速達叢書) 水野 盈太郎 七五 小中 二〇〇 止善堂 〇〇五 語學 日本語—作文
書簡文を書く時の心持、態度等を説く事に力を注げり。

人哲學 茶話 高橋 五郎 七五 小中 三六五 大鐘閣 一三三 隨筆 隨筆
世界一演劇揚、心配は猫をも殺す、機智靈才、言語は文明史、宇宙觀及び世界觀、革命と民主主義、昇天の奇蹟、酒の仙味、信

仰は山をも移す、人間の運命、心靈哲學等百數十題あり。

心靈現象の問題(近世心理學文庫 第四卷) 小熊 虎之助 七五 小中 三五六 心理學 研究會 二〇〇 哲學 心理學
精神交感現象の實驗、自然的なる精神交感現象、死後の生活の問題、物理現象問題、千里眼的能力の問題、日本に於ける透視と

念寫等に就ての説明。

生命の不可思議 獨、ヘッケル 七五 小の 西三 玄 黃 社 三〇 理學生 命
 生命現象を物理化學的現象として研究説明す、從て細密なる有機化學上の問題に觸れたり。
 戦後經營の大綱及び外交、經濟、産業、教育、社會、家庭生活に對する諸大家の意見を蒐む。
 萬延第一遣米使節日記(原名航) 村垣 範正 七五 中 三五 日米協會 二五〇 歴史 日 本 史
 萬延元年日米兩國批准の條約を交換せんが爲に副使として華盛頓に派遣されたる著者の出發より歸航までの見聞日記。
 大 愚 良 寬 相馬 昌治 二版 小の 六九 春 陽 堂 二〇〇 傳説 良 寬
 良寛和尚の「人」としての方面の研究と味索の結果を纏めたるもの。
 泰西の繪畫及び彫刻 第五卷 洛陽 堂編 七五 中 一七〇 洛陽 堂 二四〇 美術 美 術
 上古編 本村莊 八解説 七五 中 一七〇 洛陽 堂 二四〇 美術 美 術
 エヂプト、ギリシア、イタリヤの上古に於ける繪畫と彫刻數十圖を收む。
 體操教授の革新(自動主義教育) 自動教育研究會編 七五 中 三〇〇 明 誠 館 〇七〇 教育 教授法—體操
 現代體操教授法を改め自動主義教育の根本原理に基きて合理的進歩的時代的なる教授法を述ぶ。
 大 藏 經 要 義 第八卷 本多 日生 七六 中 四三〇 博 文 館 一八〇 宗教 佛 教
 大方廣佛華嚴經の詳細なる講述。
 大 日 本 主 義 上 泉 德 彌 七五 小の 二七〇 廣 文 堂 一三〇 政治—政治—論 說
 建國の大精神、國體論、三大強國の三政策、大戰の教訓と交戦國民、我國民の情眼覺醒と國難論、帝國の人口問題と大亞細亞主
 義、軍國組織の整齊等を論ず。
 算 珠 算 自 修 詳 解 倉澤 實 二 七五 小の 四三〇 二 松 堂 一三〇 數學 珠 算
 算珠と珠算とを對照して加減乗除の運算を説明し且開平開立は圖解と對照して解説を加へたり。
 白 中 學 漢 文 集 成 第二年度 日本漢文學會編 七五 小の 二六〇 正 光 館 〇七〇 語學 漢 語
 主として中學程度の諸學校に現に採用せらるゝ漢文教科書中に收められたる、漢文、漢詩、格言を採録せり。

中流生活の改造 西村 才助 七五 小の 三二〇 實業の日本社 〇八〇 社會 生 活
 中流階級生活狀態の缺陷を指摘し其改造を論ず。

通 鑛 山 事 業 物 語 窪 田 重 式 七五 小の 三三〇 東 亞 堂 一五〇 工業 鑛 山
 著者が鑛山生活約一年間の實見聞並に感想を成るべく學術語と學理を退けて極めて平凡に書きたるもの。

出世使ふ人使はれる人 安田 善次郎 七五 小の 三三〇 泰 山 房 〇八五 倫理 教 育
 店主、店員及び主婦の心懸けを平易に述べたり。

土の哲學と 德 富 健 次 郎 池 田 林 儀 七五 小の 三三〇 大日本雜辯會 一三〇 文學 德富健次郎
 信仰生活 主として德富蘆花の思想に對する評論。

△土 木 工 學 上 卷 川口 虎雄 等 二版 中 三三〇 丸 善 三〇〇 工學 土 木 工 學
 靜力學、結構應用、水力学を講述す、豫備數學として解折幾何學及微積分學の大意も載せたり。

トルストイ日記(人と藝術叢書) 露、トルストイ 昇直 隆 譯 七五 小 三三〇 新 潮 社 〇六〇 文學 トルストイ
 トルストイの高弟チエルトコフ編纂の下に一九一六年モスクワにて出版されたるトルストイの日記第一卷を抄譯したるもの。

日 用 手 紙 辭 典 小林 雅堂 編 七五 小 四八八 中央出版社 一三〇 語學 日本語—作文
 日常必要な手紙の用語類句を二十六章に分ちて掲出し尙古今名士の模範文を附す。

日 蓮 主 義 概 論 小林 一 郎 七五 小の 六九〇 大 同 館 一七〇 宗教 日 蓮 宗
 主として日蓮宗の教義に關する論評。

美 點 弱 點 日 本 研 究 大町 芳 衛 編 七五 小の 三三〇 日 本 書 院 一三〇 心理 民族心理—日本
 長所短所 日本人の性質、特色、日本趣味の特長、日本民族の特性、愛國的精神と志士の心理、日本魂、日本人の缺點、武士道、進取的國
 民として的一大弱點、日本特有の文化等に關する大家の論文等を集む。

日本國民と觀世音菩薩、及觀音經 醍醐 惠 端 七五 小の 二六〇 明 誠 館 〇九〇 宗教 佛 教
 觀音菩薩に對する論文と觀世音普門品の講述との二編よりなる。

乳兒の育て方 太田 孝之 七五 小中 三八日進堂 一五 家事育 兒

眼目として専ら現代の小兒科學の精緻なる進歩を基礎の知識とし、平易に明快に育兒の學理並に技術を説明す。

日々俳句と文章 中内 義一 編 七五 小中 七英 日本書院 一四 語學 日本語作文

名家の文章と俳句を三百六十五日に排列す。

俳句の考へ方原 鼎 七五 一小 一六〇 天地書房 一〇〇 文學俳 句

例句を多く引きて俳句の練習法を説きたるもの。

肺病全快の秘訣(實驗健康叢書) 栗本 東明 七五 小中 一三五 新文館 〇六〇 醫學肺 病

凡ての方面より肺結核全治の方法及豫防法等を通俗的に説明す。

肥後の菊池氏植田 均 七五 一中 一六六 嵩山房 一六〇 傳記菊池 氏

史蹟を踏査し文献に徴し傳聞に考へて菊池氏累世の事蹟を詳叙す。

詳解文章軌範 大町 芳衛 七五 一小 一六八 止善堂 一五〇 文學漢 文

一文毎に譯文、語解、解釋を附す。

ペートル大帝(英傑傳叢書 第五編) 昇 直 隆 七五 一中 一四三 實業之日本社 二〇〇 傳記ペートル大帝

偉大なる改革者の複雑なる人格と多端なる業績とを描くに當りて、その長所と共に短所をも忌憚なく指摘す。

辯護士列事 試驗 答案 金城 善助 編 七五 一中 一三六 帝國法科學報社 一三〇 法律 律

合格者の答案數種を集む。

趣味と研究 佛様の戸籍調べ 醍醐 惠端 七五 小中 一五三 二松堂 一〇〇 宗教佛 教

とに基ける 阿彌陀如來、愛染明王、阿修羅、閻魔大王、庚申様、吉祥天、孔雀明王、觀世音菩薩、俱利伽羅明王、十六羅漢と五百羅漢、牛

頭天王、金剛夜叉明王等百餘佛の戸籍を滑稽趣味を以て綴れり。

魔海横斷 記 加藤 久勝 七五 小中 一四八 大江書房 一〇〇 地誌紀行 外國

著者が神通丸船長として地中海其他の危險海を驅駛せる見聞、感想を述べたるもの、文に興味あり。

模擬體操の實際 二階堂 トクヨ 七五 小中 一五二 教育研究會 〇五 教育體 操

男女幼學年兒童に科すべき模擬體操の研究。

作法用模範作文辭典 作文研究會編 七五 小中 一五五 元文館 一三〇 語學 日本語作文

問答法の研究 山田 秀作 七五 一中 一三三 金港堂 一三〇 教育教 授 法

學校に於ける教授の實際に緊要なる問答法の研究。

よい文悪い文(文章入門叢書 第三編) 金子 雄太郎 七五 小中 一四〇 新潮社 〇元 語學 日本語作文

前編よい文章に於ては現代諸名家の文章の中より最も文格正しく修辭の妙を極めたるものを選んで丁寧深切なる評釋を加へ後

編悪い文章に於ては疵瑕の多き文章を擧げて其直し方を示せり。

料理小説集 吉田 靜代 編 七〇 小中 一三三 陽堂 〇六〇 家事 料 理

現代名家の小説より喰物の條を採萃しそれに關する料理法を記述す。

倫敦名所圖會 伊地 知純正 七五 一中 一五五 研究社 一〇〇 地誌倫 敦

倫敦に關する寫眞百四葉を集め説明には英語を交へ和譯の附して無きところ多し、又卷末には英語の索引あり。

×わが子の金錢教育 籠 三郎 七六 小中 一三五 實業之日本社 〇六〇 教育家庭 教育

主として米國の州立師範學校教授キルクバトリック氏の金錢の活用といふ本によつて編纂せるものにて所説平易。

若き友へ 與謝 野晶子 七五 小中 一三六 白水社 一〇〇 文學 日本文學文集

最近一年間著者の雜誌等に發表せる感想の中より若き婦人向のものを選擇し訂正せるもの。

和文英譯 浮世籠岩 堂 保 七五 一小 一三五 英語精習社 〇八五 語學 英語和文英譯

和文英譯上達法を附す。

洋袋物細工新書 村井 秋翠 七五 一中 一三三 忠文堂 一〇〇 家事手 藝

製作品は和式洋式及び新案編出の三様式より成り總て新形のもののみなり。

我は斯く信ぜず 三並 良 七五 小中 一三七 統一教會 一〇〇 宗教基 督 教

統一教會に於ける講演の筆記、雜誌に載せたる論文等を收む基督教に關するもの多し。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
稽古 伽旅行	中部地方 藤川 淡水	七五	小中の	二五	敬文館	〇七		
少年 面白い手紙の文	山内 秋生	五五	小中の	三〇	手紙研究会	〇五		
怪光 船 <small>(お伽文學 第九篇)</small>	水田 冷みつ	七六	小中の	三三	寶文館	〇三		
學校唱歌 お伽 高橋 淡水	七五	小中の	二四	甲陽堂	〇五			
學力は文章から	土井 寛治	七五	小中の	二〇	寶文館	〇五		
中學の下級程度以下に適する作文書、東京市内各小學校兒童文集を附す。								
興國課外讀本	尋常第一學年 興國教育研究会編	七五	一中	三	明治出版社	〇三		
興國課外讀本	尋常第二學年 興國教育研究会編	七五	一中	三	明治出版社	〇三		
尋常課外讀本	第一學期 葛原 函編	七五	小中の	二〇	博文館	〇六		
尋常課外讀本	六月の卷 葛原 函編	七六	小中の	二二	博文館	〇六		
尋常課外讀本	六月の卷 葛原 函編	七六	小中の	二〇	博文館	〇六		
尋常課外讀本	六月の卷 葛原 函編	七六	小中の	二〇	博文館	〇六		

新約物語	野邊地 天馬 <th>七六 <th>小中の <th>二六 <td>丁未出版社</td> <td>二五</td> <td></td> <td></td> </th></th></th>	七六 <th>小中の <th>二六 <td>丁未出版社</td> <td>二五</td> <td></td> <td></td> </th></th>	小中の <th>二六 <td>丁未出版社</td> <td>二五</td> <td></td> <td></td> </th>	二六 <td>丁未出版社</td> <td>二五</td> <td></td> <td></td>	丁未出版社	二五		
世界童話集 西洋の巻	榎本 秋村	七五	小中の	四一	實業之日本社	一〇		
世界の千山萬水 <small>(趣味の地理 第二編)</small>	島田 規一	七五	小中の	二六	博文館	〇三		
空とぶお城 <small>(お伽文學 第八編)</small>	水田 冷みつ	七五	小中の	三三	寶文館	〇三		
帝少年讀本 <small>(尋常科 第五學年前期)</small>	小久留 武彦	七五	一中	二六	教育研究会	〇三		
兒童ものがたり	横尾 眞琴編	七五	小中の	一四	教文館	〇六		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
明ゆ く	路野村 愛正	七五	小中の	三三	新潮社	一〇		
井上 侯全傳	伊藤 痴遊	七五	一中	五五	文堂	一五		
荆棘の路	相馬 泰三	七五	小中の	四四	新潮社	一四		
學生時代	久米 正雄	七五	小中の	三七	新潮社	一〇		
孔雀 草後編	佐藤 紅綠	七五	一中	三五	誠堂	一〇		
黒水 晶後編	渡邊 霞亭	七五	一小	三三	誠堂	一〇〇		
櫻の家	後編 佐藤 紅綠	七五	一中	三三	誠堂	一〇〇		

英語の謎の謎 江副 秀喜 七六 小一 研究社 〇四〇 語學英語

英語和譯 捷徑 崎 芳松 七六 小中 敬文館 〇七五 語學英語—英文和譯

大石良雄言行錄(修養史傳) 高橋 立吉 七六 小中 東亞堂 〇三三 傳記 大石良雄

應用英文解釋 法深 澤由次郎 七六 小中 有朋堂 二五五 語學英語—英文和譯

海外發展 指針 日本移民協會編 七六 小 東洋社 〇四四 經濟移民

海洋と船 船永 嶺忠 宜 七六 中 集萃社 二二三 經濟海運

化學實驗法詳解 高橋 竹治 七六 中 寶文館 一七〇 理學化學

科學の生んだ獨逸の富強 河南 休男 七六 小中 東洋出版社 一〇〇 產業獨逸

學校へ入れる迄の教育 桂田 金造 七六 小中 成蹊學校 一〇〇 教育家庭學育

兒童が學校へ入學するまでの母親の覺悟と教育の大切なる所以を平易に述ぶ。

東京各大學 生雄 辯集 誠文堂 編 七六 小中 誠文堂 〇四〇 文學演說

鹿兒島縣政 黨 薩藩史料調查會編 七六 小中 薩藩史料調查會 一〇〇 政治政治—政黨

家庭園藝 十二ヶ月 上卷 千葉 胤一 七六 小中 大阪屋號 〇九五 農業園藝

片手間で家庭養鶏法 大松 清次郎 七六 小中 天才社 〇七五 農業養鶏

株式會社會計 佐藤 雄能 七六 中 同文館 三三〇 商業會社

關稅及稅關 綿貫 次郎 七六 中 寶洋行 三〇〇 經濟關稅

官吏學 第一卷 星 一 七六 中 有斐閣 六〇〇 政治官吏

汽車の窓から 谷口 滿雄 七六 小 博文館 一五五 地誌紀行—日本

純粹實踐性の原理論と方法論なり、カントが内外兩面の生活を叙せる序説あり。

△カン實踐性批判 宮本 和吉 譯 七六 中 岩波書店 二五五 哲學哲學

本卷に於ては主として日本及支那の歴史及法制上の官吏を論ず。

車窓より見ゆる景觀に就て地理歴史産業交通等を説き更に主要なる名勝都市等に就ては汽車を降りて案内する形式にて記述す。

通俗奇問 正 宮武 外骨 七六 中の一 三七 武堂 一三五 哲學心理

通俗心理に關する興味本位の問答集。 教育者のための哲學 稻毛 金七 七六 中の一 五八 大同館 一六五 哲學

哲學が特に教育者に必要な所以を明らかにし、哲學に關する一般概念と教育哲學に關する一通の説明を試む。 曲水俳句鈔(曲水文庫第四編) 渡邊 義編 七六 中の一 九五 曲水吟社 〇五〇 文學俳諧

雜誌「曲水」に發表したる句を選抜したるものを主とす。 近倫理學大集成 藤原喜代藏編 七七 中 八五 中興館 三〇五 倫理學

最も理解し易き體系により諸學者の學說を集成して倫理學に關する概念的知識を修得せしむるを目的とす。 現代文化の哲學 野村善兵衛 七六 中 四四 大同館 一六〇 哲學

文化の根本方向としての自由を論じ現代の政治、教育、宗教を批判す。 △鑛業分析 第一卷 野村 堅 七七 中 三三 日本鑛業新聞社 三〇五 工業鑛業

鑛業分析の目的及び順序、分析に必要な器具及び装置、試料採探法、秤量法、分析方法の分類、重量法、容量法、電解法、鑛業分析用藥品、規定溶液、標準溶液及び元素特論等。 國詩選集 東京日日新聞社編 七六 中 一四 東京圖書刊行社 〇六〇 文學新體詩

國詩とはわが國語を以てせる新しき詩の謂なり、東京日日新聞社の懸賞募集に當選せる佳作を集む。 △債權各論 末弘 嚴太郎 七六 中 二六 有斐閣 六〇〇 法律民法

民法第五百二十一條乃至七百二十四條の法規を中心として各種の債權發生原因を研究するを目的とす分冊を合したるもの。 合三太郎の日記 阿部 次郎 七六 中 七三 岩波書店 一八〇 文學 日本文學一雜誌

三太郎日記第一第二の本文にその後のものを集めたる第三を加へて合本したるもの、著者の感想文、短篇等を收む。 自然の詩趣 大町 芳衛 七六 中 三六 日本書院 一三〇 文學 日本文學一文集

春の情趣、月前の梅、春月、場末の春月、月下の白梅、閑庭の春、春雨、春信より新綠、朝顔の花、草の山、秋の夕暮、兎狩の

一日、冬の池等自然に關する著者の文集。

△質點及剛體の力學(理論物理) 玉城嘉十郎編 七六 中 二九 老鶴閣 三〇〇 理學物理學

京都帝國大學に於て講義したる原稿を増補訂正したるもの。 融合實用數學 四野 宮朝治 七六 中 三〇 博文館 〇五五 數學數

複雑なる幾何學問題を解く方法の一斑を示したるものにして、算術的に解くものと代數的に解くものとの二つに區別せり。 支那と米國との關係 佐原研究室編 七六 中 五三 東方時論社 三〇五 政治政治支那

米國極東政策の由來、米國の支那に於ける傳道事業及び支那と米國との經濟關係に就て必要な資料を蒐集し編纂せるもの。 支那漫遊記 德富 猪一郎 七六 中 五五 民友社 三〇五 地誌紀行外國

大正六年九月乃至十二月に亘れる行程を其日々に記したるものと、旅行中の感想を歸朝後追記したるものととの二部に分る。 書簡文の準備(文藝研究叢書 第五編) 長田 幹彦 七六 中 二五 春陽堂 〇六〇 語學日本語作文

日用の手紙と文學的の手紙の書き方を説き各名家の模範文を掲ぐ。 商業簿記早わかり 遠藤 高之丞 七六 中 三八 泰山房 〇九五 產業簿記

自修者のために複記式商業簿記に就いて平易なる説明を試みたり。 史話と文話 萩野 由之 七六 中 三五 博文館 一八〇 歷史文學日本文學

國史、國文に關する雜說五十篇を輯む。 ×新考へ物一千題(家庭娛樂全集 第二編) 東 亞 堂 編 七六 中 一六 東亞堂 〇五五 諸藝娛樂考へ物

清新にして興味深き廣き範圍の題材を選びたり。 人性論 英、ヒュム 七六 中 三六 阿蘭陀書房 一七〇 哲學哲

第一卷認識論の部の翻譯。 人道主義(杜翁思想普及叢書 第五卷) 露、トルストイ 七六 中 六六 弘學館 一三〇 哲學哲

新 日 本 見 物 文 淵 堂 編

臺灣、樺太、朝鮮、滿洲、青島への紀行文と繪畫とを集む、執筆者は、島村抱月、巖谷小波、石川寅治、安田稔、河東碧梧桐、中澤弘光、稻葉君山、中川八郎、澁川玄耳、前問恭作の諸氏なり。

△森林土木工學全書 第四卷運材

陸運、架空道運搬法、水運、木材の貯藏、堰及放流堰に就て説明せり。

縮 隨 想

縮刷と同時に全篇の文章に加朱改修したるところ多し。

鉛筆スケッチ 畫集

手と眼と記憶の豫習、最初の歩み、鉛筆の特質と其應用、風景、人物、建築、鳥獸、花卉、夜間の描き方、淡彩の設し方等に就きて平易に述ぶ。

進むべき俳句の道

ホトトギス雜誌を作者別にして評論す。

性的進化論講話

前世紀に於ける諸動物の性的生活、繁殖作用に表れたる基本的現象、動物に於ける性の生活の一般的現象、諸動物に於ける性の生活、人類と性の生活等に就て論述せり。

西 洋 通 史

卷末に百六十餘頁を附録として一九一五年十月以後に於ける大戦役の概況を陸戦、海戦、交戦列國の國情、參戰列國の國情の四章に區分して簡明に記述したり。

青

鳴の聲、新緑の頃、静寂の迫る日、哀しき音響機、死に面して、死顔、萬年青の實、矮鶴、海の光等の短篇を集む。

世界風俗奇譚

世界各國の風俗中最も奇絶快絶なるものを選びて叙述す。

六

禪 學 要 義

禪の淵源、系統、概念、教理、坐禪、禪と道德、禪の語頭、鍊心の工夫及び禪の應用に就て通俗的に説明す。

全國株主要覽

全國三百五十三會社の株主名簿より五十株以上を書抜き之を合計して三百株以上の持主を掲載せり。

戰時及戰後の米國

米國建國の由來と政治組織、教育制度、財政と殖産興業、國防と海運、戦後の米國等に就て著者が彼地に於ける視察を基礎として論述す。

戰時經濟百面觀

戦局の前途と經濟策、米國の戦時氣分、英伊の戦時戦後貿易、所謂銳意折衝の結果、戦争離れせる經濟會議、哺育中の日本染料、航路補助の整理案等百題を收む。

戰爭・平和及將來

原名を國家主義と世界主義及び婦人對戦争に關する考察と云ふ。

旅を顧み

南總大原より、日光に遊びて銚子の名勝と傳説奇聞と、富士より御嶽へ、上州館林より妙義山等。

球の突き

球を突く用意、注意すべき點其他の問題を親切平明に記述せるもの。

智能相關の研究

相關々係、相關體系とその決定法、實驗結果、學料の相關、智能の評價及びその相關論的觀察。

註解新和文英譯

高等專門學校入學希望者の自修用、又は中學上級生が教科書以外の英作文練習用。

中 學 新 書

翰今村勝一 七六 仲の 二六六 大阪屋 〇八五 語學 日本語一作文

中學生徒の日常生活並にこれに關係せる材料を主とす、著者の教授し來りしものを取捨選擇せるもの。

笑ひながら **中等算術** 下編 中村 八郎 七六 小中の 三八 實業之日本社 〇七五 數學算術
奇數偶數、公約數、公倍數等より歩合算までを漫畫を挿みて問答體に面白く講述す。

必らず **貯金の秘訣** 而立庵 主人 七六 小中の 二三 甲陽堂 〇三三 經濟貯金
出來る貯金の出來る秘訣として餘裕を産むこと、適切なる貯金法を行ふこと、貯金の知識を有すべきことを説く。

社會通 **俗講話** 加藤熊一郎 七六 一 三八 文盛堂 一七〇 教育・通俗教育
處世と修養に關する通俗講話の筆記の内最近に屬するものを集む。

△定性分析教科書 英、トレッドウエル 七六 一 七三 共益商社 六〇〇 理學化學
金屬類の諸反應、硫化水素屬、非金屬元素の諸反應、稀金屬類の諸反應と分析順序に就て詳述せり。

鐵と石炭 (通俗大學文庫) 石木 惠吉 七六 小中の 一〇〇 通俗大學會 〇六〇 工學鐵、石炭
世界及日本の石炭と鐵に就て概略説明し、石炭代用物を研究す。

獨逸は何故敗けぬか 米、セラード 七六 一 四〇 大日本文明協會 二二〇 政治獨逸
著者が駐獨米國大使として伯林にありし四年間の見聞を基礎とし、公平無私の態度を以て獨逸を評論し其戦争に強き所以を明
にす。

東洋歴史集成 中巻 櫻井時太郎編 七六 一 七四 隆文館 三六〇 歴史東洋歴史
中古史の三國、晉、南北朝時代より、近古史の第一期五代に至る。

圖書館教育 中 敬 七五 一 三九 同文館 一〇〇 教育圖書一館
圖書館教育の意義を論じ學校教育、社會教育と圖書館との關係を詳説し、終りに教育機關としての圖書館の任務を明かにし其
の教育的効果を論定す。

南方帝國論 松本 敬之 七六 小中の 二二 縱横社 〇七〇 政治政論
比律賓群島及び蘭領東印度諸島に於ける日本の使命を論ず。

日本乎英國乎 楊子江流域と日英の勢力 日 高 進 七六 一 四三 東方時論社 三六〇 經濟經濟—楊子江
楊子江流域に於ける日英の政治的、社會的勢力、日英銀行及び投資機關、日英の鐵道利權、楊子江の航運と日英の勢力、楊子江
流域の紡績業と日英の勢力、鎮山利權と日英の勢力、日英の商權等を詳論す。

日本基督教史 下巻 山本 秀 煌 七六 小中の 五三 洛陽堂 二八〇 宗教基督教—史傳
關ヶ原戰役時代より徳川中世までに起りたる基督教上の重なる事蹟を叙す。

△**日本相續法註釋** 上卷 柳川 勝二 七六 一 六六 巖松堂 三三〇 法律民法
我相續制度の研究を目的とせるも歐米諸國の主要なる法制を比較究明せるところも多し。

日本淡水生物學 上卷 川村 多實二 七六 一 三三 裳華房 三三〇 農業水産
上卷は大部分を淡水産藻類及び動物の分類記述に充てたり。

日本の天惠 (通俗大學文庫) 第十編 稻垣 乙 丙 七六 小中の 八 通俗大學會 〇六〇 農業農業氣象
日本の農事と天惠、各地方の天惠の度、年内に於ける雲量の變遷、部分的天惠と綜合的天惠及天惠と吾人の覺悟等を述べ。

白隠珍話 (珍話叢書) 第四編 羽場 愚道 七六 一 三三 大文館 〇七〇 宗教白隠禪師
滑稽諧謔を以て人を遷善感化せしめたる白隠禪師の教化事蹟。

△**發生爐** 瓦 斯井坂 鶴一 七六 一 三七 富山房 二八〇 工學瓦斯
工業瓦斯燃料に關する一般的知識の普及を目的とす。

判決要録 第八卷 法律新聞社編 三版 中の 一〇三 法律新聞社 三三〇 法律判決例
大正六年一月より十二月までの法律新聞に掲載せる大審院、各裁判所、行政裁判所の判決、決定、司法省訓令、回答及び法曹會
議の要旨を各法令別に輯録す。

美人 傳長 谷川 康子 七七 小中の 六〇 東京社 二八〇 傳記日本人—婦女
英照皇太后、昭憲皇太后、九條武子、田澤稻舟、大塚楠緒子、富田屋八千代、プリンクラー稲子、橋本重子、欣々女史、日向き
ん子等の簡單なる傳記。

微積分學 初歩 佐藤 充 七六 小中の 七戸 凡社 〇五 數學 微積分學

舞臺觀察 手引 草杉 諦一郎 七六 小中の 四五 玄文社 二〇 諸藝演劇

和藤内(國住爺合戦)齋藤實盛(源平布引瀧)佐々木盛綱(近江源氏先陣館)松王丸(菅原傳授手習鑑)武藏坊辨慶(御所櫻川夜討)等の觀察方を初心者の手引として記述す。

分析 化學 下卷 松井 元興 七六 一中 二八 裝華房 二八〇 理學 化學

重量分析、容量分析、瓦斯分析の三編より成る。

△法律學說判例總覽 第四卷 高窪喜八郎編 七六 一中 二六 法律評論社 五八〇 法律法

本卷は民法債權編各論上とす。

△法律學說判例總覽 第七卷商 高窪喜八郎編 七六 一中 二六 法律評論社 三〇五 法律法

本編は商法施行以來現今に至るまでの商法總則に關する大審院以下各裁判所の判例要旨司法省訓令回答及法曹會決議の要旨法律雜誌其他に發表せられたる論文等を網羅す。

人及び藝術 正岡子規(最近日本文豪評)西宮 藤朝 七六 一小 二〇 新潮社 〇六 文學 正岡 常規

子規と其時代、事業、周圍、性格及び其態度、俳諧等を評論す。

明劇壇 五十年 史 關根 金四郎 七六 小中の 四四 玄文社 二八〇 諸藝 演劇

江戸が東京と改りてよりこのかたの演劇のことを年次に一貫して調査し發表す。

歌來野 鳥 語 櫻井 寅之助 七六 小中の 四八 寶文館 一八〇 地誌 紀行 外國

世界各人種の集り居る米國西海岸に於て我が同胞が受けつゝある比較試験の成績、歐州殊に英國の戰時狀態等に就ては最も力説せり。

維摩經の心髓 青木 得淨 七六 小中の 三〇 中央出版社 一〇五 宗教 佛教 經

維摩經の和譯に兼ねて講義と評論を試みたり所説平易。

樂天的日常生活法 青木 日陰 七六 小中の 二九〇 中央出版社 二一〇 倫理 修養

人の幸福を享受すべき道、成功に到達すべき方法等を平易に述ぶ。

理想國(縮刷プラトーン全集) 第二卷) 希、プラトーン 七六 一小 九六 富山房 二〇〇 哲學 プラトーン

卷頭に解題及び序論あり。

△坩堝製鋼と電氣製鋼 向井 哲吉 七六 一中 一五九 善二〇〇 工學 鋼鐵

特殊の製鋼術乃ち坩堝製鋼及び電氣製鋼に關する概要を記述せるもの、實際家の參考用。

列國の領土的並經濟的發展 滿川 龜太郎 七六 小中の 二九六 廣文堂 二二〇 政治 政治史 傳

英、獨、米三ヶ國の領土的發展を叙し、この三大強國と日本の地位、東亞の自給自足、大日本軍國主義等を論ず。

露西亞文明 記 今井 政吉 七六 小中の 四三三 大同館 二七五 地誌 地誌 露西亞

著者が滯露三年有半の見學を基礎として、特に露國社會生活の實狀、文明の眞相等を詳細に紹介す。

試験によ和文英譯正しき譯し方 大島 隆吉 七六 小中の 三〇〇 大修館 〇五 語學 英語 和文英譯

和文の組み立てと英文の組み立ての一致に就て著者が多年研究の結果を公にせるもの。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁數	發行所	定價	分類	件名
青島	船竹 久茂	七六	一冊	五五	實業之日本社	一〇〇	一冊	
給日本外史 第二冊	大町 芳衛	七六	一冊	三三	博文館	一〇〇	一冊	
伽算術學校三學年	山本 清月	七六	一冊	一七	修美堂	〇六	一冊	
伽四學年	藤川 淡水	七六	一冊	一〇	兒童出版社	〇〇	一冊	

少年集試	石安倍	季雄編	七七	小中	二五	研究社	〇七〇
三年課外讀	葛原	齒編	七七	小中	二〇	博文館	〇六六
四年課外讀	葛原	齒編	七七	小中	二〇	博文館	〇六八
五年課外讀	葛原	齒編	七七	小中	二〇	博文館	〇六八
六年課外讀	葛原	齒編	七七	小中	二〇	博文館	〇六八
寶の	藏幸田	露件	七六	小中	一九	春陽堂	〇六〇
ニココニ	双紙松山	思水	七六	小中	二四	實業之日本社	〇七〇
日本家庭昔噺	後編高木	敏雄	七六	小中	三四	敬文館	〇七〇
ひとりて算術の解き方	渡邊千代吉等		七六	小中	三三	中央補習教育會	〇六〇
木馬の踊	(お伽文庫第十篇) 馬淵	み冷つ佑	七七	小中	一三	實文館	〇三三
少女傑作	か	草安倍季雄編	七七	小中	二四	研究社	〇六〇

第三 小説及劇

鴛鴦	帳泉鏡花	七六	小中	三〇	止善堂	一五〇
返らぬ過去	白石實三	七七	小中	二八	春陽堂	一〇〇
虐げられし人々	(ドストエーフス) 昇直隆譯	七六	小	七六	新潮社	一五〇

大正七年七月十八日印刷納本
 大正七年七月二十日發行
 東京市谷區谷町四一丁目拾八番地
 總發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 印刷所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 日本圖書館協會編輯部
 (一ヶ月前金査圖郵税不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第五卷 第九號

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	大小	頁數	發行所	定價	分類	件名
愛する子の爲に	大橋橋涉	七七	一	中	二五	博文館	〇五五	教育兒	童
保護者、兒童、社會に對する訓話、兒童にふさはしい思想、余が教育に對する主張、蝦夷つ兒の眼に映じたる府縣教育の一斑等。									
赤石山脈縦横記	原口亨	七七	一	小	三〇	洛陽堂	一五〇	地誌山岳	
大正三年より六年までの日記に依りて赤石山系跋涉中の愉快、苦痛、困難、不案等種々なる經驗を叙す。									
赤ん坊の研究	西山哲治	七七	一	小	五	北社	一三〇	家事育兒	
五年間に亘る赤ん坊展覽會より得たる材料を以て各方面より之を觀察したるもの。									
新し英字	岩堂保	六版	一	小	三六	英語精習社	〇七〇	語學	英語—英文和譯
本版に於ては最近四ヶ年間に英語に加へられたる新字句を網羅せんことを主眼とせりと。									
縮維新史八講と徳川政教考	吉田東伍	七七	一	小	四六	富山房	一五〇	歴史	日本歴史
二書を合本して縮刷したるもの。									
海より山より	若山繁	七七	一	小	三三	新潮社	〇八五	地誌	紀行—日本
北國紀行、鹽釜行、津輕野、松島村、裾野、春の一日、立秋雜記等。									
異義英語の使ひ方	宇都宮浩	七七	一	小	三五	文會堂	一三〇	語學	英語—英文和譯
日用英語中使ひ方の多きものを選びその異義を文例によりて示せり。									

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 其他は………一般的目的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 菊判半載以下

衛生 百話 松下 積二 七七一 小中 醫學館 醫學衛生

簡易寫眞のうつし方 大塚 貞治 七七一 小 三三 崇文堂 美術寫眞 眞

義務教育費國庫負擔法精義 渡谷 德三 七七一 中 三六 寶文館 教育教育法規

希臘 紀行 濱田 耕作 七七一 小中 二六 大鏡閣 地誌紀行外國

大正四年五月より約二箇月間希臘及びクリト島を旅行せる當時記す所の日記を殆ど其儘之に若干の補習を加へたるもの。

△理論 近世色染法 第一編織物 原料篇 西田 博太郎 二版 中 六八 丸善 工業染色

二版に於ては世界に於ける、纖維工業の概勢と初版以來世に發表せられたる主要なる關係事項を加へたり。

空中 文明 井上 仁郎 七七八 小中 七五 兵衛館 工業航空機

陸軍航空機の名稱及區分、各國航空機の用途に關する稱呼等を講述す。

ゲーリー式學校組織の紹介と批評。 田中 廣吉 七七七 中 一四 大阪屋 教育普通教育

上品で化粧の秘訣 平岡 静子 七七七 小 四七 白水社 家事化粧

著者の研究と實驗とを書き集めたるもの。

現代の電氣化學工業 柳原 英一郎 七七七 中 一〇 寶文館 工業電氣化學

電氣化學工業の一般を編述し初學者の參考に資せんとす。

現代美術界總覽 中央美術編輯部編 七七七 小中 二〇 日本美術學院 美術美術

現代の日本畫界、西洋畫界、彫刻界の鳥瞰圖。

國民道德三講 亙理 章三郎 七七七 小中 三六 金港堂 倫理國民道德

國民道德の三つの特質を講明す。

兒玉大將傳 杉山 茂丸 七七七 小中 四八 博文館 傳記兒玉源太郎

平易なる振り假名付の小説的傳記。

△細菌學 伊藤 誠哉 七七七 中 六六 成美堂 醫學細菌學

細菌の形態、生理並に分類に就きて詳説を試み、更に實地的關係を講述す。

さびしき樹木若山 繁 七七七 小 一六 南光書院 文學和歌

最近の作にかゝる百數十種を收む。

山行水行 田山 錄彌 七七七 小 三六 文陽堂 地誌紀行日本

東京の郊外、荒川、利根の渡頭、上總安房の旅、霞ヶ浦、湖來、鹿島神宮、常陸の海岸、筑波、常陸鐵道沿線、高尾山、甲府盆地、諏訪地方、鎌倉附近、三浦半島等。

實驗安價生活法 國民新聞社編 七七七 小中 三三 民友社 社會安價生活法

國民新聞社の簡易生活、安價生活に關する懸賞募集に當選せるものを集む。

無病實驗強健法 高木 兼寛 七七七 小中 三五 東盛堂 醫學衛生

體格向上、健康増進の方法を講究す。

實用問伐法 藤島 信太郎 七七八 中 三七 岩波書店 農業林業

學説と實驗とを應用消化たしる經驗に基き問伐實行方法を平明に説く。

兒童教養講習錄 第二輯 兒童研究所編 七七七 中 三〇 成美堂 教育兒童研究

兒童文學と國定教科書(巖谷季雄)兒童衣服の衛生(石原喜久太郎)兒童精神の發達(高島平三郎)兒童の供述(久保良英)兒童生活の考察(倉橋惣三)等。

書畫鑑定秘錄 香雪山人 七七七 小 二九 中央出版社 美術書畫

古書畫の眞實を鑑定すべき唯一の資料。

諸官立 入學試驗問題集 大正七年度 川村義作編 七七 小の 三三 芳流堂 〇三五 教育入學試驗 各官立學校を網羅す。

實驗植物學講義上巻 神田正治郎 七七 中 二六 弘道館 七七 理學植物學 本巻に於ては植物の形態、生理、生態に就て詳細に説明す。

人生詩人ブラウニング 帆足理一郎 七七 小の 四〇 洛陽堂 一八〇 文學ブラウニング ブラウニングの小傳と、主として靈的憧憬及奮闘に關する詩の翻譯と。

日印貿易 青年松倉乾二 花岡敏夫編 七七 小の 三四 東京堂 二五 傳記松倉乾二 之犧牲者 農商務省海外實業練習生として孟買に於て病を以て逝ける松倉乾二の一生を集む。

陸用石油エンジン ジン 浅川權八 七七 大 三三 丸善 三〇 工業石油エンジン 現今吾が國狀に適合する程度に是れが構造作用併びに理論を説明す。

全國溫泉明細案内 全國溫泉案内社編 七七 小 三六 阿蘭陀書房 〇五 地誌日本案内 地圖と繪畫と文とによりて全國の有名なる溫泉を紹介す。

戰時利得税法要義 西脇 晋 七七 中 一〇 實文館 二〇 財政戰時利得税 專ら納稅者の參考に供するものなるを以て唯だ戰時利得税法の解釋を爲すに止め立法論を避けたり。

染料植物及染色篇 白井光太郎 七七 中 一三 大倉書店 二五 工業染色 日本古代染料植物、日本在來染料植物、海外染料植物、染色法の諸事を記載す。

造園概論 田村剛 七七 中 二〇 成美堂 一八〇 農業庭園 造園の系統的又組織的研究。

大正新一萬句 今井柏浦編 七七 小 四六 博文館 〇七五 文學俳諧一旬集 最近に於ける俳句の時代的變遷推移を示すべき旬集。

大聖釋尊物語 江部 藏圓 七七 小 三三 中央出版社 二〇〇 宗教釋迦 興味中心の筆致を以て簡明に釋尊を傳ふ。

泰西の繪畫及び彫刻 第六卷中 洛陽 堂編 七七 中 二四 洛陽堂 三〇 美術彫繪 主として藝術復興期盛期のオランダ、ドイツ、及びイタリヤの作品計六十六葉を收む。

學英語自修書 中卷 乙骨 五郎 七七 中 三五 博文館 〇〇 語學英語 稍々複雑なる文法上の事項、短文の譯註より比較的複雑なる英文に進む。

壹年中學漢文讀本自修書 原文 堤 達也編 七七 小の 一五 敬文館 〇七 語學漢語 文章は大體記事、敘事、説明、詩文に序列せり。

三年中學漢文讀本自修書 原文 堤 達也編 七七 小の 三三 敬文館 一〇〇 語學漢語 現行の中等教科書より集めたるもの。

鮮金剛山探勝記 菊池 清 七七 小 一八 洛陽堂 二二〇 地誌紀行日本 著者金剛山を跋渉して其世界的名山たる面影を紹介す。

獨逸を中心に 赤木 龜一 七七 中 三六 大阪屋號 三三 地誌獨逸 著者が留學中新聞、雜誌へ寄稿したる文章の中より獨逸及埃太利に關する記事を抜き出したるもの。

東京史蹟見物 藪野空兵衛 七七 小 三六 中興館 二二〇 地誌東京 滑稽趣味に満つ。

唐詩選評釋 明、李千麟編 七七 小の 二七 文會堂 三三 文學漢詩 初學者の爲に唐詩選の全部を平易なる文章を以て評釋す。

時潮 (ラスキン叢書 第五卷) 英、ラスキン著 栗原元吉譯 七七 小の 三四 玄黃社 二五 文學英文 學 桑ダアラランドの一勞働者トーマス・デイクソンに宛て、送りたる二十五回の書翰を集む、著者が此勞働者を通じて広く一般英 國勞働者に其理想を注入せんとしたるもの。

夏の學 校 中村春二編 七五 小 六〇 成蹊學園 二〇 教育成蹊學校

大正元年より同四年に至る成蹊實務學校、成蹊中學校等の夏期の實況。

ナポレオンポナバルト(英傑傳叢書) 第六編 長瀬 鳳 輔 七六 中 三六 實業之日本社 三〇〇 傳記 ナポレオン一世

倫敦大學講師ハドソン氏の近著に據れるもの、主としてナポレオンの性格を批評す。

日蓮 聖人 正傳 本多 日生 七七 小 四三 博文館 二〇 宗教 日 蓮

日蓮聖人の主義主張の真相を明かにし、承久の亂と蒙古軍の事を詳叙し、又怪誕不稽の記事を排除せり。

日本の彫刻下卷(趣味講座叢書) 佐々木 恒情 七七 中 三八 誠 文 堂 〇六 美術 彫 刻

佛教傳來以前、飛鳥、白鳳、天平、弘仁、藤原、鎌倉、室町、桃山、江戸及び明治の各時代に分ち日本彫刻の歴史的發展を説く。

日本 武士 田中 義成 七七 小 四六 弘 學 館 二〇 歴史 日本 歴史

著者が講述せし史論、史話の中に重にも征戰の事に關せしものを編纂す、振假名に誤謬多きは遺憾なり。

家庭廢物利用(家庭の實際叢書) 第一編 本山たもつ子 七七 小 二八 眞 文 社 〇六 家事 家 事

茶殻、磨ぎ水、古靴下、古メリンス、残り絲、巻煙草の吸口、古名刺、ビスケットの空罐、石鹼屑、玉子殻、古洋傘、古手拭等の利用法を述ぶ。

飛行機及飛行船圖説 河本 清一 七八 小 三六 博文館 〇六 工學 航 空 機

航空機關に屬する總てを網羅して遺漏なし、文章平易。

富士と箱根 箱根 登山研究会編 七八 小 一八 誠 志 堂 〇六 地誌 箱 根 山 山

富士と箱根に關するあらゆる方面の研究と實地踏査によつて得たる知識と經驗とを輯む。

物理學 汎論 上卷 日下部 四郎太 七八 中 五七 裳 華 房 四〇 理學 物 理 學

東北帝國大學理科大學に於て物理學科の學生のみならず數學科、化學科、地質學科等の初年生に共通學科として著者が兩三年來授業せるものに多少の修正を加ふ。

米國大學と日本學生 加藤 勝治 七七 小 一六 博文館 〇六 教育 米 國

米國の大學教育を紹介して日米の學術的關係を明かにす。

實地 寶庫 西伯利 野 守 廣 七七 小 四六 實業之日本社 二〇 地誌 西 伯 利

著者官命に依て彼地を遍歴し歸朝後公私の需に應じ各地にて試みたる前後四十三回の講演を基礎とす。

寶生流 音訓 清濁 正解 上卷 齋藤 芳之助 七七 小 三六 能學通信社 二〇 諸藝 談 曲

各曲の訓音清濁を最も正確に記述す。

本邦主要工業 概覽 吉川 長之助編 七八 中 六三 東 京 堂 五〇 工業 工 業

本邦に於ける主要なる工業に就き其沿革、生産及需給の狀況、原料需給の狀況、貿易概況等工業的一般知識を網羅す。

有 史 以前 的 日 本 鳥 居 龍 藏 七七 小 四三 甲 陽 堂 一八〇 理學 考 古 學

閑却されたる大和國、畿内の石器時代、河内國府の新發掘に就て、銅鐸に就て、人種學上より觀たる我邦の弓矢、三輪山傳説等。

第二幼年書類

書 名	著 者 名	發行 年月	大 小 冊 數	頁 數	發 行 所	定 價	分 類	件 名
お 伽 花 壇	久留島 武彦	七七	小 一	三五	南北社	〇七五		
尋常 三年 課 外 讀	葛原 鹵編	七八	小 一	二〇	博文館	〇二六		
尋常 四年 課 外 讀	葛原 鹵編	七八	小 一	二九	博文館	〇二六		
尋常 五年 課 外 讀	葛原 鹵編	七八	小 一	三〇	博文館	〇二六		
尋常 六年 課 外 讀	葛原 鹵編	七八	小 一	三〇	博文館	〇二六		
理科 小話 なぜ ですか	小林 巴都子	七七	小 一	二九	敬 文 館	〇六〇		
日本の名所見物(趣味の地理) 第三編	白井 規一	七七	小 一	一四	博文館	〇六〇		

△乾 燥

論小松 豐作 七八 中 五〇四 明文 堂 四〇五 農業 蠶 業
乾燥作用の理論、殺蛹及乾燥作業實地の概要、殺蛹装置及乾燥装置、殺蛹乾燥作用に關する理論、殺蛹器及乾燥器の種類構造
及附屬品等に就きて詳説す。

樹 か

げ(自然と人生叢書) 相馬 昌治 七八 小 三〇九 春 陽 堂 〇〇五 文學 日本文學一雜集
田園通信、春窓雜記、汽車の窓、祭の後、秋から冬へ、焚火、仙人の話等。

△刑 事

訴訟 法 牧野 英一 四版 七八 中 四〇四 有 斐 閣 二〇五 法律 訴訟 法
現行法に比照して改正案の正條を舉示し且其大要を叙述したり。

天然 利用

健康 増進 法 伊藤 尚賢 七八 小 二九七 實業之日本社 〇〇五 醫學 衛生
地の應用、冷水應用、温水應用、日光應用等の健康増進法を説く。

兒 玉

藤園 將軍 拓殖新報社編 七八 中 一〇六 拓殖新報社 二〇〇 傳記 兒玉源太郎
寺内、福島、安東、石黒、澁澤、平田、阪谷、大島、田中、石塚、新渡戸、元田、中橋、鎌田、三輪田、辻村、持地、國府、
後藤、長尾、末松、金子諸名家の追想談を集む。

此 の 膽 玉

佛・ギョソ著 新井 庸虎譯 七八 小 一三三 大 文 館 〇〇七 倫理 教 訓
獨逸を倒すべく佛蘭西にも大和魂の如き膽玉のある實例を擧ぐ。

最 新 支 那 官 紳 錄

支那研究會編 二版 七八 中 一三三 支那研究會(北 京) 二〇〇 傳記 支 那 人
叙記の人物無慮五千名當今支那の現實或は隱約の間に活躍するものを網羅す。

自 學 主 義 各 科 教 授 原 論

西山 哲治 七八 中 四〇四 隆 文 館 二〇五 教育 教 授 法
自習主義の教授法、知識的教科教授法、技能的教科教授法、單級教授法等。

史 眼 に 映 ず る 世 界 大 戰

箕作 元八 七八 小 四〇六 博 文 館 一〇四 歴史 世界歴史—史論
世界大戰の由來、其の事象の意義、未來の推測等に對する著者の意見を發表す。

支 那 研 究 叢 書

支那の物産下 東亞實進社編 七八 中 一三〇 東亞實進社 一〇六 地誌 支 那
直隸、山西、山東、河南、陝甘兩省等の物産を詳説す。

支 那 語 叢 談

渡會 貞輔 七八 小 二〇二 大 阪 屋 號 一〇三 語學 支 那 語
支那語を知らぬ人へ其の概念を與へ、知れる人へ其の資料を供し、又一般の人へ話材を給せんとす。

家 庭 日 常 主 婦 の 算 術

中村 八郎 七八 小 三三六 實業之日本社 〇〇五 家事 家 事
兩主婦の問答體にて平易に面白く記述す。

小 工 業 問 題

社會政策學會編 七八 中 三三〇 同 文 館 二〇三 社會 社會 政策
大正六年十二月二十一日二十二日兩日東京に開催したる社會政策學會第十一回大會に於ける討議問題報告及び講演を校訂編纂
したるもの。

生 活 の 始 り

石井 重美 七八 小 二七〇 老 鶴 圃 一〇五 理學 生 物 學
生物の起源、魚の生殖、蛙の生活、家鷄の發生、兎の蕃殖、人となるまで、兩性の別、性教育、老衰と死に就て述べたるもの
米國ケーディ氏の近著「どうして生活は始まるか」を骨子とす。

△製 絲 學

中卷 三 谷 徹 七八 中 九三三 明 文 堂 五五〇 農業 生 絲
本卷は繰絲論、生絲整理及検査論、蠶絲論なり。

全 國 薪 炭 主 要 生 産 地 並 荷 主 案 内 誌

薪炭新報社編 七八 小 三三六 薪炭新報社 一〇〇 産業 薪 炭
全國の薪炭主要生産地を管かにし取引上の便益を増進せしむ。

心 身 強 健 體 格 改 造 法

肥田 春充 七八 小 二二四 尚 文 堂 一〇六 醫學 衛 生
著者の實驗せる體格改造法の由來と運動練習法及び椅子運動法等を詳説す。

大 藏 經 要 義

卷九 本多 日生 七八 中 四〇二 博 文 館 一〇六 宗教 佛 教—經 典
大方廣佛華嚴經、大方廣如來不思議境界經、大方廣佛華嚴經、不思議境界分、大方廣佛華嚴經修慈分、大方廣入如來智德不
思議經等の講義。

通 俗 教 育 道 話

第六 安藝喜代香 七八 小 一八六 大 日 本 雄 辯 會 〇〇四 倫理 教 訓
平易なる興味多き訓話二十數種。

會社商店に 手形と會社法釋義 推津盛一 七六 小の 一六 大阪屋號 一五 法律商 法
 必要なる 商法の内會社篇及び手形篇を小學卒業程度の人にも了解し得るやう平易に解釋せるもの。
 トル ス ト イ 日記 露、チユルトコフ 石川喜三郎譯 七九 小の 四四 博文 館 二〇 文學トルストイ
 譯文の原書より直譯したるもの。
 日 蓮 主義 日 訓 小林 一郎 七六 小の 三三 大同 館 二〇 宗教日 蓮 宗
 法華經及び日蓮上人遺文集より極めて簡單なる語を抽出し之を年中の日に配せり。
 日 本 風 俗 志 下 卷 加藤 熊一郎 七八 中の 六六 新修 養社 三〇 社會風 俗
 本邦の西部に屬する近畿、四國、中國並に九州各地の風俗を概説す。
 光 は 東 方 より 北 吟 吉 七六 中の 五三 大日本雄辯會 二〇〇 文學 文學論 說
 國家民生主義を提唱す、眞の自由と偽の自由、歐洲戰亂の文明に對する危險、我が國民性の弱點、形式主義の日本人、軍國主
 義の二義、我が國の大使命等。
 貧 乏 根 絶 論 米、ホラン、大、一、治、七六 小の 三〇 大學評論社 一〇〇 經濟 經 濟
 貧乏が人類の社會生活に必要なる事を述べ並に其根絶策を詳説す。
 佛 典 の 解 說 (佛敎大觀) 常 盤 大 定 七八 中の 三三 丙午 出版社 一〇〇 宗教 佛 敎佛 典
 大藏經中より日本文明に重要な關係を有する經典を取り出し、必要に應じて特殊のものを交へ手短かに解説す。
 變 態 心 理 學 講 話 集 第一編 中 村 翁 編 七八 中の 三三 日本精神醫學會 一〇〇 哲學 變 態 心 理 學
 變態心理學概論(中村翁) 精神病の概念(森田正馬) 迷信と犯罪(寺田精一) 不良少年の精神分析(久保良英) 變態心理と近代文藝
 (生田弘治) 歐洲大戰の心理的側面觀(上野陽一) 愛の還俗(菅原教造)等。
 法 曹 紙 屑 籠 砂 川 雄 峻 七八 中の 四一 酒 井 書 店 一五 法律 法 律 雜
 著者が過去三十年間の法曹生活に於て親しく見聞し、遭遇し、又は感じた事どもを興に任せて書き綴りたる一種の回想記。
 修 養 明 治 兩 陛 下 聖 德 記 末 松 謙 澄 七八 中の 三六 弘 文 館 〇六〇 傳記 明 治 天 皇
 主として新聞雜誌又は教育會等の爲め著者の口授又は講演せし所を合纂したるもの。

模 範 齒 科 答 案 集 北村 宗一 編 二版 七八 小の 一五 文 光 堂 一七 醫學 齒 科 學
 解剖、口腔外科學、病理學、治療學、藥物學、技工學等の答案集。
 有 用 鑛 物 の 産 地 及 用 途 今 村 萬 治 三版 七八 中の 四七 丸 善 三三 理 學 鑛 物 學
 實用金屬及非金屬鑛物に關し其必要なる事項を略述す。
 養 蜂 (通俗畜産叢書) 第二卷 中央畜産會編 七八 中の 一五 中央畜産會 〇〇 農業 養 蜂
 通俗懇切に養蜂の概要を講述す。

第二 幼年書類

書名	著者	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
繪本 日本外史卷四	大町 芳衛	七八	一	三三	博文 館	一〇〇	一	醫學 齒 科 學
お 足 の 梯 子	河山 目田	七八	一	七	二葉 社	〇五	一	文學
お 森 の 兄 弟	河山 目田	七八	一	一〇	二葉 社	〇五	一	文學
お 百 合 の 王 子	河山 目田	七八	一	一〇	二葉 社	〇五	一	文學
國 史 美 談 上 卷	北垣 恭次	七八	一	三三	實業之日本社	〇七〇	一	文學
奉 の 旅 行 (お伽文庫 第十一篇)	水馬 淵 冷 佑	七八	一	一七	實 業 文 館	〇三	一	文學
小 波 新 お 伽 舟	巖 谷 小 波	七八	一	三〇	忠 實 文 堂	〇七五	一	文學
尋 常 課 外 讀 本 九 月 の 卷	葛 原 齒 編	七八	一	二二	博 文 館	〇三六	一	文學
尋 常 課 外 讀 本 九 月 の 卷	葛 原 齒 編	七八	一	二二	博 文 館	〇三六	一	文學
尋 常 課 外 讀 本 九 月 の 卷	葛 原 齒 編	七八	一	二二	博 文 館	〇三六	一	文學

五年課外讀	本九月の卷	葛原 函編	七九	小の	二博	文館	〇二八
六年課外讀	本九月の卷	葛原 函編	七九	小の	二博	文館	〇二八
少年讀本	尋常科第四學年前期	小林 源治	七八	一中	三四	教育研究會	〇三三

第三 小説及劇

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
哀史物語	徳田秋聲編	七八	一小	三四	新潮社	〇二八	小説	哀史物語
荒木又右衛門(新編)	碧瑠璃園	七八	一小	八八	霞亭會	一〇〇	小説	荒木又右衛門
恩を返す話(新編)	菊地 寛	七八	一小	三五	春陽堂	〇二〇	小説	恩を返す話
サフ	佛、ドオデニ	七八	一小	〇〇	新潮社	〇八五	小説	サフ
高杉晋作	武林無想庵	七八	一小	〇〇	大鐘閣	一〇〇	小説	高杉晋作
殘る	長田 幹彦	七八	一小	五九	春陽堂	一三五	小説	殘る
非小説(第九編)	黒岩 周六	七八	一小	四四	扶桑堂	一六〇	小説	非小説
二人の稚兒	谷崎潤一郎	七八	小の	六〇	春陽堂	一三五	小説	二人の稚兒
森の處女(第六編)	諾、ピョルンソソ	七八	一小	三二	新潮社	〇五五	小説	森の處女
ルーヂン(第二編)	露、ツルゲイネフ	七八	一小	三三	新潮社	一〇〇	小説	ルーヂン

大正七年十月十八日印刷納本
 大正七年十月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 住吉 雄
 印刷所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館内 秀 會
 發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日本圖書協會編輯部 郵稅不要
 (一ヶ月前金査問郵稅不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第五卷 第十一號

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
精神逸話の泉 第三編	高島平三郎編	七二〇	小の	四三	洛陽堂	一六〇	倫理	修養
聖徳太子の聖智、和氣廣島の慈悲心、八幡太郎の雅懐、相模太郎射を善くす、毛利元就の志、秀吉の紋所と馬印、家康奢侈を恐る、所謂寛永の三輔等。								
病氣の手當と伺かたを平易に述べたるもの。	うづらと小鳥 尾崎 獎	七八	小の	一六	益文堂	〇五	農業	養禽
運動競技健康増進法(健康法研究) 第四編	宮原立太郎	七八	中	六	新橋堂	〇三	醫學	衛生
各種運動の健康増進に及ぼす効果其他に就て簡単に口述す。								
一元的唯物論の立場より死生問題に關し最善を盡したる論述。	永 遠 の 戦 闘	七八	小の	三五	阿蘭陀書房	〇五	哲學	哲學
主として哲學宗教上より戦争の野蠻醜態を指摘し、永遠の平和策を説きたるもの。	永 遠 の 平 和 龜 谷 聖 馨	七八	中	一四	弘道館	〇五	哲學	哲學
記憶術 英語 獨習 自在	水谷 次郎	七八	小の	三六	廣文堂	〇五	語學	英語
英語は斯の如く獨習せよ	栗田 一郎	七八	小の	二九	泰山房	〇五	語學	英語

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 ○………一般的なもの
 大 四六二倍以上
 中 四六判
 小 菊列半載以下

受驗英作文の作り方研究 岡崎 勝義 七九 小 三三 日進堂 一〇〇 語學英語作文
文の大綱たる構造に重きを置きて説明す。

英字新聞讀破自在 赤司繁太郎 七〇 小 四三 建文館 一〇 語學英語
新聞根柢三千字、新聞用語、最新語解説、時文、新聞辭彙に分ち懇切に説明す。

歐米人の支那觀 東亞同文會編 七九 中 九七 東亞同文會 三〇 政治支那
數年來外國の有力なる新聞雜誌其他識者の支那問題に關する論說記事を蒐集し整理したるもの。

恩給總覽 內閣恩給局編 七二〇 小 一〇三 清水書店 二〇〇 法律恩給
大正七年五月一日現行の恩給、退隱料及扶助料に關する法令を纂輯す。

海峽殖民地概覽 外務省通商局編 七九 大 五八 啓成社 三〇 地誌海峽殖民地
海峽殖民地の地理、沿革、人種及人口、統治、財政、貨幣及金融機關、度量衡、農業、漁業、商工業、港灣、交通及通信、貿易、宗教、教育、新聞其他の刊行物、醫事に就て詳述す。

會計の智識 與 相本 太郎 七九 小 四五 天地書房 一〇 商業會計
前著商店の會計の姉妹篇にして會計の理論的方面を主としたるもの。

海産動物油 油辻 本 滿 丸 七九 中 六八 丸 善 五〇〇 工業油
海産動物油の採製及び精製、成分、一般性状、檢出法、成分の學術的研究方法其他各魚油海獸油等に關する詳細なる研究。

圖害蟲と益蟲 長野 菊次郎 七九 中 二六 博文館 一〇 農業害蟲
害蟲の防除益蟲の愛護等が人生と密接の關係ある所以を通俗的に興味深く説明す。

△科學概論 論 田邊 元 七九 中 三五 岩波書店 二〇 理學
廣く科學の意義と批判哲學の精神、趨勢を論じたるもの、東北理科學大學に於ける講義を基とす。

覺 路前田 慧雲 七九 小 三六 實業之日本社 一〇 倫理修養
佛教概論、道德と宗教信念、人生の表裏、宗教は人生本然の要求、敬に居て己を接す、爲さざるの心、報本と調和、國家觀念の振興、忠孝の根本義、一大事の決定等。

白修漢文新釋 吉川 秀雄 七二〇 小 四三 言文社 一〇 語學漢語
十八史略、孟子、文章軌範、續文章軌範の要所を披萃し、これに訓點づきの文を掲げて讀方を示し、精しき語釋、講義を添ふ。

幾何學軌跡作圖解法吟味 佐久間 謙 七九 小 三三 文魁堂 〇 數學幾何學
教育家の盡力による優良村(地方振興叢書第六編) 山田 龍三 義 七二〇 小 一八 白水社 〇 政治農村
岩手縣下に於ける二優良村の實蹟。

文檢用教育勅語及戊申詔書解義 教育學會編 七九 小 六〇 大同館 一〇 倫理教育勅語
教育勅語及戊申詔書を純粹倫理學的見地より解説す。

共同海損論 勝山 勝司 二版 小 一七六 弘文堂(京都) 一〇 法律商法
「ヨーク、アントワープ」規則を緯とし廣く英獨諸國の立法學說を經として共同海損を論ず。

近世殖民主史 獨、フアレンチン 七九 中 三九 帝國地方行政學會 一〇 經濟殖民主
西班牙、葡萄牙、和蘭、佛蘭西、英吉利、露西亞、合衆國、獨逸及び小き諸國の殖民主史。

近世法學通論 三 藤 信三 七九 中 三三 有斐閣 二〇 法律法學通論
法學を専門的に學ばんとするものに必要なる豫備的知識を興ふる目的を以て成れるもの。

科學空中之自然 堀 七 藏 七二〇 中 三二 文館 三〇 理學博物學
空中に起る自然の現象を平易、通俗に證明す。

△刑法大要 泉 二 新 熊 九版 中 四七 有斐閣 二〇 法律刑法
△顯微鏡化學試驗法 田所 哲太郎 編 七九 中 二四 丸 善 二〇 理學化學
顯微鏡化學試驗法の普通化學分析法以上に便宜ある點を詳説す。

鑛業分析 第二卷 野村 堅 七、〇 中 四三 日本鑛業新聞社 三、五 工學探 鑛
あるみにうむ、亜鉛、あんにもに、ばりうむ、銅、鹽素、弗素、砒素、くろむ、硅素、かどみうむ、かるしうむ等の産出狀
態、含有鑛物、定性的性質を説明す。

工業簿記 吉田 良三 二版 中 三三 同文館 二、〇〇 産業簿記
主として記帳整理法の方面に重きを惜き、勘定科目の分類、帳簿の種類、組織及決算事項等につき普通簿記と異なる所を詳述す。
鑛石と探鑛法 鑛山協會編 七、九 中 四六 大日本工業學會 二、五 工學探 鑛
鑛界知識の一斑を記述するに止め、高遠深蘊の理論を避く。

國民經濟の組織及發達 河津 暹 七、〇 中 三六 集 成 社 一、七 經濟經 濟
方今の經濟社會の構成より之を發達せしむるが爲に國家の行ふべき政策等現時の經濟問題の一斑を講述す
湖沼めぐり 田中阿歌磨 七、九 小 四六 博文館 一、三 理學湖 沼

教育子の權利 西山 哲治 七、〇 小 三六 南 光 社 一、五 教育兒童研究
日本各地の湖沼巡遊記を趣味多く記述し又各湖の傳説、形態、地形、深度、水位、水溫、水質等に關する研究も掲げたり。
此 鑛物 小泉 忠夫 七、九 小 三三 老 鸚 閣 二、五 理學鑛 物
一面鑛物異同辨とも見るを得べし、鑛物鑑定表、分析法等もあり。

最近印度經濟事情 松倉 乾二 七、九 中 三五 東 京 堂 二、〇〇 經濟印 度
農商務省海外實業練習生たりし著者の遺著たり。
最近京諸學校案内 東華堂編 七、九 小 三〇 東 華 堂 〇、六 教育學校案内
上京者の注意、入學受験準備の心得、試験問題解答等を附す。

最新東洋歴史解釋 妻木 忠太 七、九 小 五七 有 明 堂 一、三 歷史東洋歷史
主として中等諸學生の豫習復習の參考用。

最新物理學詳解 永澤 一郎 七、九 小 三三 泰山房 一、二 理學物 理 學
中等學校上級生又は官立學校受験生の參考用。

最新遊戯集成 成尼子 止 七、九 中 一三〇 隆 文 館 四、〇 諸藝遊 戲
主として小學校を中心としたる遊戯の理論及び實際を集録したるもの。
作 歌 講 義 三浦 直正 七、九 小 三三 大倉書店 一、三 文學和 歌
初學者の爲に作歌の順序を丁寧に繰り返して説明す。

ザ・プレジニアズオブ・ライフ 講義 英、ラボック 橋本 弘 譯 七、九 小 一七 明 進 社 〇、六 語學 英語—英文和譯
通篇一點の徹も不徹底の所なからしめんを期し、殆んど揚子を以て重箱をほじる底の細心を以て註釋せりと。

△試 金 術 山口 義勝 編 七、九 中 六九 善 四、〇 工學 試 金 術
一般に試金の技術に重要な事項を説き、銀、金、白金、銅、鐵等總て二十種の金屬の試金術を論じ附けて硫黃、耐火物質及
燃料の試験法を述べ。

「時事」年鑑 大正七、八年 時事新報社編 七、〇 中 八六 時事新報社 一、五 年鑑 年 鑑
憲法、人口、氣象、議院、文官、神社、教育、法律、感化救濟、武官、農業、商業、租稅、衛生、交通、通信、娛樂其他綱目
甚だ多し。

△實用主義の哲學 豐田 臻 七、九 中 四六 佐藤出版部 二、〇 哲學 哲 學
プラグマチズムの理論と批判、叙述簡略にして抽象的なり。
發見創作 兒童理化實驗法 川部 俊藏 七、九 中 三〇〇 廣 文 堂 一、五 教育教授法—理學
安全簡易 兒童に理化實驗を課することが理科教授に良成績を擧げ得る實例を述べ。

支那年鑑 第三回 東亞同文會編 七、九 大 二二 東亞同文會 六、〇 地誌 支 那
支那現在の面積、人口、政體、政治、財政、公債、外交、陸軍、海軍、司法、教育、鑛政、農林、貨幣、度量衡、鑛業等に就
て調査す。

社會問題 管見 河上肇 六版 小の 弘文堂(京都) 一、八〇 社會社 會

新聞雜誌に公にせし短文を纂む。

修養道 話 青木日陰 七、九 小 三三 朝野書店 〇、八〇 倫理修 養

處世の秘訣を平等に通俗的に述べ、幸福なる生涯を送るべき方法と、成功を遂げ得べき手段を懇切丁寧に説明す。

百中銃獵の秘術 五十嵐善孝 七、〇 小 三四 尙正堂 一、八〇 諸藝銃 獵

獵犬訓練法を附す。

縮憲法 講 話 美濃部達吉 七、〇 小 五〇 有斐閣 二、五〇 法律憲 法

縮刷するに當りて新らしく行はれたる法令の改正を追補し其他前版の誤を訂正したり。

趣味と修養 八波則吉 七、九 小 三三 敬文館 一、三〇 倫理修 養

青年會、教育會、婦人會等にて講述せるもの、中主に文學趣味と精神修養とを兼ねたるものを選び、面白く有益なり。

趣味的化學實驗法 三澤隆茂 七、九 小の 三四 廣文堂 一、五〇 理學化 學

液色變化の實驗、火焰に關する實驗、窒素化合物の實驗、鹽素に關する實驗、炭酸瓦斯に關する實驗、防水及防火の實驗、化學的彫刻術等容易に出來得るもののみ。

小品作法 法(文藝研究叢書第六編) 水野盈太郎 七、九 小の 三〇 春陽堂 〇、六〇 語學 日本語|作文

文章を書く準備と、手法に就ての心得と、作例及び其背景を説く。

小品文作法及文範(新文章作法文範第一編)後藤末雄 七、九 小の 一五 新潮社 〇、四〇 語學 日本語|作文

初學の人々の爲に小品文の作法を説くと共に東西諸名家の作品中より小品文の範とすべきものを抜き、これに簡單なる評釋を加へたり。

諸官立學校國漢文問題釋義 塚本哲三 七、九 小の 五八 有朋堂 一、三〇 語學 漢 日本語

明治四十一年以後の國漢文試驗問題を解釋す。

諸官立學校國漢文問題集答案詳解 大正 川村義作編 七、九 小の 七六 芳流堂 〇、五〇 教育 入學試驗

官立諸學校を網羅す。

美文女子新書 翰文坪内孝 七、九 小 四一 精文館 〇、八五 語學 日本語|作文

初佛蘭西語獨修書 佛、ブスケ 七、九 小の 八〇 芳流堂 二、五〇 語學 佛蘭西語

文法及び其活用、練習を始め日常會話に至るまで、百般の知識を網羅し説明懇篤なり。

新化學講義 田中伴吉 七、九 一 四六 北星堂 二、〇〇 理學 化 學

主として官立諸學校入學試験に應ぜんとするもの、參考用。

新暗算 法 米本康三郎 七、九 小 一八 博文館 〇、天 數學 算 術

代數の理法を應用して簡明なる暗算法を案出し複雑なる計算を容易且つ敏速ならしむ。

人事興信錄 人事興信所編 五版 七、九 大 二五 人事興信所 一五、〇〇 傳記 人名錄|日本人

紳士二萬名を選び其人の經歷、事業、家族、親姻等の關係を輯録す。

新十六夜日記精解 吉川秀雄編 七、〇 一 三三 精文館 〇、五〇 文學 十六夜日記

講義、大意、評論に分ち尙難解の語句には別に詳解を附せり。

心理と人生 高島平三郎 四版 七、〇 中 四三 不老閣 二、三〇 哲學 心 理

自然の教訓、隨所主となれ、青年の修養を論ず、調和的發達の必要、男女交際論、人物養成上より見たる體育、欲望論、心理學上より見たる精力主義、兒童學より見たる性善惡論等。

森林美學 新島善直 七、九 一 六〇 成美堂 四、〇〇 農業 山 林

樹木及び森林の美的價値を明にし進んで其價値を十分に發揮せしむる森林の經營法を闡明す。

製造業と原價計算法 英、ブノル 高塚榮 譯 七、九 一 二六 紡織雜誌社(大阪) 二、五〇 工業 工業 經濟

的確整齊なる原價計算方式の實際を示せり。

青年團及處女會 天野藤男 七、〇 一 四六 丙辰出版社 二、五〇 教育 青年團 處女會

著者多年蒐集せる資料により青年團及び處女會の爲に基準を示し範例を掲げたもの。

世界三十偉人錄

栗林己巳藏 七九 小中 三國國民書院 一〇 傳記 傳記
プラトーン、菅原道真、親鸞上人、熊澤蕃山、聖德太子、二宮尊徳、柿本人麿、狩野探幽、孫子、頼山陽、シーザー、成吉思汗、大石良雄、豊臣秀吉等の傳記。

節儉食料並に救荒食物

三宅秀 七九 小中 一六 開 發 社 〇、五 醫學 飲 食 物
凶年の救餓法、世界大戦を企畫せる獨塊の給糧政略及び聯合國の各自食物節約を行ふ程度等を調査蒐集す。

セルロイド簡易加工法

寺本圭助 七九 小中 一六 寺本商店 〇、吾 工業 セルロイド
簡易正確に手際よき技工を施すべきセルロイドの加工法を平易に説明解釋す。

大 鑛 物 學 下 卷

佐藤傳藏 七九 大 四八 六 盟 館 三〇 理學 鑛 物 學
本卷に載する所の各鑛物は皆主要なる者に止め、唯本邦産の者に限り比較的稀有の者も採録す。

泰西の繪畫及び彫刻

第七卷中 洛陽 陽 堂 編 九、九 中 一五 洛 陽 堂 三、四 美術 美 術
世篇の二 木村莊八 解 說 九、九 中 一五 洛 陽 堂 三、四 美術 美 術
ローマ及びビザンティンの作品數點、各時代の作家の肖像二十餘枚等。

大 戰 と 獨 逸 の 經 驗

岡上守道 譯 七〇 小中 三三 金 港 堂 〇、六 兵 事 歐 洲 戰 亂
中歐同盟國の政治及び經濟的地位、戰爭と民族心理及び群集心理、科學的技術の影響、指揮及び統率、將來の軍隊、軍備充實の必要に就て詳論す。

大日本美術史

第二(趣味講座叢) 書第八編 黒田朋信 七九 中 三四 趣味普及會 一〇〇 美術 美術史 日本
天平時代、弘仁時代、藤初時代の美術の大體を説明し其特色と價值等を論ず。

珠 算 集 成

石橋梅吉 七九 中 二六 飯 島 書 店 二、三 數學 珠 算
多數の圖解及び練習問題を散け、初歩の人にも容易に了解せしむ。

誰にも日本畫の描き方

橋本春陵 七〇 小中 一〇六 崇 文 堂 一、三 美術 繪 畫
初めて繪筆を執る人の爲めに日本畫の描き方を平易に説く。

ダ ン テ 神 曲

伊、ダンテ 敏 譯 七〇 大 一〇 聖 修 文 館 一、吾 文學 伊 太 利 文學
譯者の遺稿たる三種の譯稿を併せて印行せるもの。

四書中

庸 字 野 哲 人 七九 中 一三五 大 同 館 一、三 哲學 中 庸
讀方、字義、通解に分ちて解釋す。

通 機 械 學 講 義

後藤市太郎 編 七〇 小中 一五八 興 文 堂 二、六 工 學 機 械 工 學
機械設計等に就き其一般的知識を供する目的にて平易に講述す。

都市及村帝

都 近 郊 小 田 内 通 敏 七〇 中 一三五 大 倉 研 究 所 二、〇 地 誌 東 京 近 郊
實地踏査せる資料によりて帝都附近の地理的狀態、武蔵野の都市化しつゝある現狀を研究せるもの。

哲 人 プ ル ノ

岡 本 春 彦 七〇 小中 一三三 弘 文 堂 一、三 哲學 プ ル ノ
ブルノの生涯、性格、汎神論を論ず。

徹 底 個 人 主 義

田 中 喜 一 七九 小中 四四 天 佑 社 一、七 文學 文學 論 說
省察、代表と卓越、工業教育の自由化、民主主義と個人主義、慾望の理想化法律化、近世生活に於ける知識と智慧等の論文を收む。

獨 逸 の 公 民 教 育 金 生 喜 造

七二 小中 一三八 弘 道 館 一、三 教育 公 民 教 育
骨子をケルシエンスユナイターの「獨逸少年の公民教育」に取りたるもの。

ドストエー 書 簡 集

人と藝術叢 書第三編 山 村 暮 鳥 譯 七九 小 一三三 新 潮 社 〇、五 文學 露 西 亞 文學
フスキイ 學校時代、文學的活動時代、禁獄及び流刑時代、再び文學的活動時代の書簡を集む。

内 外 組 織 及 製 造 學

吉 田 喜 一 七九 中 一三八 丸 善 三、五 工業 織 物
著者が桐生高等染織學校に於て紡織科生徒に講述せる教材を基とす。

簡 易 日 々 の 料 理

家庭の實際 叢書第二編 梶 山 彬 七〇 小中 一二 眞 文 社 〇、七 家事 料 理
食品各個の成分と料理法を簡明に記述せり。

日 蓮 上 人

(通俗史談) 通俗教育普及會編 七九 小中 一八〇 通俗教育普及會 〇、八 宗教 日 蓮
史實により興味と教訓を兼ね備へたる一種新體の傳記。

日記文の書き方 (新文章速達)

本間 久雄 七、二〇 一、三〇 止 善 堂、空 語學 日本語作文

△日本刑法論

泉 二 新 熊 七、二〇 一、一五 有 斐 閣、八、〇 法律刑 法

日本鑛石學

第一卷 石炭篇 岩 崎 重 三 七、二〇 一、五五 老 鶴 圃、四、〇 理學鑛 物 學

△修日本數學

遠 藤 利 貞 七、九 一、中 七、二〇 岩 波 書 店、四、〇 數學數 學

日本淡水生物學

下卷 川村 多實 二 七、九 一、中 二、六 裳 華 房、三、〇 理學生 物 學

日本無線電信年鑑

大正七年度 無線電報通信社編 七、二〇 一、中 五、五 無線電報通信社 七、〇 工學 無線電 信

農用昆蟲學

講義 桑名 伊之吉 七、九 一、中 三、三 成 美 堂、二、三 農業昆 虫

佛敎論

理學 村 上 野 專 七、九 一、中 三、四 丙午出版社 一、七〇 宗教因 明

物理學

通論 本多 光太郎 編 二、版 七、九 一、大 四、四 老 鶴 圃、四、〇 理學物 理 學

フレデリキ大王

(英傑傳) 米、アボット 煙山 專太郎 譯 七、九 一、中 四、七 實業之日本社 二、〇〇 傳記 フレデリック 王

文學に現我が國民思想の研究 平民文學 津 田 左右吉 七、二〇 一、中 七、三 洛 陽 堂、四、五 文學 日本文學

文藝新語

辭典 小山 内 薫 編 七、九 一、小 三、〇 春 陽 堂、〇、五 文學 辭 書

譯註大鏡

飯田 潮 春 譯 七、九 一、小 一、〇 八 岡 村 書 店、一、五 歷史 日本 歷史

野生藥草採取と其販賣法

萬代 虎 藏 七、二〇 一、小 二、四 殖 産 協 會、一、五 理學 藥 草

夢の起因

特質等に就て詳細なる説明を試む。 小 熊 虎 之 助 七、九 一、小 五、五 江 原 書 店、一、五 哲學 夢

謠曲聲の出し方と假名扱ひ

齋 藤 芳 之 助 七、九 一、小 一、四 能 樂 通 信 社、〇、五 諸 藝 誌 曲

湖のほとり

信濃高原の一夜、利根川べりのある町、旅の思ひ出、九州と四國、初夏の武蔵野、耶馬溪、那須と鹽原等。 中 野 二 天 佑 社、一、五 地 誌 紀 行、日 本

最も新鷄の飼方

中 村 八 郎 七、九 一、小 四、八 國 民 書 院、一、三 農 業 養 禽

官立學校模範和文英譯

廣 瀬 雄 七、二〇 一、小 三、六 至 文 堂、〇、〇 語學 英語—和文英譯

家庭理科

百 講 清 水 保 之 七、九 一、小 三、四 博 文 館、〇、五 理學 理 學

燐寸、石鹼、衣服、護謨、紙などに關する通俗講話

燐寸、石鹼、衣服、護謨、紙などに關する通俗講話。 燐寸、石鹼、衣服、護謨、紙などに關する通俗講話。

理想的家の造り方 三浦元秀 七二〇 一 中 西 佐藤出版部 三六 工學住宅

中流社會向相應なる住宅の間取圖方針を通俗的に記述す。
解説の考へ方 理想の算術 上巻 石上録之助 七九 小 中 三 阿蘭陀書房 〇、五 數學 術

理論、實算、應用の各方面に涉りて算術全般を講述したるもの。
劣等兒救濟法(自動主義教育) 自動教育研究會編 七九 一 中 三 明誠館 〇、六 教育 低能兒教育

劣等兒の鑑識論を稱々詳しく説明し、取り扱ひ上の具體案は特に略述す。
露國及露國民の真相 獨、ヘットネル 繁譯 七九 小 中 三 國民書院 一、四 地誌 露 西 亞

露國の地理、歴史、民族、國民性、文學、宗教、政治、外交、軍事、交通、國民經濟、社會組織、生活狀態等の諸般に亘り簡明的に叙述す。
露國近代文藝思想史 昇直隆 七九 小 中 四 大倉書店 二、〇 文學 露 西 亞 文學 傳

十九世紀の三、四十年代より最近の革命に至るまで近代ロシアの凡ゆる複雑なる思潮、運動の有機的關係を闡明す。
和洋趣味の栽培 前田次郎 七九 小 中 四 鈴木書店 一、五 農業 園 藝

何人も簡易に狭き場所に於ても自由に草花を培養され得る方法を主とす。
笑ひながら假名づかひ 宇田四郎 七九 小 中 一 辰文館 〇、四 語學 日本語—假名遣

繪畫、お話を挿みて平易に假名づかひを講ず。
第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
お伽旅行	近畿地方・藤川淡水	七二〇	小 中 一	四八	敬文館	〇、八五	文	陽堂 〇、八〇
お伽話	泉高部松風編	七九	小 一	一六〇	文陽堂	〇、八〇	文	陽堂 〇、八〇

かまはん坊(お伽文學第十二篇)	水田淵みづ	七九	小 中 一	一三	寶文館	〇、三	文	陽堂 〇、三
子供に見せる繪と畫させる繪	上田次郎	七九	小 中 一	一五	阿蘭陀書房	〇、五	文	陽堂 〇、五
波お伽新集	大波の巻 巖谷小波	七九	小 一	一六〇	文陽堂	〇、八〇	文	陽堂 〇、八〇
尋常課外讀本	十月の巻 葛原齒編	七二〇	小 中 一	二二	博文館	〇、六	文	陽堂 〇、六
尋常課外讀本	十月の巻 葛原齒編	七二〇	小 中 一	二二	博文館	〇、六	文	陽堂 〇、六
尋常課外讀本	十月の巻 葛原齒編	七二〇	小 中 一	二二	博文館	〇、六	文	陽堂 〇、六
尋常課外讀本	十月の巻 葛原齒編	七二〇	小 中 一	二二	博文館	〇、六	文	陽堂 〇、六
尋常課外讀本	十月の巻 葛原齒編	七二〇	小 中 一	二二	博文館	〇、六	文	陽堂 〇、六
世界の名勝くらべ(趣味の地 理第四編)	島田規一	七九	小 中 一	一六	博文館	〇、四	文	陽堂 〇、四
お伽飛ぶ船	鈴木星風	七九	小 中 一	一五	泰山房	〇、六	文	陽堂 〇、六
お伽空箱	鈴木星風	七九	小 中 一	一五	泰山房	〇、六	文	陽堂 〇、六
お伽たから箱	鈴木星風	七九	小 中 一	一五	泰山房	〇、六	文	陽堂 〇、六
最近東京府各學校入學試	入學受驗豫習會編	七二〇	小 中 一	一五	三友堂	〇、四	文	陽堂 〇、四
十ヶ年驗方問題及文例集	大正七年 芳進堂編	七九	小 中 一	一五	三友堂	〇、四	文	陽堂 〇、四
東京府各學校入學試	大正七年 芳進堂編	七九	小 中 一	一五	三友堂	〇、四	文	陽堂 〇、四
驗問題及模範答案	大正七年 芳進堂編	七九	小 中 一	一五	三友堂	〇、四	文	陽堂 〇、四
お伽はなし	草木村小舟	七二〇	小 一	一四	精文館	〇、五	文	陽堂 〇、五

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
以尺報尺	英、シエークスピア	七九	小中の	三	早稲田大學	一、五〇		
浮田騷動	平井 晩村	七九	小	二六	國民書院	〇、四〇		
御伽宇治拾遺物語	外山 たか子	七九	小中の	三六	廣文堂	一、三〇		
教育講談	細川 風谷	七九	小中の	三九	同文館	〇、六〇		
趣味講演	天野 雄彦	七九	小中の	三三	同文館	〇、六〇		
啄木選集	鳥村抱月等編	七九	小	一七〇	新潮社	〇、三〇		
戯曲白隠	中村 吉藏	七九	小中の	六四	天祐社	一、六〇		
蒙古來	平井 晩村	七九	小	一三	國民書院	〇、四〇		
レ・ミゼラブル	佛、ユイゴー	七九	小	六四	新潮社	一、六〇		

大正七年十一月十八日印刷納本
 大正七年十一月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 印刷所 日本圖書協會編輯部
 印刷人 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 連太郎
 發行所 日本圖書協會編輯部
 (一ヶ月前金書圖郵税不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第五卷 第十二號

△………専門的のもの
 ×………專近のもの
 ○………一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 菊列半載以下

第一 一般書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
イソツブ物語講義	市川 又彦	七〇	小中の	三三	早稲田圖書出版協會	〇、八〇		語學 英語 譯讀
鶉を飼ふて十年	大森 清次郎	七〇	中	四〇	東文堂	二、三〇		農業 養禽
王政復古の歴史	荻野 由之七	七〇	中	二五	明治書院	一、五〇		日本歴史 新編
歐米の逸話	野邊地 三右衛門編	七〇	小中の	二七	丁未出版社	一、五〇		傳記 逸話
送假名遣	わ かり 芳賀 矢一編	ハ一〇	中	一	育英書院	〇、二五		語學 日本語
△貨幣銀行問題	一斑 山崎 覺次郎	七〇	中	五三	有斐閣	三、五〇		經濟 貨幣
客を小賣店の飾窓	商店雜誌社編	七二	小	三三	佐藤出版部	〇、六〇		商業 店頭裝飾

注意、直譯の中間を取りて譯を附け註を施せり。
 東京帝國大學文科大學に於ける公開十回講義の筆記。
 ベエトオヴエンの名曲、フランクリンと宿屋の亭主、スキフトの奇癖、ジョンソンと野兎、ナボレオンと鎧師、路易十六世と馬具屋、ネルソンと候補生、ピットの結婚觀、ルッサウの頓智、リンコロンと求職者等。
 雜誌等に投寄せらる草稿中貨幣銀行に關する十數篇を拔萃す。
 小賣商店の小陳列窓にすぐ間に合ふべき窓飾を實際的に説明す。

厩肥の話(子安叢書)

麻生慶次郎 七二 小中の 一四 子安農園(神奈川) 〇〇 農業肥料

基督再臨問題講演集

内村鑑三 七二 小中の 三六 岩波書店 〇〇 宗教基督教

銀行會社職員錄

大正七年 日本興業通信社編 七二 小中の 八〇 日本興業通信社 四〇 商業會社

現代世界の史的觀察

大類 仲七二 小中の 二二 天佑社 一〇 歴史歴史論說

志を立つる道

足立四郎 吉七二 小中の 四六 文盛堂 一〇 倫理修養

最近西洋史講話

齋藤清太郎 七二 中 四一 明治書院 二〇 歴史西洋歴史

最近鐵及鋼化學分析試驗法

有田平一 市七二 小中の 二五 博文館 一〇 工業鋼鐵

最近倫理學の進歩

同文館編 七二 中 六三 早稻田同文館 二〇 哲學倫理

ザ・ユース・オヴ・ライフ講話

英、エ、ペ、リ、一譯 七二 小中の 三八 芳流堂 一〇 哲學英語

七 英 八 傑

大町芳衛 七二 小中の 三三 富山房 一〇 傳記傳記日本人

實枸椽酸製造法

猪狩源三 七二 小中の 四七 有隣堂 二〇 工業枸椽酸

兒童學概論

寛之七二 中 四三 洛陽堂 二〇 教育兒童學

世界の支那印象記

安本重治 七二 小中の 三三 東洋タイムズ社 一〇 地誌紀行外國

支那經濟小觀

堀江歸一 七二 小中の 三〇 新美書店 一〇 經濟支那

支那幣制改革

中國銀行則例改正、日支經濟同盟說、支那の天然資源閉鎖熱、對支經濟的援助等。

支那正觀

有賀長雄 七二 小中の 三七 外交時報社 一〇 地誌支那

十九世紀以後の戦争と講和條約

英、ボンソソビー、小山田秀治譯 七二 小 四九 廣文館 〇、五 政治外交

希臘獨立戦争以後の主なる戦争に就て其交戦國、過程、講和條約等を記述せるもの。

一 聖明治出版社 〇、五 哲學支那哲學

儒教と現代思潮

服部宇之吉 七二 小中の 一四 明治出版社 〇、五 哲學支那哲學

儒教と民主、功利、主觀、個人、平和の各主義に關する講演。

一 聖明治出版社 〇、五 哲學支那哲學

縮論語講義

根本通明 七二 小 五八 早稻田大學 一〇 哲學論語

某所に於ける講義の速記録。

一 中 八四 金港堂 三、〇 歴史日本歴史

趣味の日本史

中卷 新保磐次 七二 中 八四 金港堂 三、〇 歴史日本歴史

鎌倉幕府時代より戦國時代までを中巻とす多くの圖を挿み説明平易なり。

樹木百話 上村勝爾編 七、二 小中 三〇 成美堂 一、三 農業樹木

食物の經濟 澤村 眞七、二 小中 四三 成美堂 一、三 醫學飲食

經濟の眞の意義に適する食物の使用法を説く。

書經講義(漢文註釋全) 林 泰 輔七、一〇 小 一〇三 明治出版社 二、三 歴史書

平易簡明を旨として講述す。

新白樂天詩集 井土經重編 七、二 小 五三 日進堂 一、三 文學漢詩

漢詩作法を附す。

眞人良寛池田三郎七、二 小中 一八 文武堂 一、〇 宗教良寛

評論を加へたるところ多し。

二宮新報徳記 佐々井信太郎編 七、〇 中 三四 中央報徳會 一、三 倫理報徳

先生傳 二宮尊徳の生立、事業、面影等を詳密に叙し、精緻なる詳論を加ふ。

水産學通論 藤田 經信 七、二 小中 一六 斐華房 一、三 農業水産學

水産の本義、分類、水産業の價値、刷新等に關する講演の校本を増訂せるもの。

瑞西よ 守田 有秋 七、二 小中 三四 日吉堂 一、〇 地誌紀行外國

主として瑞西旅行中の觀察、感想等を述ぶ、文に趣味あり。

靜的宗教と動的宗教 海老名 彈正 七、二 小中 五七 大鏡閣 一、三 宗教基督教

基督教の靜的宗教なると同時に動的宗教なる所以を論ず、

青年團員を對象としたる 馬場 愀輔 七、〇 中 三六 秀文社 一、三 教育實業教育

季節的實業補習學校經營の實際

實業補習學校經營に關する一切を懇切着實具體的に詳述せり。

石炭略説 岩崎 重三 七、〇 小中 一四 老鶴園 〇、八 工學石炭

石炭の性質と其使用法に關する通俗的の説明。

潜航艇物語 東 健而 七、一〇 小中 七三 玄文社 一、三 兵事潜航艇

潜航艇の構造、歴史等を説明し實戰記を附す。

實地旋盤工必携 正木 助三 七、〇 小 四 工學書院 〇、七 工學旋盤

機械鐵工に從事する一般初學の職工に直接必要なる事項を平易に記述す。

其日の話 大庭 景秋 七、〇 小 五三 春陽堂 〇、八 隨筆隨筆

江戸團扇、占ひ、樂天宗、お伽噺、看板、維新史挿話、薰香、貧乏の棒、風呂等題目廣し。

大藏經要義 卷の十 本多 日生 七、〇 中 四三 博文館 二、四 宗教大藏經

前巻に續き大寶積經を全部講述す。

通俗造船學講義 佐藤 保三 六、二 小中 三七 興文堂 二、六 工學造船學

専ら木造船の一般を述べたるもの。

採集通俗脈翅類圖説 岡崎 常太郎 七、一〇 中 一〇〇 三松堂 〇、七 理學動物學

必携トノボ類に就て説明し其採集法、保存法に及ぶ。

△帝王教育思想史 獨、ミュンヒ 西田 宏譯 七、二 中 一〇九 洛陽堂 八、〇 教育帝王教育

王侯貴族の教育理想を詳説せるもの。

△哲學大辭書 大日本百科辭書 三版 編輯所 版 七、二 大 三三 同文館 四、〇 哲學哲

△統治權論 松本 重敏 七、二 中 一五 盛巖松堂 五、〇 政治統治權

統治權の學理を研究し著者の説を發表す。

銅 と 銅 山 鏡 山 協 會 編 七、〇 小中 一四 大日本工業學會 一、〇〇 工業 銅
銅及び銅鏡、銅鑛床及び銅鑛脈、銅の鑛石及び製鍊法、本邦の銅山等に就きて簡明に記述す。

動物 界 の 挿 話 原 正 二 編 七、二 小中 一三 洛 陽 堂 一、〇〇 理 學 動 物 學
動物生活の興味ある事實を多く集めたるもの。

毒 と 藥 田 山 錄 彌 七、二 小中 一三 耕 文 堂 一、三 文 學 日 本 文 學
眞劍の強味、小説新論、明治文學の概観、社會劇と印象派、尾崎紅葉と其作品。社會と自己、文壇一夕話、動的藝術、西鶴小論等。

土 耳 其 の 現 勢 と 近 東 問 題 小 林 哲 之 助 七、二 小中 一四 大 鏡 閣 一、五 政 治 土 耳 其
前著「ガラタ塔より」の改題。

英 文 ト ル ス ト イ 短 篇 講 義 (北 星 堂 講 義) 露、ト ル ス ト イ 吹 田 佳 三 譯 七、〇 一 小 一八 北 星 堂 〇、七 語 學 英 語 一 英 文 和 譯 研 究
長 期 流 刑 (悔 改 め の 罪 人 等 五 短 篇 を 譯 註 せ り)。

△ 日 本 民 法 債 權 第 一 卷 小 鳥 愛 三 郎 七、〇 一 中 六 六 有 斐 閣 二、五 法 律 民 法
各國法を引用比較して研究す。

乳 兒 の 教 育 市 川 源 三 七、二 一 小 一 〇 隆 文 館 一、〇〇 家 事 育 兒
乳兒の育て方を平易に述く。

子 供 の 人 形 の 國 西 山 哲 治 七、二 小中 一三 吾 南 北 社 一、五 教 育 兒 童 研 究
人形と兒童心理、人形による教育、人形及雜と文學、人形の研究、帝國人形病院、スタンレーホール博士の人形研究。

猫 の 首 つ り 堺 利 彦 七、二 一 小 一 〇 三 松 本 商 會 一、〇 隨 筆 隨 筆
著者の小説、隨筆、論文、講話、短評等を集む。

話 方 教 授 飯 田 恒 作 七、〇 小中 一三 五 教 育 研 究 會 一、三 教 育 教 授 法 一 話 方

話 方 教 授 と 國 語 教 育、話 方 と 言 語 問 題、話 方 教 授 の 機 會、話 方 の 教 材、話 方 教 授 の 方 法、話 方 の 指 導、各 學 年 話 方 教 授 實 際 等 に 就 きて 詳 説 す。

犯 罪 心 理 講 話 寺 田 精 一 七、〇 一 中 一 〇 六 心 理 學 研 究 會 三、五 哲 學 心 理 學
犯罪の發生、本能と社會適應性と環境、悪性の遺傳、知能の異常、感情の異常、意志の異常、性慾の異常、模倣と犯罪、衆と犯罪、年齢と犯罪、氣候と犯罪、犯罪行為に伴ふ經驗、偽名と隱語に關する研究。

東 山 の 麓 よ り 成 瀬 清 七、二 一 小 一 五 七 大 鏡 閣 一、七 文 學 文 學 一 雜
著者の小説、感想、隨筆、翻譯劇等を集む。

秀 吉 と 家 康 横 山 達 三 七、〇 一 小 一 三 六 東 亞 堂 一、五 傳 記 德 川 家 康 秀 吉
秀吉と家康及び其周圍の人物を比較評論す。

百 九 十 字 三 十 日 講 義 熊 崎 康 人 七、〇 一 小中 一四 三 長 久 社 一、七 語 學 日 本 語 一 速 記
熊崎式速記術の平易なる講述。

日 本 國 民 文 化 よ り 見 たる 鎌 倉 時 代 醍 醐 惠 端 七、二 小中 一三 四 明 誠 館 一、三 歷 史 日 本 歷 史 性 的 研 究
鎌倉時代の政治、文學、佛敎、美術、思想及び國民の生活に關する研究。

ペ ー ト ル 大 帝 (西 洋 史 新 話 第 九 册) 箕 作 元 八 七、〇 一 中 一 三 八 博 文 館 一、五 傳 記 ビ ー ト ル 大 帝
ペートル大帝の善惡兩面を描く、文に興味あり。

邦 語 中 學 英 文 法 講 義 中 等 英 語 研 究 社 編 七、〇 一 小中 一八 七 開 文 社 〇、七 語 學 英 語 一 文 典
佛 様 の 素 行 調 査 木 村 淨 圓 七、二 一 小 一 三 七 中 央 出 版 社 一、三 宗 敎 佛 敎
閻魔大王、地藏菩薩、釋迦如來、阿彌陀如來、不動明王、大辨財天等を並べての棚下しアラ捜し等面白し。

綠 の 地 平 (新 歌 集 叢 書 第 四 册) 土 岐 善 磨 七、二 一 小 一 三 三 東 雲 堂 〇、七 文 學 和 歌
著者最近の歌集。

無線電話 田村成義 七、一〇。小の 三三 玄文社 一、五 諸藝演劇
 守田勘彌、尾上菊之助、高島屋お琴、中村芝翫、鈴木幸平、清元お葉等よりの電話體の文章にて樂園の逸史を面白く記述したるもの。
 滿蒙行 大 陸 へ 眞繼義太郎 七、一〇。小の 三三 泰山房 一、三 地誌紀行 外國
 滿蒙に於ける事業界、金融、土地所有權其他著者の觀察せるところを紹介す。
 吉田松陰 (偉人史談) 岡部精一等 七、一〇。小の 一六 平凡社 〇、五 傳記 吉田松陰
 吉田松陰の學說思想性質、妹の見たる松陰先生等。
 歴史自習辭典 日本部 岡田麻策編 七、一〇。小の 三三 春和堂 一、三 歴史 日本歴史
 中等學校生徒用。
 露國革命記 布施勝治 七、一〇。小の 四四 文雅堂 二、〇 政治 露西亞革命
 著者彼地にあつて實地觀察せるところを記すこと詳細。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	大小	頁数	發行所	定價	分類	件名
幼なけれども (物語集)	上澤謙二	七、二	一	小の	一七	洛陽堂	〇、八〇	一	洛陽堂
お伽のへそ	中井修	七、二	一	小の	三四	下村書房	〇、六〇	一	下村書房
格言お伽噺 (お伽文庫)	藤川淡水	七、二	一	小の	三九	敬文館	〇、四六	一	敬文館
教訓日本昔ばなし (お伽文庫)	高木敏雄	七、二	一	小の	二三	敬文館	〇、四八	一	敬文館

書名	著者名	発行年月	冊数	大小	頁数	發行所	定價	分類	件名
入學算術はかうすれば出来る	南海書院編	七、一〇	一	小の	一五	南海書院	〇、五〇	一	南海書院
知らぬ御國へ (物語集)	上澤謙二	七、二	一	小の	一三	洛陽堂	〇、八〇	一	洛陽堂
新作お伽學校 (お伽文庫)	少年文學研究会編	七、二	一	小の	二五	敬文館	〇、四八	一	敬文館
尋常課外讀本十一月の巻	葛原 齒編	七、二	一	小の	二三	博文館	〇、三六	一	博文館
尋常課外讀本十一月の巻	葛原 齒編	七、二	一	小の	二三	博文館	〇、三六	一	博文館
尋常課外讀本十一月の巻	葛原 齒編	七、二	一	小の	二三	博文館	〇、三六	一	博文館
尋常課外讀本十一月の巻	葛原 齒編	七、二	一	小の	二三	博文館	〇、三六	一	博文館
尋常課外讀本十一月の巻	葛原 齒編	七、二	一	小の	二三	博文館	〇、三六	一	博文館
尋常課外讀本十一月の巻	葛原 齒編	七、二	一	小の	二三	博文館	〇、三六	一	博文館
新日本教育昔噺 (お伽文庫)	高木敏雄	七、二	一	小の	三六	敬文館	〇、四六	一	敬文館
馬鹿の小猿 (世界童話集)	鈴木三重吉	七、二	一	小の	三〇	春陽堂	〇、六〇	一	春陽堂
ろしあお伽集 (露國民衆文學全集第一編)	昇曙夢	七、一〇	一	小の	三〇	大倉書店	一、三〇	一	大倉書店
論語お伽噺 (お伽文庫)	藤川淡水	七、二	一	小の	三六	敬文館	〇、四六	一	敬文館

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	大小	頁数	發行所	定價	分類	件名
栗山大膳	碧瑠璃園	七、二	一	小の	六九	大鏡閣	二、三〇	一	大鏡閣

小午	前	二	時	長	田	秀	雄	二版	中	秀	文	社	一、五〇	
聖	壇	生	活	小	田	律	譯	七、〇〇	中	文	社	一、〇〇		
實	錄	仙	臺	萩	碧	瑠	璃	四版	中	大	鏡	關	二、〇〇	
縮	浪	六	全	集	第	十	二	編	村	上	浪	六	七、二	
他	見	男	さ	ん	物	語	奥	野	他	見	男	七、〇〇	四版	
小	さ	さ	き	者	へ	(有島武郎著)	有	島	武	郎	七、二	中	一、六	
血	て	描	い	た	畫	小	川	未	明	六、〇	小	四、〇	新	
二	人	の	不	幸	者	廣	津	和	郎	七、〇	中	三、五	新	
盤	無	名	作	家	の	日	記	(新進作家叢書第十五編)	菊	池	寬	七、二	小	一、五
草	久	米	正	雄	七、二	中	三、三	新	潮	社	〇、六	二	五	
獨	久	保	正	夫	譯	七、〇	中	三、三	新	潮	社	〇、六	二	五
日	比	谷	圖	書	館	頭	今	澤	慈	海	共	著	二	五
少	年	世	界	主	筆	竹	貫	直	人	共	著	二	五	

兒童圖書館の研究

現に普通圖書館の兒童部、兒童圖書館等に關係ある人又は兒童圖書館を開設せんとする人々等には無二の良參考書なり詳細は次號に紹介すべし。

大正七年十二月十八日印刷納本
大正七年十二月二十日發行

編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館內 日本圖書館協會編輯部 (一ヶ月前金寄附郵税不要)

定價金一圓二十錢
博文館發行

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷 第一號

第一 一般書類

書名	著者	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
醫學的催眠術と疾病及惡癖	糸左近	七、二	一冊	三三	芳流堂	一、〇〇	醫學	催眠術
生さるの道 (縮刷名著叢書 第四十七編)	田尻稻次郎	七、三	一冊	四四	東亞堂	二、〇〇	倫理	修養
精神修養の工夫、豆粕飯の獎勵、我國の美風と精神の修養、日本の經濟財政、我國民の特性、戰後國力増進策、無くて七癖、時局に關する經濟問題、工業經營の根本方針等。	市川左團次 (舞臺のおもかげ)	七、三	一冊	一〇〇	好文社	三、〇〇	諸藝	演劇
左團次の技藝を代表すべき役々の寫眞及解説。	安部 豐	七、三	一冊	一〇〇	好文社	三、〇〇	諸藝	演劇
新約聖書中に顯れたる箴言警句を蒐録す。	松本 苦味編	七、三	一冊	二六	大日本雄辯會	一、〇〇	宗教	聖書
精神逸話の泉 第四編	高島平三郎編	七、三	一冊	四三	洛陽堂	一、〇〇	倫理	修養
精神逸話の泉 第五編	高島平三郎編	七、三	一冊	四三	洛陽堂	一、〇〇	倫理	修養
本編は支那の卷なり周公の攝髮、孔老の會見、子路米を負ふ等百數十題あり。	英雄 逸話の庫	七、三	一冊	五五	中央出版社	二、〇〇	傳記	日本人

△………専門的のもの
×………卑近のもの
其他は………一般的のもの
大 四六二倍以上
中 四六
小 四六
菊判半裁以下

和氣清麿、平將門、菅秀才、八幡太郎等百十七人の逸話を集む。

二十年 鶉飼養法 赤木顯次 七二二 小中の 三六 博文館 〇八五 農業養

鶏の種類、飼料、飼養法、管理法等に就て通俗的に説明す。

大阪及管内 營業別電話名簿 十字屋編 七二二 一中 五五 十字屋(大阪) 三三〇 通信電

神戸尼崎 營業別電話名簿 十字屋編 七二二 一中 四七 明誠館 三三〇 教育教

歐米教育の自動的傾向 (自動教育研究叢書第一編)

獨、英、佛、米諸國の自動教育法を述ぶ。 波邊海旭 七二二 一中 二六 丙午出版社 一五〇 宗教佛

歐米の佛教 (佛教大觀 第五編) 波邊海旭 七二二 一中 二六 丙午出版社 一五〇 宗教佛

パリ聖典の研究、梵語佛敎聖典の研究、支那佛敎の研究、西藏佛敎の研究、印度學研究上の佛敎、西域發掘上の佛敎、歐米に於ける佛敎の感化等。

オリム 競技の實際 野口源三郎 七二二 小中の 六五 大日本體育協會 二〇〇 體藝運

ビツク 各競技の規定其他を解説す。

科 學 と 犯 罪 寺田精一編 七二二 一中 四三 文明書院 三〇〇 法律犯

模範 化學問題 正解 山添豊作 七二二 一小 二〇〇 東盛堂 二〇〇 理學化

主なる中等教科書及び専門學校入學試験問題等の解説。

家庭に於ける 婦人の覺醒 高峰博 七二二 小中の 四八 洛陽堂 一六〇 家事家

初夢と寶船の話、悲惨なる一家庭の話其他。

家庭の藥草栽培 藥草普及獎勵會編 七二二 小中の 一四八 眞文社 〇〇五 醫學藥

需要多く栽培の容易なるもの百數十種を擧ぐ。

投資 株式と社債 兒林百合松 七二二 小中の 三四 歐文堂 二〇〇 經濟投

株式及び社債の性質と其利用法とを明かにす。

カミロ・カヴール (英傑傳叢書 第八編) 阿部秀助 七二二 一中 三三 實業之日本社 三〇〇 傳記カヴール

不タリヤ建國の歴史に於けるカヴールの苦心等を力説せり。

觀 音 經 講 話 釋 宗 演 七二二 一中 四一 光融館 三〇〇 宗教觀音經

婦人道話會に於ける講演の速記。

漢文は斯の如く研究せよ 堤達也 七二二 一小 二六 敬文館 〇九〇 語學漢

漢文學獨習者の指針。

幾何學軌跡及作圖 柳原吉次 七二二 一小 三五 大倉書店 〇四〇 數學幾何學

中等程度。

戲曲作法 (文藝研究叢書 第七編) 小山内薫 七二二 小中の 三七 春陽堂 〇六〇 文學戲

英國有名の劇學者なるアアチャアの戲曲作法に據る。

揮毫 覽 秋山四郎編 七二二 一小 二四 博文館 一〇〇 美術書

政治家、軍人等の部門を設けてそれ等の人々に適する格言集語を集む。

牛 乳 要 說 西山晴齋 七二二 一中 二六 目黒分店 二〇〇 農業牛

牛乳の理學的、化學的性質、牛乳の組成成分及乳量に及ぼす種々の影響、牛乳の反應、牛乳中の酵素、牛乳中のバクテリア、牛乳の有害的性質、牛乳の研究法等。

教育文學 十 講 三浦關造 七二二 小中の 七九 隆文館 三〇〇 教育文學

國家(アトラー)御足の跡(ケムピス)大教育(コメニユース)エミール(ルツツウ)石屋の妻(ベスタロツチ)獨逸國民に告ぐ(フイヒテ)人の教育(フレイベル)第一步(トルストイ)民主主義と教育(ヂュニエイ)士道(山鹿業行)の抄譯。

近世日本國民史 續田氏時代 前篇 徳富猪一郎 七二二 一中 三三 民友社 三三〇 歴史日本歴史

明治中興の皇漢の淵源としての續田氏時代を論ず。

金屬の銲接及截斷法 桐淵 勲藏 七二 中 大日本工業學會 四〇〇 工業 冶 金
 主として火燭銲接及截斷殊に酸素アセチレン焰を用ふる場合に就きて詳述せり。
 偶 像 再 興 和 辻 隆 哲 郎 七三 小 岩 波 書店 一八〇 文學 文學—論文
 體験と思索、思索と藝術、藝術と文化に關する論文集。
 國民として有 軍事 知識 獨、エンドレス 七二 中 一七 以 文 會 〇六〇 兵事 兵 事
 たねばならぬ 戰略及戰術の一般、戰略的作戰、上陸、山地作戰及要塞、命令技術及戰略の補助材料、會戰、地形、海戰術の説明等。
 △刑事訴訟法 原論 岡 田 庄 作 七三 中 八八 巖 松 堂 四〇〇 法律 訴 訟 法
 明治大學に於ける講義を修補したるもの。
 安全 工業事故豫防法 電氣及機 工業講話會編 七二 小 六四 精 文 館 三六〇 工業 工 業
 裝置 機械より生ずる災害を未然に防ぐ用意を説き、機械の全能力を發揮せしむる方法等に及ぶ。
 工場 通 覽 農 商務 省編 七二 中 二〇六 日本工業俱樂部 三〇〇 工業 工 場
 全國の工場名稱、製品種類、所在地、工場主名、創業年月、職工數、原動力を調査す。
 吃度 小賣店の仕入 商店雜誌社編 七三 二版 小 一四 佐藤出版部 〇五〇 商業 仕 入
 儲る 確かな品質のものを上手に仕入れる方法を平易に説く。
 賣掛 小賣店の集金 商店雜誌社編 七三 小 二〇 佐藤出版部 〇七〇 商業 集 金
 回收 賣掛金の督促法は主として手紙に依る場合の説明をなせり。
 國民 日 本 歴史 高 橋 俊 乘 七三 小 七五 富 山 房 三六〇 歴史 日 本 歴史
 通俗なる言文一致體。
 最新 一 萬 歌 集 窪 田 通 治 編 七三 小 一三 越 山 堂 〇七五 文學 和 歌
 明治より大正にかけて刊行されたる歌集中より秀拔なる歌を選みたるもの。

科學 自然の美と恵 愛 知 敬 一七二 中 三四 丸 善 三六〇 理學 理 學
 彙話 火星と其の生物、空中の美觀、色彩の世界、ラヂウム副原器、月世界、吾々も變て盲、酷寒酷熱、太陽の恵。
 最近 市 町 村 名 鑑 藤 澤 衛 彦 等 編 七三 中 六五 地方名鑑發行所 三〇〇 地誌 日 本 地 誌
 一廳、三府、四十三縣、朝鮮、臺灣、樺太、關東州を含む。
 兒童 圖書館の研究 竹 貫 直 慈 海 七三 中 一〇六 博 文 館 二〇〇 教育 圖 書 館
 英國近世圖書館界の一權威セイアリス氏の著「兒童圖書館」により著者の識見を點綴して本邦兒童圖書館の設立經營上當面の手
 引案内書。
 西伯利 經濟 地理 井 染 謙 郎 七二 中 六四 外 文 時 報 社 三六〇 地誌 西 伯 利
 主として西伯利の礦產物、有用植物、農林業、動物の產業的利用と牧畜漁獵、工業、牛酪製造業、商業、財政及金融、交通及
 通信系統等に就きて説明す。
 富源 シベリヤの實情 酒 卷 貞 一 郎 七二 小 二七〇 廣 文 堂 〇九〇 地誌 西 伯 利
 開拓 西伯利亞の富源、水陸交通、西伯利亞に於ける列強等に就きて記述せり。
 射影幾何學 (數學叢書) 林 秀 雄 一七二 中 五九 大 倉 書 店 三三〇 數學 幾 何 學
 數量を遠ざけ射影に立脚して専ら位置の側より圖形の性質を究明す。
 社會 學 的 研 究 高 田 保 馬 七三 中 三六 實 文 館 二〇〇 社會 社 會
 社會學方法論の問題、社會人口及び社會心意の問題、社會組織及び社會幸福の問題に關する論文集。
 對照 修 養 百 譚 山 田 愛 劍 七二 小 四六 忠 誠 堂 一五〇 倫理 修 養
 格言 修養、誠實等に關する修養法を實例を擧げて説明す。
 趣 味 の 文 が ら 厨 川 辰 夫 等 編 七二 小 六六 博 文 館 一六〇 文學 日 本文學—文集
 雜誌文學世界にて磯千鳥の匿名を以て好評ありし故著者の隨筆小品、小説等を集む。
 空中 硝 酸 製 造 法 中 谷 達 次 郎 七二 中 一四九 善 三三〇 工業 硝 酸
 案 固 定

歐米に於ける諸化學者の研究結果を考究し現代の窒素固定方法を講述す。

新詩歌論講話 西宮藤朝 七三 一小 新潮社 〇八 文學詩歌

詩の原理を論ず、廣く和漢洋の詩歌を引用せり。 一五 大阪屋號 〇七五 數學算術

たやすく新式暗算法 岸田隆之丞 七三 一小 天祐社 二〇〇 政治政治論文

寄せ算、引き算、掛け算、割り算、分數等のたやすく暗算法を説く。 一六 三進堂 二〇〇 理學たぬき

腎臟炎と糖尿病 菊池林作 七三 一小 實業之日本社 〇七〇 醫學治

腎臟病と糖尿病に就て最新治療法の一般並に其食養法等を詳述す。 三九 丸善 四〇 醫學解剖學

△人體系統解剖學 卷之二 鈴木文太郎編 七二 一大 三九 丸善 四〇 醫學解剖學

本巻は筋系なり精密なる圖畫を多く挿めり。 中 四五 寶文館 三〇〇 經濟信託

信託及信託會社細矢祐治 七二 一小 新潮社 〇七五 新聞新聞

新聞雜誌記者となるには？ 森本巖夫 七三 一小 新潮社 〇七五 新聞新聞

新聞雜誌記者となる人はいかなる修養、資格、覺悟を要するか、又職を斯道に得る實際上の手續方法等につきて根本的に説けるもの。 中 七五 明治書院 三〇〇 文學 日本文學—文集

聖者の話 英、ビ、ア、ス 七三 一小 江原書店 二〇〇 社會傳説

十種の傳説を集む。 中 七五 明治書院 三〇〇 文學 日本文學—文集

醒雪遺稿 大町芳衛編 七三 一小 明治書院 三〇〇 文學 日本文學—文集

内容を研究、趣味、教育、時評、俳諧、紀行、演藝等に分てり。 中 七五 明治書院 三〇〇 文學 日本文學—文集

泉聲 錄大町芳衛 七三 一小 明治書院 三〇〇 文學 日本文學—文集

著名の文集。

創造教育の理論及實際 千葉命吉 八一 一中 五七 同文館 三〇〇 教育教育

創造教育の理論と各科教授の實際を述べ。 一小 一五 研究社 〇七五 語學 日本語—作文

作文講話 即席と宿題 八波則吉 七三 一小 研究社 〇七五 語學 日本語—作文

作文の心得に關する講話。 一小 三六 弘學館 一〇〇 宗教空海

大聖空海 横山達三 七二 一小 弘學館 一〇〇 宗教空海

絶代の高僧たる空海の人物評なり、教義の批判に關せず。 中 八五 更生會(秋田) 六〇 農業園藝

培養 大日本菊銘鑑誌 卷之二 更生會編 七二 一小 老鶴園 三〇〇 工學 タングステン

秘訣 菊花に關する事柄を一切網羅して編述せり。 一小 一三 老鶴園 三〇〇 工學 タングステン

ダクチル・タングステンの發明 木村駿吉編 七二 一小 老鶴園 三〇〇 工學 タングステン

タングステン發明前後に於ける白熱電燈の工業、冶金學より見たるタングステンの加工法等を述べ。 一小 一六 三進堂 二〇〇 理學たぬき

たぬきに關する諸方面よりの研究。 一小 二〇〇 調精術普及會 一〇〇 醫學治

調精術 森山義郎 七二 一小 調精術普及會 一〇〇 醫學治

一種の健康増進法及物理療法。 中 二五 教育社 三〇〇 美術圖案

應用的圖案法講話 藤村彦四郎 七二 一小 早稻田大學出版部 一〇〇 歷史 世界大戰

圖案構成に必要な美の原則と模様組織法と配色法とについて實際的の記述をなす。 一小 五三 早稻田大學出版部 一〇〇 歷史 世界大戰

俗通 世界大戰史 上卷 早稻田大學編輯部編 七三 一小 早稻田大學出版部 一〇〇 歷史 世界大戰

世界大戰の序幕より海上戰闘の經過まで。 一小 一五 洛陽堂 〇七〇 醫學肺病

俗通 肺病の豫防と療法 鳥海豐七二 一小 洛陽堂 〇七〇 醫學肺病

素人にも出來得る種類の肺病豫防法と療法を平易に記述せり。 一小 一五 洛陽堂 〇七〇 醫學肺病

帝國の使命と青年の覺悟 田中 義 一七二 小中の 二六 誠文堂 二五 倫理修養
 青年及在郷軍人に對する指導法と抱負に關する論文、講演等を集む。
 提唱 碧巖集 上卷 中原 鄧州 七二 一中 六四 大阪屋號 三五 宗教雜
 和訓、提唱、註釋に分つ、説明詳密なり。
 天界の神秘 (興味ある科學) 原 正 二 編 七二 小中の 三六 洛陽堂 一〇〇 理學天文學
 太陽系、恒星界、隕石、原始空氣、地熱等に就ての通俗的説明。
 電氣磁氣測定法並測定器具 卷下 清水 與七郎 七二 一中 四六 裳華房 四〇 工學電氣工學
 積算電氣計器、熱度計等に關する詳細なる説明。
 獨逸語發音圖解 丸山 通 一七二 小中の 四九 裳華房 四〇 工學電氣工學
 多くの寫眞版を挿みて解説す。
 參考 答 案 式 化學粹 中學教育會編 七二 小中の 三七 水野書店 〇五 理學化學
 東京遊學案内と學校の評判 太田 英 隆 七二 小中の 三九 二松堂 一三〇 教育入學案内
 公平忠實なる評判記を添へて入學學校選定者の參考に資す。
 註 藤 公 詩 集 橋原 正章 編 七二 一小 六八 忠文堂 一〇 文學漢詩
 故伊藤公の詩を集め評語を加へ註解を施せり。
 投資物の比較研究 小川 鐵 堂 七二 小中の 二六 實業之日本社 一三〇 經濟投資
 株、米相場、土地、家屋等投資の利害得失を比較研究す。
 動物の心の心 米、ワツシユバイン 谷津直秀等譯 七二 一中 四五 裳華房 三三 理學動物學
 動物の心理殊に下等動物の心理一斑を紹介す。
 銅 冶 金 法 上卷 小室 靜 夫 七二 一中 三四 日本鑛業新聞社 二八〇 工學冶金

鑽石の豫備取扱と熔鑛に就ての詳細なる説明。
 家庭 應用 特殊 染色法 馬 淵 七 六 七二 小中の 三四 甲陽堂 〇六 工業染物
 絞り染法、型付け染色法、雜染法、染色物、取扱法等を平易に説明す。
 良妻 物語 内 助 の 力 平 間 力 之 助 七二 小中の 三五 尙榮堂 一七 倫理事蹟
 子の爲に漢語諷誦、夫を死神より奪ひ返せし婦人、女だてらに餅搗きを爲す等。
 日 蓮 主義 綱 要 本 多 日 生 七二 小中の 四三 博文館 二〇 宗教日蓮宗
 日蓮主義の判教觀、佛陀觀、人身觀、本尊觀、行法觀、得益觀の六大教義に關し懇篤なる解明を與へしもの。
 日 蓮 主義 の 運 用 本 多 日 生 七二 小中の 四七 中央出版社 二〇 宗教日蓮宗
 獨逸國民性と日蓮主義、露國革命よりの教訓、三大自覺、正當なる理解等。
 日 本 結 髮 史 稻 葉 統 一 七二 小中の 三八 春陽堂 一八〇 社會結髮
 上古より明治時代までの髮の結び方、用具及び裝飾品につきて詳説す。
 日本に於ける歸化植物 平 山 常 太郎 七二 小中の 三五 洛陽堂 一〇〇 理學植物學
 歸化植物の渡來と傳播、文明の潮流より見たる歸化植物、進化論より見たる歸化植物、歸化植物學の指示する法則と植民、地
 理上より見たる歸化植物、歸化植物傳播の方法を説き各種類に及ぶ。
 實地 日本農業の經濟的變遷 齋 藤 萬 吉 編 七二 一中 三〇 西ヶ原書刊行會 三三 農業農業經濟
 農村の戸口、主要農産物、米價、農地の價格、農家の戸數、農地の負擔、土地所有權、農家の家計、農家の負擔、栽培經濟等
 に關する調査。
 改 日本藥局方備考 飯高芳康等編 七二 小中の 一〇〇 朝香屋 四〇〇 醫學藥學
 藥局方の註解の外實地治療篇等の附録あり。
 紐育株式取引所 橋 本 喜 作 七二 小中の 二六 ダイヤモンド社 一七〇 商業取引所
 紐育に於ける株式取引の狀況を詳説す。

農家肥培論講話 鈴木千代吉 七一 中 三六 西ヶ原叢書刊行會 三〇〇 農業肥
 肥しの拵へ様、施しやうなどを通俗的に説く。
 新話 脳 味 嗜 高 峰 博 二版 小 三六 良書普及會 〇五 醫學 醫學—雜書
 精神科學上より見たる七福神、史上に有名なる人と變質者、アルコール中毒の話、煙草の話、神經衰弱症及び其の療法、青年
 と性慾、腦味噌の話等。
 煤 煙 下 の 大阪 佐田富三郎 七二 小 四四 ダイヤモンド社 一七〇 經濟經
 時事問題によりて大阪の經濟事情を紹介す。
 白 國 の 義 戰 白、ビュファン編 町田梓樓譯 七二 中 二二 丁未出版社 三三〇 歴史 白 耳 義
 白耳義國民が上下一致皆死を願みずして奮闘したる實狀を叙す。
 複 式 和 文 獨 譯 大 津 康 増訂 七三 小 四八 獨逸語發行所 二〇〇 語學 獨 逸 語
 系統らしき系統を設けず多方面に涉りて和文獨譯法を講ぜり。
 佛 教 の 新 研 究 上宮教會編 七三 中 二〇 大阪屋號 一七〇 宗教 佛
 主として各宗義の大要等を述べたるもの。
 佛 教 の 要 諦 印、ナラヌ 立花俊道譯 七三 小 五三 玄 黃 社 三〇〇 宗教 佛
 佛教の主要なる思想佛教藝術及生活等を紹介す。
 物 理 學 汎 論 下 卷 日下部四郎太 七二 中 四八 裳 華 房 五〇〇 理學 物 理 學
 光の反射及屈折より宇宙觀に至る。
 文檢二西洋東洋日本教育史 渡部政盛 七三 中 八六 大同 館 三〇〇 教育 教 育 史
 文檢受験者の參考書。
 △富井先生 法律論文集 杉山直治郎編 七二 中 一三六 有 斐 關 七五 法律 法 律—論 文
 選譯祝賀 中島、立、岡田、穂積、泉二、織田、春木、岡松、鳩山、仁保、松波、雉木、仁井田、加藤、山田諸博士等の論文を集む。

僕 の 英 文 日 記 伊地知純正 七二 小 一九 研 究 社 〇五 語學 英語—作文
 註釋及び訂正文等あり。
 保險と經濟(法律學經濟學研究 叢書 第二十二册) 小島昌太郎 七二 中 三三 京都法學會(京都) 二〇〇 經濟 保 險
 保險の本質を研究してそれが經濟との根本關係を闡明す。
 本邦 礦 業 と 金 融 上野景明 七二 中 五〇 丸 善 四〇〇 工業 礦 業
 鐵山調査、鑑定及經營に關する事項と鐵業金融に關する事項とを述べたるもの。
 松 川 養 鶏 法 松 川 潔 七三 中 五七 東 文 堂 三〇〇 農業 養 禽
 學理を經とし著者多年の實驗を緯として編述せり。
 滿 蒙 探 險 記 深谷松濤 七二 小 四三 博 文 館 二〇〇 地誌 紀行—外國
 多くの實地寫生畫を挿みたる滿蒙の半面を紹介す。
 滿 蒙 通 覽 上、中編 福昌公司編 七三 中 二四〇 大阪屋號 一八〇〇 地誌 滿洲、蒙古
 滿洲、蒙古に於ける遠き過去より現在に及ひ有ゆる社會現象を集成す。
 △民事訴訟法大綱 仁井田益太郎 七二 中 八三 有 斐 關 五五 法律 訴 訟 法
 民事訴訟法及び人事訴訟法の二法典に掲ぐる規定を收めて其要旨を説明すること共に民事訴訟法に關する理論の一斑を示し併
 て民法其他の法律に對する關係を指摘せり。
 △無機製造工業化學 上 卷 田中芳雄 七二 中 六三 丸 善 五〇〇 工業 工業化學
 無機製造工業化學に關して其梗概を説きたるものにて又最近の發達に係るものは悉くそれを網羅したり。
 於ける珍らしい話と面白い話 加藤美倫編 七二 小 二九 誠 文 堂 一五〇 雜 雜
 心靈の奇現象、人體の不思議、金の世の中、奇風異俗等。
 譯註 弘道館述義 藤田彪 七二 中 三四 川又書店(水戸) 二〇〇 倫理 國民道德
 我が國民道德の淵源を論じ其の本質を説き其の變遷を叙す。

△列強 財政 經濟 政策 松崎藏之助 七一 中 畜有 斐 關 五〇 經濟 財 政
 戰時 列國の財政、金融、貿易、商業、工業、戰時施設、食料政策等を調査す。
 我 思 ふ 所 永田秀次郎 七二 小 三四 博文 館 一三〇 政治 政治！論文
 大正の新精神、立憲國民としての進路、民本主義と皇室等。
 和 譯 孟 子 三島章道 譯 七二 一 小 五五 大同 館 一〇六 哲學 東洋哲學
 現代語に譯せり。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
教 伽の寶箱	五十嵐松園	七二	小の	三五	泰山房	〇七五		
伽 福袋	竹貫佳水	七二	小の	三四	博文 館	〇六		
おとぎ 八つのかはり	八波 其月	七二	小の	一六	敬 文 館	〇六〇		
おとし 八つのかはり	八波 其月	七二	小の	一六	敬 文 館	〇六〇		
ロシア クルイロフ物語	露、クルイロフ 富士辰馬 譯	七二	小の	一五	江原書店	〇六〇		
興國科外讀本 尋常一學年 第三學期用	興國教育研究會編	七二	一 中	八〇	明治出版社	〇三		
興國科外讀本 尋常五學年 第三學期用	興國教育研究會編	七二	一 中	一六	明治出版社	〇三		
植物の不思議 (理科物語叢書 第三編)	兒童讀物研究會編	七二	小の	一五	大 登 閣	〇五〇		
白鳩號 (理科物語叢書 第四編)	兒童讀物研究會編	七二	小の	一四	大 登 閣	〇五〇		

尋常 三年 科外讀本 十二月の卷	葛 厚 編	七二	小の	二〇	博文 館	〇三		
尋常 四年 科外讀本 十二月の卷	葛 原 編	七二	小の	二三	博文 館	〇三		
尋常 五年 科外讀本 十二月の卷	葛 原 編	七二	小の	二三	博文 館	〇三		
尋常 六年 科外讀本 十二月の卷	葛 原 編	七二	小の	二三	博文 館	〇三		
訓 教 世界動物お伽噺 (お伽文庫 第十一編)	高 木 敏 雄 編	七二	小の	二七〇	敬 文 館	〇四八		
太古の神様の話	大 西 貞 治	七二	一 小	三四	彙 行 社	〇五〇		
地球の怒 (理科物語叢書 第二編)	兒童讀物研究會編	七二	小の	一四	大 登 閣	〇五〇		
日本國民傳説 (お伽文庫 第十二編)	高 木 敏 雄 編	七二	小の	二七	敬 文 館	〇四八		
峰の王國 (理科物語叢書 第一輯)	兒童讀物研究會編	七二	小の	二六	大 登 閣	〇五〇		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
或る脚本	武者小路實篤	七二	小の	三八	玄 文 社	一五〇		
運命の丘 (代表的名作選集 第三十二編)	島村抱月	七二	一 小	一五	新 潮 社	〇六		
荷風全集 第一卷	永井荷風	七二	一 小	六八	春 陽 堂	一八〇		

多賀兄	寬	永	曾	我	碧	瑠	瑪	園	七三	小中	六	大	鐘	閣	一五
第九討	三	銃	士	佛	デ	ユ	ー	マ	七三	小	六	目	黒	分	店
縮二葉亭全集	第二卷	坪内雄藏編	七二	小	六	東	京	朝	日	新	聞	社	一六〇		
ズウデルマン傑作集	(泰西傑作集第七編)	獨、ズウデルマン、村上静人譯	七二	小	五	佐	藤	出	版	部	一三〇				
セツアストオボリ	(トルストイ叢書第十二編)	露、トルストイ、島田青峰譯	七二	小	五	新	潮	社	〇七五						
曾我廼家喜劇集	曾我廼家五郎	七二	小	四	〇	南	人	社	〇九〇						
その前夜	(ツルヂエネフ全集第四編)	露、ツルヂエネフ、田中純譯	七三	小	一	美	八	新	潮	社	一〇〇				
たけくべ	樋口一葉	七二	小	一	言	博	文	館	一四〇						
眞扉版。															
玉藻の前	岡本綺堂	七三	小中	二	六	天	佑	社	一四〇						
罪と罰後編	(ドストエーフスキイ全集第三編)	露、ドストエーフスキイ、中村白葉譯	七二	小	五	新	潮	社	一三〇						
デキツドの生立	英、デイケンズ、矢口達譯	七三	小中	二	四	〇	早	稻	田	大	學	出	版	部	四〇〇
春の水	露、ツルゲネフ、松本苦味譯	七三	小中	一	四	文	正	堂	一四〇						
再び草の野に	田山花袋	八一	小中	一	九	春	陽	堂	一四〇						
冬の夜ばなし	(シエイクスピア傑作集第十二編)	英、シエイクスピア、坪内逍遙譯	七二	小中	二	八	早	稻	田	大	學	出	版	部	一五〇
リチャード三世	(シエイクスピア傑作集第十三編)	英、シエイクスピア、坪内逍遙譯	七三	小中	二	九	早	稻	田	大	學	出	版	部	一五〇

大正八年二月十七日印刷納本
 大正八年二月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館
 印刷所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館
 發行人 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館
 定價一冊 金拾錢 郵税不課
 一ヶ月前金寄附郵税不課

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷 第二號

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	大小冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名	
經濟な家の建築	高橋 鎮造	八一	小中	二八	東亞堂	一〇〇	工學	建築學	
現代に適したる家の建方を簡明に記述す。									
精神逸話の泉	高島平三郎編	八一	小中	三三	洛陽堂	一六〇	倫理	修養	
高市磨の忠諫、僧最澄の和歌三首、源信自畫の讀其他。									
温泉めぐり	田山 錄	七三	小	四	博文館	一三〇	地誌	紀行・内國	
温泉を中心として勝地の風景、地形等を描寫す。									
父母と教師のため	玩具と教育	寛之	八一	小中	三三	洛陽堂	一七〇	教育	玩具
兒童の生活と玩具、玩具の價值と心理、玩具による教育法等に關する研究。									
感想及印象	露、ドストエーフスキイ、新城和一譯	八一	小中	三三	洛陽堂	一七五	文學	露西亞文學	
一八六一年一月の感想、一八七三年の作者手記、トルストイと露西亞の根本問題等の譯。									
蜘蛛の生活	佛、フアーブル、英、義雄譯	八一	小中	三三	洛陽堂	一七〇	理學	動物	
蜘蛛の生活に關する精密なる觀察。									
結婚より育児まで	吉岡 彌生	八一	小中	三四	東盛堂	一三〇	醫學	衛生	
結婚前後より妊娠、出産、育児に關する衛生上の心得を通俗的に述ぶ。									

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 其他は………一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 四六列半以下

現代演劇總覽	高澤初太郎	七三	小中の	三六	文星社	三〇〇	諸藝演劇		
演劇の歴史、新舊劇場の構造、座員の名稱、狂言の種類、俳優の階級、歌舞伎役者の系統其他。									
憲法	澤野民治	七三	小中の	三六	日本大學法制學會	一〇〇	政治		
憲法の法理、政治の運用等に關する論文集。									
造船工場	須知古館市太郎	八一	中一	三七	三	松堂	二〇〇	工業工場	
工場の實務及び計算の整理に關する事項を平易に説明す。									
現國民作法精義	藏田國秀編	八一	中一	一六	三	松堂	一五	倫理禮式	
文部省選定の師範學校中學校作法教授要項に據りて編述す。									
△理論應用	最新實用數學	綴編	佐野榮治	八一	中一	四六	九	善四〇〇	數學數學
工科大學生、高等工業學校生徒等の參考書。									
最新世界年表	三省堂編	七三	小一	四〇〇	三	省堂	〇五	歴史年表	
世界の史實を網羅し其年月の對照を容易ならしむ。									
史蹟めぐり大類	仲七三	小一	三六	博文館	二〇〇	地誌紀行	一	内國	
江戸城、五十年間の東京、東北史蹟めぐり、奥羽雜觀、甲府と諏訪、名古屋と其附近、越前の旅等。									
縮死の陰	に徳富健次郎	三版	小一	〇八	大江書房	一五〇	地誌紀行	一	内國
主として九州地方の紀行文。									
袖珍俳句歳事記	長谷川譜三	八一	小一	四〇〇	春水社	一三〇	文學俳諧		
詳細なる索引あり。									
重要商品精義	第一卷	田所哲太郎編	八一	中一	五	同文館	三〇〇	商業商品	
本巻は農林水産の巻なり									

國民の商業の知識	渡部	八一	小中の	三六	文進堂	二〇〇	商業商業	
心得べき、商事全般に涉りて平易に解釋す。								
常識電氣學	關口定伸	七三	小一	四	博文館	一〇〇	工業電氣工業	
電信、電話、電力、電燈等に關する通俗講述。								
新和歌辭典	日本新詩會編	七三	小一	三二	明文館	〇八〇	文學和歌	
題により類を分ちて歌語を集め、作例數百首を附す。								
西洋野菜作り方	對馬隈夫	八一	小中の	二九	鈴木書店	〇五	農業農業	
需要多く培養の容易なるものゝみを選擇す。								
一九一四年世界大戰史	前編	箕作元八	八一	中一	七六	富山房	八〇〇	歴史歐洲戰亂
一五二八年								
大戰亂の由來、戰前の外交、開戦後一ヶ年間に於ける交戦各國の内政、經濟及財政等も序説として掲げたり。								
攝津郷土史論	日本歴史地理學會編	八一	中一	五	四	仁友社	三〇	歴史日本歴史
上代の武庫地方(喜田貞吉)福原遷都(大森金五郎)平清盛論(辻善之助)一ノ谷の戰(黒板勝美)淡川の戰(堀田璋左右)等、いづれも大正六年神戸に於ける夏期講演會の講演筆記なり。								
家庭染色工藝	富田輝夫	七三	中一	三	三	大倉書店	一七〇	工業染色
實用と經濟に留意して編述す。								
禪僧の達磨の足跡	關清拙	八一	小一	三	四	松堂	一〇〇	地誌紀行
著者が支那行脚の日誌を抄録しこれに寫眞とスケッチを附す。								
伯林より單騎遠征	福島安正	七三	小中の	二	天小西書店	一四〇	地誌紀行	
東京へ								
獨帝禍と世界の平和	米、セラード	八一	小中の	三	七	文雅堂	一七〇	政治獨逸
福島將軍軍騎遠征旅行記。								

著者が獨逸に大使として駐紮中に見聞したる戰時及び平時の獨逸國情を明快親切に紹介す。
 日常の生活と所 毒のはたらき 鈴木千代吉 二一 中一 三三 西ヶ原叢書刊行會 二五 醫學 毒
 有産業に及ぼす 農業的毒物及び鑛業的毒物の研究。

南 畫 の 描 き 方 新 井 洞 巖 八一 中一 二六 日本美術學院 三〇〇 美術 繪 畫
 南宗畫入門の手引として其の描法を講述す。
 南洋 の 新 日 本 村 加藤 光 治 八一 小中 二六 南 北 社 二〇 地誌 南 洋

日常生活界の理化智囊 倉林 源 四 郎 八一 中一 四六 中 興 館 三〇 理學 理 學
 日常生活に密接なる關係を有する各種理化學上の原理と其實生活に於ける應用方面に亘る事項を説明す。
 日 獨 譯 準 水 野 繁 太郎 七三 小中 二六 大倉書店 一八〇 語學 獨 逸 語

日本工業要鑑 大正八年度用 工業之日本社編 八一 小中 二五 工業之日本社(大阪)六〇〇 工業 工
 工業に關する法令、外國の主なる製造所、工業關係役員、其他日常須知の事項を網羅す。
 人及 能 率 の 心 理 上 野 陽 一 八一 中一 六四 同 文 館 三〇 哲學 心 理

△破産法研究 第三卷 加藤 正 治 七三 中一 四三 有 斐 關 三〇〇 法律 商 法
 破産宣告に因り中斷せる訴訟の受繼、境國和議法、英國整理證書法、破産判例批評。
 教育の缺陷 犯罪少年の告白と個性調査 黒 田 源 太 郎 七三 中一 三〇 廣 文 堂 三六〇 教育 不良 少年

筆 に ま か せ て 芳 賀 矢 一 七三 小中 四四 日本書院 一六〇 文學 日本文學—文集

著者の講話、雜錄等を集む、
 縮 文 は 人 な り 高山 林 次 郎 二版 七一 小一 五五 博文 館 一、五 文學 日本文學—文集

日蓮關係等の文章を加へ、楞牛、嘲風、往復集を附す。
 △法律に於ける矛盾と調和(刑事學義) 牧 野 英 一 八一 中一 一三 有 斐 關 〇七 法律 法 律

法 華 經 の 心 髓 木 田 日 生 八一 小一 四九 中央出版社 一、三 宗教 佛 教
 法經經の心髓を縱横に講明す。

先づ腹を練れ(袖珍名著文庫 第一編) 堀内 文 次 郎 八一 小一 四〇 東 亞 堂 一、三 宗教 禪
 禪に關する講演、雜錄等を集む。

萬 葉 集 辭 典 折 口 信 夫 八一 小中 四六 文 會 堂 三、五 文學 萬 葉 集
 萬葉集の地名、人名、主要なる言葉等を解説す。

手工科應用教材 木製玩具製作法 小 泉 吉 兵 衛 七三 小中 三三 博 文 館 二、〇 教育 玩 具
 玩具研究資料 教育的方面を主とする部分と工業的方面を主とする部分とに分ち多くの玩具圖を挿入せり。
 模範商業簿記講義錄 伊 藤 宜 逸 八一 中一 三六 正則タイピスト學校二〇〇 産業 簿 記
 例題記帳練習を多くし、單複式轉換手續等も説明す。

衛生修養 理想 食 物 伊 藤 尙 賢 七三 小中 三〇 一 誠 社 二、〇 醫學 飲 食 物
 理想食物を得べき方法を具體的に論じたるもの。
 勞 働 者 問 題 上 卷 北 澤 新 次 郎 二版 八一 中一 三〇 同 文 館 一、〇 社會 勞 働 問 題
 勞働者間 解決の主義、職工組合、資本と勞働の協議、失業、勞働紹介等を論ず。
 勞 働 保 險 論 獨、マ、一、ネ、ス 青木節一、小島精一 八一 小中 二八 集 成 社 二、〇 經濟 勞 働 保 險

労働者の疾病保険、傷害保険、癩疾、老衰、及び遺族保険を論ず。

和歌 百話 佐々木信綱 七三 小一 六三 博文館 一、〇 文學和歌
歌に對する希望の一端、和歌と女子教育、旅行と和歌、月と西行、茸狩と歌、歌を案ずる態度、題目の選擇等。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
興國課外讀本 (尋常二學年期用)	興國教育研究會編	七三	中一	八	明治出版社	〇三		
興國課外讀本 (尋常三學年期用)	興國教育研究會編	七三	中一	一一	明治出版社	〇三		
興國課外讀本 (尋常四學年期用)	興國教育研究會編	七三	中一	一一	明治出版社	〇三		
興國課外讀本 (尋常六學年期用)	興國教育研究會編	七三	中一	一一	明治出版社	〇三		
系統的分類單元的吟味	山田二郎	八一	小中の	三〇	細謹舎(岡山)	〇六		
少年趣味の科學	原田三夫	七三	中一	二五	萬葉書房	〇七〇		
魔法	獨田中純	八一	小中の	三三	玄文社	〇〇		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	發行所	定價	分類	件名
鴛鴦	長田幹彦	八一	小一	五〇	春陽堂	一、五		

雨月集	岡本綺堂	七三	小一	四〇	春陽堂	一、〇		
女の生命	前篇 菊池幽芳	八一	小中の	四七	玄文社	一、〇		
傀儡	芥川龍之介	八一	小中の	三〇	新潮社	八一		
心の王	國菊池寛	八一	小中の	三〇	新潮社	一、三		
櫻の實の熟する時	島崎藤村	八一	小中の	二四	春陽堂	一、〇		
小説新生	第一卷 島崎藤村	八一	二版	四二	春陽堂	一、〇		
地を嗣ぐ者	古屋芳雄	八一	小中の	二六	岩波書店	一、三〇		
日蓮聖人	碧瑠璃	八一	小中の	八〇	大鐘閣	二、〇〇		
不滅の像	一江島修	八一	小中の	三四	新潮社	〇八五		
乳人政岡	縮刷碧瑠璃傑作叢書第八編	碧瑠璃	七三	小一	八二	霞亭會	一、五〇	
友染集	泉鏡花	八一	小一	七三	春陽堂	一、八〇		
レ・ミゼラブル	第二編 佛、ユイゴ、豊島與志雄譯	八一	小一	六三	新潮社	一、六〇		
ろしあ傳説集	(露國民衆文學) 全書 第二編	昇曙夢論	七三	小中の	三〇	大倉書店	一、五	

大正八年二月十七日印刷納本
大正八年二月二十日發行
編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館內 日本圖書協會編輯部 (一ヶ年前金壹圓郵稅不要)
印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館內 日本圖書協會編輯部 (一ヶ年前金壹圓郵稅不要)
發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館內 日本圖書協會編輯部 (一ヶ年前金壹圓郵稅不要)

本目錄編纂の趣意は普通圖書館、學校、教育會、讀書家等の爲に新刊圖書の選擇及購入並に分類及目錄編纂の參考に供せんとするにあり。而して本目錄に選擇收載するは新刊圖書中記事精確、思想健全なるものゝみとし、且其圖書中に於ても程度自ら異なるものあるにより特に卑近なるもの及び専門的のものにはそれ〴〵一定の符號を附することとしたり。本目錄は大正三年二月より毎月一回二十日發行するものにして、毎號に收載する圖書は主として前月發行のものゝ中より選定す

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第三卷

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
新しき科學	中澤重雄	八三	一	三七	天祐社	二〇〇	理學・理	學
物理科學の全般を觀察し、その發達を叙述す。								
保健一日二食論	永岡桂一	八一	一	二三	文會堂	一〇〇	醫學・衛	生
衛生								
逸話の泉	高島平三郎	八一	一	四五	洛陽堂	一〇〇	倫理・修	養
佛御前の美しき心事、富田信孝の妻の壯烈、細香女史詩人となる、大姥の美しき臨終等本編は婦人に關する逸話のみを收む。								
面白い家庭の遊戯	中村八郎	八一	一	三三	實業之日本社	〇〇〇	諸藝・遊	戲
海運造船業と公私經濟叢書(第一編)	公私經濟社編	八一	一	三八	公私經濟社	一〇〇	產業・海	運業
海運造船業の過去五ヶ年間の變遷を述べ、會社の内容を詳細に評論す。								
會社創立と破綻 附株主心得	岩本善文	八一	一	二三	文武堂	一〇〇	商業會	社
會社の創立乃至破綻につきて法律上、經濟上、實務上より通俗平易に説明す。								
興味と研究 神様の戸籍調べ 外國之部	西洞學人	八一	一	三四	二松堂	一〇〇	宗教・神	話
古代神話を骨子として通俗的に述べたるもの。								

△………專門的のもの
×………卑近のもの
○………一般的のもの
其他は………
大 四六二倍以上
中 四六判
小 菊列半載以下

獨學漢文要語解釋 杉山孚富 八一 小四〇 東華堂 〇六〇 語學漢

自修漢文要語解釋 杉山孚富 八一 小四〇 東華堂 〇六〇 語學漢

受驗生などに必要なる漢文の語句を五十音順に排列して解釋す。

舊劇と新劇に關する研究、論文等。

教育論議(進文館叢書第一編) 高田早苗 八一 小三四 進文館 〇七五 教育教育—論說

學業年限短縮と官私立大學の併立、新時代の教育方針、立憲思想と普通教育、世界的戰亂と工業教育等。

形象藝術之要諦 英、ブラグドン 小室信藏譯 八一 中一六三 丸善 三三〇 美術建築

建築なる藝術に關する靈智學的觀察、美に關する數學、演結せる音樂其他。

鑛業法講話 淺野兼助 八一 小中一三〇 老鶴 一八〇 工業鑛山及鑛業

平易簡單に現行鑛業法の一般を説明す。

國民年鑑 大正八年 國民新聞社編 八一 小中一三六 民友社 〇六〇 雜書年鑑

最近一ヶ年間重要事項、過去帳等を附す。

國民の精神的基礎 加藤熊一郎 八一 小中一三六 大倉書店 一六〇 倫理教

上古に於ける國民精神の素地より現代の世界的自覺に至れるまでの徑路を述ぶ。

古事記新釋 植松安 八一 小中一四四 大同館 一八〇 歷史古事記

原文を平易なる假名交り文に書き下し語義を附し各段に國民心理を基とせる評語を加ふ。

是れからの生活 山脇玄 八一 小中一三六 泰山房 一〇〇 家事家

根本的の家政改良問題を説く。

東京諸學校案内 東華堂編 八一 小中一三六 東華堂 〇六〇 教育學校案内

近京者の注意、入學者の心得、受驗者の準備等を附せり。

債權法論 總論下卷 磯谷幸次郎 八一 中一六三 嚴松堂 三三〇 法律民法

多數當事者の債權より債權の消滅まで。

工業算術 山添豐作 八一 小中一四四 東盛堂 〇七五 工業工業數學

算術工學の初歩より講述す。

鑛山と鑛業法 岩永三郎 八一 小一六五 太陽堂 二〇〇 工業鑛山

探鑛の方法、有用鑛物、岩石等に就て説明し鑛業に關する法令及規則を附す。

最新スキ術 遠藤吉三郎 八一 小一七六 博文館 〇八五 諸藝スキ

日本のスキ—術手釋き。

受驗三角法(受驗研究叢書第五編) 松村定次郎 八一 小一四三 博文館 〇八五 數學三角法

應用高等諸學校の受驗準備用。

實業經營法 山田島次郎 八一 中一三六 明文堂 一五〇 農業蠶業

養蠶者及蠶種製造者の參考書。

社會學原理 高田保馬 八一 中一三五 岩波書店 六五〇 社會社會學

著者の把持する根本思想を定め、社會學系統を組立てたるもの。

寫真攝影の仕方 木村公益編 八一 小一三〇 東盛堂 〇七五 美術寫真

平易簡明に寫眞のうつしやうを説明す。

重要商品精義 第二卷 田所哲太郎 八一 中一三四 同文館 二〇〇 商業商品

本卷にては商品の鑑定法を述ぶ。

小學校改善の實際的研究 西山哲治 八一 中一三二 開發社 二八〇 教育初等教育

著者が帝國小學校に於ける研究の一斑を記述せるもの。

商業通論	邊 明	八二	中	三六	實業文館	三六	商業商業
消防筒操作法全書	消防新聞社編	八二	小中	二六	消防新聞社	〇八〇	工學 筒
道遙劇	談坪内雄藏	八二	小中	三二	天佑社	一〇六	諸藝演劇
書畫贗物語	湯淺吉郎	八二	小中	二八	二 松堂	一〇五	美術書畫
植民地講話	植民地大學編	八二	小中	二五	二 松堂	一〇〇	經濟植民
信仰の哲學	米、ゼームス、太田善男譯	八二	小中	二〇	天佑社	一〇六	哲學哲學—論說
人生と藝術	(進文館叢書第二編) 鳥村龍太郎	八二	小	二五	進文館	〇八五	文學文學—雜集
人生と食物	澤村真	八二	小中	三六	止善堂	一〇七	醫學食物
心頭雜章	與謝野晶子	八二	小中	三三	天佑社	一〇〇	文學文學—雜集
新百人一首精解	鴻巣盛廣	八二	小	一六	精支館	〇八五	文學文學—百人一首

百首の意義を明らかにし、又詩としての批判を試む。
 青淵先生訓言集 矢野由次郎編 一六二 小 六六 富之日本社 一〇六 倫理 教訓
 内容を國家、實業、道徳、學問、立志、處事、慈善、女子、座右銘、一言集等に分てり。
 生活 浮田和民 八二 小 四三 實業之日本社 一〇五 社會處世 法
 人生の成功と失敗の原因を説き、生活戰場に勝利を得る根本要素を論ず。
 政治史要領 (政治學叢書) 第十一編 稲田周之助 八二 中 一六 有斐閣 一〇〇 政治 政治—史傳
 中央大學に於ける著者の講義を骨子とす。
 生命と性慾 川村多實 二八二 小中 二七 大鏡閣 一〇六 理學生物 學
 生命の科學、生物進化論の誤解、性慾と教育の三編を收む、何れも學術的研究の發表なり。
 西洋教育史概説 吉田熊次 八二 中 七六 目黒書店 三三〇 教育 教育史—西洋
 西洋教育の思想及實際の發達を系統的に叙述す、東京帝國大學文科大學に於ける講義の草案を整理せるもの。
 戦後國民經濟策 添田壽一 八二 小中 二五 大鏡閣 一〇五 經濟 經
 戦後經營就中經濟的競争の準備を論ず。
 大失敗と大成 功原坦 嶺 八二 小中 三三 松本商會 一〇六 倫理 教
 失敗の所因並に之に處するの道を説く。
 受驗代數學補習教科書 第二卷 山内 蕙 八二 小中 一〇〇 三 松堂 〇四〇 數學代 數 學
 本卷は因數分解法と其應用。
 最新代數問題の解き方 福本由二郎 八二 小中 三六 國民書院 一〇三 數學代 數 學
 多くの例題と練習問題を掲げ一々解釋を附し又肝要なる注意を述べたり。

珠算手拔法	小澤啓太郎	八二	小中	一七	辰文館	〇八〇	數學珠算
-------	-------	----	----	----	-----	-----	------

珠桁の活字を造りて印刷し一手一珠顆の變動する様を形に現はし示せり。

團體訓練 練山本瀧之助 八三 小中の 二六 洛陽堂 二六 教育青年團

青年團と小學校及少年團の團體訓練を論ず。

地方自治の精神 守屋榮夫 八二 小中の 二四 中央報徳會 二〇 政治自治制

著者の地方自治刷新、振興策。

調帶使用法 長澤寸美 達 八二 一中の 一六 六合館 二〇 工業調帶

調帶の用法、與へられたる動力を傳達するに要する調帶の寸法並に之に附與すべき初張力の算出法を述ぶ。

通世界大戦史 下卷 早稻田大學編輯部編 八三 小中の 五四 早稻田大學 二六 歴史歐洲戰亂

エルダンの攻撃より、我が講和使の出發まで。

道話の 林高島平三郎編 八三 小中の 三九 甲陽堂 二〇 倫理心學

心學書の中より教化の資とするに足るべき例話を抜粹し、言文一致體に書き改めたるもの。

ドストエーフスキー(泰西文豪評傳) 谷崎精二 八三 一小の 一八 春陽堂 〇三 文學 二〇 文學

ドストエーフスキーの生涯とその藝術とを評論す。

實業之日 渡米小學校長關視察報告 佐々木吉三郎編 八三 小中の 六四 實業之日本社 二〇 教育海外教育

米國の家庭、女子、社會、學校の諸教育等に關する視察報告。

土木工學 下卷 川口虎雄等 八二 一中の 五九 丸善 四六 工學土木工學

本卷は土工、土壓、基礎の講述。

日蓮聖人の感激 本多日生 八二 小中の 四六 博文館 二六 宗教日蓮

日蓮聖人の煥發せる感激精神の各方面を紹介す。

日蓮の勤王主義 野島幾太郎 八三 小中の 三五 大阪屋號 二五 宗教日蓮

日蓮上人の教義と我が日本國の歴史とを對照論考す。

二宮尊徳の民主生活 津田光造 八三 小中の 二四 大同館 〇六 傳記二宮尊徳

著者が二宮翁の人格、生活、思想、學說に對して共鳴するところを披瀝す。

於ける社會政策の基礎 鈴木梅四郎 八三 一中の 二四 實生活社 二〇 社會社會政策

實例を擧げて社會政策の基礎を論ず。

入學試験問題模範答案集 作文 研究社編 八三 一小の 五〇 研究社 〇五 教育入學試験

有益なる索引を附したり。

入學試験問題模範答案集 物理、化學 研究社編 八二 一小の 六〇 研究社 二〇 教育入學試験

答案起草時間を考量して解説せり。

入學試験問題模範答案集 歴史、地理 研究社編 八三 一小の 六〇 研究社 〇五 教育入學試験

東京府立中學校教諭の執筆。

微生物と日常生活(科學と人生) 太田透 八三 小中の 三三 洛陽堂 二〇 醫學細菌學

細菌と日常生活の密接なる關係を通俗的に説明す。

馬鈴薯増収栽培と食用法 齋藤源五郎 八三 小中の 三六 長久社 〇六 農業馬鈴薯

實驗の成績を綜合し、最も合理的にして進歩せる栽培法を説く。

佛敎人生觀 南條文雄 八三 一小の 四四 中央出版社 二〇 宗教佛敎

佛敎の遺教によりて世に處し友に交はるの道を講ず。

佛敎新集 權田西崖 八三 二中的 三三 丙午出版社 五〇 宗教佛敎

佛敎四百二圖を選び一々これを解説す。

純校物理學問題正解 山添豐作 八二 一小の 三〇 東盛堂 二〇 理學物理學

主として中等教科書の物理問題を解釋す。

ふらんす革命夜話 高須芳次郎 一冊 三天 佑社 一〇六 歴史 佛蘭西革命

法制史の研究 三浦周行 一冊 二函 岩波書店 五八〇 法律法 制史

導く人の爲めに (成蹊叢書) 中村春二 一冊 成蹊學園 〇五五 教育教育—論說

最新模範日本住宅 近間佐吉 一冊 二冊 鈴木書店 五〇〇 工學住 宅

植物有機化學綱要 三浦伊八郎 一冊 四冊 三浦書店 三〇六 理學化 學

△有機機電氣化學 松井元興 一冊 一冊 裳華房 一〇七 理學電氣化學

酪農化學 里正義 編 一冊 一冊 成美堂 五〇〇 農業牛 乳

△力學 愛知敬一 一冊 一冊 裳華房 四〇〇 理學力 學

論語講義 細川潤次郎 一冊 一冊 弘文館 四〇五 哲學論 語

和歌講話 山繁 一冊 一冊 精文館 〇五五 文學和 歌

歌話と批評と添削及び和歌評釋。

我が國體と神道 加藤玄智 一冊 一冊 弘道館 三〇〇 宗教神 道

第二 幼年書類

お伽樂園 丁、アンダーセン 一冊 一冊 泰山房 〇八五

不和の鐘 丁、アンダーセン 一冊 一冊 泰山房 〇八五

少年讀本 尋常科第六學年後期 小林佐源 治 一冊 一冊 教育研究會 〇三三

鼠の淨土 (家庭お伽噺第二卷) 高野町山 一冊 一冊 春陽堂 〇六〇

少女對話集 ベルの音 澁澤青花 一冊 一冊 實業之日本社 〇八〇

中等學校 入學試驗 歴史理科地理豫習書 岡田篤士 一冊 一冊 小西書店 〇三〇

第三 小説及劇

圓光以後 (生田長江第一脚本集) 生田長江 一冊 一冊 綠葉社 〇九五

お絹とその兄弟 (新進作家叢書第十六編)	佐藤 春夫	八三	小	一	五	新潮社	〇五〇	
煙 (ツルゲーネフ全集第五編)	露、ツルゲーネフ	大貫品川譯	八三	小	一	新潮社	一〇〇	
五郎正宗 (歴史小説文庫第五編)	平井 晩村	八二	小	一	七	國民書院	〇四〇	
縮 鹽 原 多 助 碧 瑠 璃 園	八二	小	一	六	弘 學 館	一五〇		
白痴 前編 (ドストエーフスキイ全集 第四編)	露、ドストエーフスキイ	米川 正夫 譯	八三	小	一	七	新潮社	一七〇
春 の 流 佐 藤 紅 綠	八二	小	一	六	講 談 社	二〇〇		
幡隨院長兵衛 (歴史小説文庫 第六編)	平井 晩村	八二	小	一	四	國民書院	〇四〇	
光 の 罪 前編 小 栗 風 葉	八三	小	中	一	六	止 善 堂	一〇〇	
縮 武 士 道 (縮刷 香集 第九編)	黒岩 涙香 譯	八三	小	一	六	扶 桑 堂	一〇〇	
縮 不 破 數 右 衛 門 碧 瑠 璃 園	八三	小	中	一	六	霞 亭 會	一八〇	
堀 部 安 兵 衛 碧 瑠 璃 園	八三	小	中	一	六	大 鏡 閣	二〇〇	
默阿彌物語 第二編 河竹 繁 俊	八三	小	一	六	春 陽 堂	一〇〇		

第四 官公署出版物

烏 拉 爾 の 鑛 業 朝鮮銀行調査局	八二	中	一	二	朝鮮銀行調査局	
露人ドロホトフ著烏拉爾と題する書中より鐵物に關する一編を譯述したるもの。						
各國に於ける 食 料 問 題 内務省衛生局	八三	小	一	二	内務省衛生局	
各國に於ける 精 神 病 問 題 内務省衛生局	八三	中	一	三	同 局	
火力發電經濟に關する調査資料其一 逓信省臨時調査局	八二	中	一	三	逓信省臨時調査局	
漁業基本調査報告 第七册ノ一 水産講習所編	八二	大	一	六	水産講習所	
目次。大正五年地方水産試験場定地觀測並に燈臺の觀測報告に就て						
海關漁場海岸調査。						
大正五年地方横斷觀測に就て						
大正四、五年瀬戸内						
靜岡縣 産 業 調 査 書 靜 岡 縣	八三	中	二	七	靜 岡 縣	
シベリヤの土地と住民 文 部 省	八二	中	一	八	文 部 省	
附。シベリヤ地圖。						
戦時及戦後に於ける英國財政 朝鮮銀行調査局	八二	中	一	三	朝鮮銀行調査局	
戦時及戦後に於ける列國の人口問題 内務省地方局編	八二	中	一	五	内務省地方局	
(戦時地方資料 第十輯)						
臺 灣 稅 務 史 臺灣總督府編	七三	中	二	六	臺灣總督府	
東洋燈臺表 上卷 水 路 部	八三	大	一	九	水 路 部	

都市青年團體施設概況 文 部 省 七二 中 一七二 文 部 省
 長崎對支貿易最近二十五年紀要 本 山 豐 治 八一 中 三二 長崎商業會議所
 長崎商業會議所創立二十五周年紀念出版の第七冊にして、附するに長崎對支貿易沿革を以てす。
 日本帝國第三十七統計年鑑 内閣統計局編 八一 大 七三 東京統計協會 四、五
 馬來半島、セレベス、視察復命書 藤 岡 光 長 八一 大 四三 農商務省山林局
 スマトラ及ジャバ諸島 視察復命書 藤 岡 光 長 八一 大 四三 農商務省山林局
 滿洲に於ける支那側金融機關と通貨 大 谷 彌 十 次 八一 中 一五 滿鐵總務部
 調査課

本目錄編纂の趣意は普通圖書館、學校、教育會、讀書家の爲に新刊圖書の選擇、購入、分類、目錄作成等の參考に供せんとするにあり、故に記事精確、思想健全と認めたるもののみを掲載し且程度によりて符號を附せり、又本號より官公署出版の有益なる圖書を紹介することゝなせり。

大正八年三月十八日印刷納本 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 (定價一冊 金拾錢)
 編輯兼發行者 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館内 秀 會 (金拾錢)
 大正八年三月二十日發行 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館内 日本圖書館協會編輯部 郵税不要
 (一ヶ年前金壹圓郵税不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第四卷

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
一 高 三 年 本 多 秋 湖 八一 小 一三七 求 光 關 〇、〇 教育 高等學校	著者が向後生活の追憶記。							
精神 逸話の泉 第八編 高島平三郎編 二版 八一 小 四〇四 洛 陽 堂 一、〇 倫理 修 養	馬琴の博學、紀文が名策、信長の最期、其角大に閉口す、雪舟の涙鼠、鴨長命が守歌、秀吉の處方等。							
受驗 英文和譯の考へ方 山 崎 貞 八一 小 三〇六 北 星 堂 〇、〇 語學 英語—英文和譯	例題を入學試験問題より取り、語句の解釋、構文の分解をなし最後に譯文を附せり。							
海 商 法 通 義 片 山 義 勝 八一 中 四〇〇 同 文 館 三、〇 法律 商 法	中央大學に於ける著者の講義の要領に基き海商法の大體を簡約に説明す。							
家 庭 經 濟 講 話 山 脇 玄 八一 小 三九 東 盛 堂 一、〇 家事 家 事	家庭經濟及び生活の改善、女子の任務と經濟的獨立、婦人の職業、男女分業の研究等。							
氣 合 術 森 田 義 郎 八一 小 一三 調 精 術 普及 會 二、〇 哲學 氣 合 術	氣合術の基礎的修養法と體得の方法及理論と應用を説く。							
理論 競 技 と 遊 戲 可 見 德 等 八一 中 一五三 中 文 館 三、〇 諸 藝 遊 戲	初等、中等學校並に一般青年に課すべき遊戯及競技の理論と實際とを編述す。							

△………專門的のもの
 ×………單近のもの
 其他は………一般的东西
 中大 四六二倍以上
 中 四六判
 小 菊判半載以下

銀行の簡明なる解説。 論 山崎覺次郎 五版 一中有斐 閣 〇〇 經濟銀行

現今の實業道德 荻田萬一郎 八三 小の 三三 岩波書店 一四〇 商業商業道德

憲法原論 松本重敏 八三 一中 九四 巖松堂 五五 法律憲法

小泉先生そのほか 厨川辰夫 五版 小の 四五 積善館(大阪) 一七〇 文學文學—雜誌

工場より日本の労働生活 榊本卯平 八三 一中 四〇〇 同文館 二五 社會労働問題

子供への感情教育 西宮藤朝 八三 小の 三三 實業之日本社 二二〇 教育教育

最近倫理學說の研究 中島力造 八三 一中 四五 岩波書店 二五〇 倫理倫理

最新算術問題の教授 水木梢 八三 小の 三三 教育研究會 一八〇 教育教授法—算術

自學主義の教育 自學獎勵會編 八三 一中 六六 自學獎勵會 一五〇 教育教育

△實驗鐵冶金學 上卷 岸一太 八三 一大 三四 丸善 三五 工學冶金學

著者が數年來科學的に研究し實驗したる所を發表せるもの。

支那蠶絲業之研究 鴻巢久 八三 一中 四四 丸山舎 三五 農業蠶業

一日西伯利亞橫行記 大友昨主 八三 小の 一七 眞文社 〇六 地誌紀行—外國

小畜飼育法 岡村猪之助 八三 小の 二七 良書刊行會 一五 農業牧畜

眞怪 井上圓了 八三 小の 三三 丙午出版社 一〇〇 哲學妖怪

親鸞聖人言行錄(修養史傳) 武藤貞一 八三 小の 一五 東亞堂 〇四〇 宗教親鸞

誰にも水彩畫 水彩畫研究所編 八三 小の 一三 嵩山房 〇七〇 美術水彩畫

蓄音器新書 常深重三郎 二版 小の 一四 東京堂 〇五〇 音樂蓄音器

小學綴方教授書 卷二 蘆田惠之助 二版 小の 三六 育英書院 一三〇 教育教授法—綴方

定性分析表 平田敏雄編 八三 一中 四九 善〇堂 理學化學—分析

東洋歴史集成 下卷 櫻井時太郎編 八三 一中 八三 隆文館 四〇〇 歴史東洋史

獨言對話 三宅雄二編 八三 一小 六二 至誠堂 二二〇 隨筆隨筆

處世、人物、時事、婦人と家庭等に關する著者の口授談話、講演等の筆記。

どんな俳句を作つたらいいか 高 濱 清 八三 小中の 一三三 實業之日本社 〇五五 文學 俳諧

俳句は五七五調季題趣味のものならざる可からずといふ主張を陳べたるもの。

日蓮 聖訓 要義 卷一 本多 日生 八三 小中の 二五五 大 鐘 關 一〇五 宗教 日蓮 宗

法華大綱鈔、法蓮鈔、法華取要鈔、如說修行鈔の講話。

日蓮 蓮と 日 朗 中村 正太郎 八三 小 一〇〇 松本 商會 一〇五 宗教 日蓮、日朗

日蓮の壯快と日朗の玲瓏の美德を傳ふ。

日本 近代名詩集 生田 清平編 八三 小 一五五 越 山 堂 〇六〇 文學 新 體 詩

馬場孤蝶、太田玉茗、大塚楠緒子、尾上柴舟、河井醉茗、蒲原有明、横瀬夜雨、與謝野寛、武島羽衣、土井晚翠等の新體詩を

集む。

日本 制 裁 法 規 清水 書店編 八版 小 一〇三 清水 書店 四〇五 法律 法 令 集

明治元年より大正八年一月までに發布せられたる、法律、勅令、省令、訓令等に關則の附せられたるものを蒐集す。

日本 陶 誌 大西林 五郎編 八三 中 二五五 松 山 堂 三〇〇 美術 陶 磁 器

日本陶磁の歴史的事實を温めて、陶磁器の賞玩に資せんとす。

日本の寺院と國寶 埃、チャットフィールド 八三 小中の 三六五 眞 文 社 一〇五 美術 國 寶

法隆寺、西大寺、東大寺、春日宮、長谷觀音、光明寺、東福寺、大徳寺、金剛寺、銀閣寺等に於ける佛教美術の研究。

入學試験問題模範答案集 英語 研究 社編 八三 小 一〇〇 研究 社 二〇〇 教育 入學 試験

大正元年以後の各専門學校入學試験問題英語科を集め、之に解答を附す。

入學試験問題模範答案集 國語漢文 研究 社編 八三 小 一七〇 研究 社 二〇〇 教育 入學 試験

争頭に受験者の注意を掲ぐ。

入學試験問題模範答案集 圖畫 研究 社編 八三 小 一五〇 研究 社 〇五五 教育 入學 試験

大正元年より七年までの圖畫問題を解説す。

入學試験問題模範答案集 博物 研究 社編 八三 小 一〇〇 研究 社 〇五五 教育 入學 試験

大正元年以後の入學試験博物問題を解説す。

煤煙の 燃料 節約 法 林 吉 美 編 八三 小中の 三六五 眞 文 館 三〇五 理學 煤煙、燃料

豫防と 燃燒の原理を物理學及化學的に説明し、各國工場の實例を擧げて燃料の經濟を計らんとす。

ブッシュグ・ツィ・ゼ・フランド 米、マリーデン 三版 小 四〇六 北 星 堂 一〇〇 語學 英語—英文和譯

（北星堂講義叢書第五編） 蠅川行道譯 八三 小 一〇〇 北 星 堂 一〇〇 語學 英語—英文和譯

獨習に最も便利なる方法と程度の譯註を施せり。

物 理 學 精 解 田 邊 尙 雄 八三 小中の 二五五 松 堂 〇八五 理學 物、理 學

自修參考用、難問題の解説を附す。

木 船 建 造 便 覽 富 田 良 厚 八三 中 一三四 大倉 書店 三〇〇 工學 造 船 學

木船の構造を解説す、就中検査に關する説明最も詳細なり。

モオパッサン評傳(泰西文豪評傳叢書 第二編) 廣 津 和 郎 八三 小 一〇五 春 陽 堂 〇五五 文學 莫オパッサン

評傳と追想。

幽 情 記 幸 田 成 行 八三 中 一三三 大倉 書店 一〇五 文學 文學—文集

詩詞の事にたづさはりたる筋ある支那の物語十數種を蒐む。

倫 理 學 綱 要 紀 平 正 美 八三 中 一四三 大 同 館 二〇五 倫理 倫 理

哲學的見地より倫理學を研究す。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
受備生きた算術教師	澄川久吉	八一	小の	二六	下村書房	〇五〇	小の	件名
給日本外史 第六冊	頼町芳衛 譯著	八一	一中	二六	博文館	一〇〇	一中	件名
全國小優等綴方集	東京學術獎勵會編	八一	小の	二七	修學社	〇八八	小の	件名
南極北極探検 (趣味の地理 第五編)	島田牛規 撰	八一	小の	二五	博文館	〇四〇	小の	件名

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
握の生命	後編 菊池 幽芳	八一	小の	五五	玄文社	一八〇	小の	件名
カイゼルの末路	小田 律 譯	八一	小の	三三	玄文社	一〇〇	小の	件名
黒い流	野村 愛正	八一	小の	二七	新潮社	一〇〇	小の	件名
子をつれて	葛西 善藏	八一	小の	二〇	新潮社	一〇〇	小の	件名
七婦	天野 雄彦	八一	小の	二〇	秀文社	一〇〇	小の	件名
白樺の園	白樺 同人	八一	小の	三二	春陽堂	一六〇	小の	件名

地に頼つて谷崎 精二 八一 小の 三四 天 佑 社 一七〇
 ランデの死 露、アルツイバーシエフ 原白光 譯 八一 小の 三三 新潮 社 一〇〇

第四 官公署出版物

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
△諱に關する疑 穂積 陳重		八一	一大	二二	帝國學士院		一大	件名
勸業模範場研究報告 (帝國學士院論文集邦文第二號)	朝鮮總督府勸業 模範 範 所	八一	一大	五	朝鮮總督府勸業模範場		一大	件名
結核病院及療養所並結核豫防會概況	内務省衛生局	八一	一中	三六	内務省衛生局		一中	件名
支那教育狀況一斑	田中 廣吉	八一	一中	三五	朝鮮總督府		一中	件名
酒類中毒と「ゴートンブルグ」制度	内務省衛生局 譯	八一	一中	一四	内務省衛生局		一中	件名
朝鮮教育要覽	朝鮮總督府	八一	一中	三三	朝鮮總督府		一中	件名
獨逸及埃匈國の電機工業	逓信省臨時調査局 譯	八一	一中	二二	逓信省臨時調査局		一中	件名

大正八年四月十八日印刷納本
 大正八年四月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 發行所 日本圖書館協會編輯部 (一ヶ月前金壹圓郵稅不要)

本目錄編纂の主旨は普通圖書館、學校、教育會、讀書家等の爲に新刊良書の選擇、購入、及び目錄作成の參考に供せんとするにあり、故に數多き新刊書の中より特に記事精確、思想健全と認めたるものゝみを收載す、又程度によりて符號を附し、内容の大體は解説によりて知るを得べし、且官公署出版物にして有益なるものをも紹介す。

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷 第五號

△……專門的のもの
×……卑近のもの
其他は……一般的のもの
大 四六二倍以上
中 菊四六列
小 菊四六列半以下

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名	
有らゆる物の書換	桐生政次	八四	小	二四	小西書店	一四	文學論	說	
新愛知新聞に載せたる思想上社會上の問題に關する評論を纏む。									
精神逸話の泉	第九編 高島平三郎編	八三	小	三六	洛陽堂	二六	倫理修養	養	
本編は第七編を承けて我國婦人の逸事を蒐録す。									
ウイルソン言行錄	外交研究會編	八四	小	三五	止善堂	一五	傳記	ウイルソン	
ウイルソン氏の思想、主義、人格等を評傳す。									
縮英英雄論	(袖珍家名文庫) 第二編 福本誠	八三	小	六〇	東亞堂	一八	傳記	傳記	
黒田如水、直江山城守の二篇を附す。									
必勝外國米の知識	鷲谷武	八三	小	二〇	富國出版社	一五	商業米	米	
外米格付の決定、英領印度、暹羅、佛領印度、支那、臺灣等の米作事情、外國米の輸入と消費、支那米輸入問題、外米建四限と市場心理等に關する説明。									
受驗界に於ける活用的代數學	上卷 伊藤豐十	八四	小	三三	廣文堂	〇六	數學代數	學	
代數學の原理を評述し其の活用的實力を養ふを目的とす。									
企業組織と勞働保險	岡本利吉	八三	小	二七	文雅堂	二〇	社會勞働問題	題	

主として積立労働保険に就て評論せるもの。

近世法學通論 三 蕭 信 三 二版 一 中 尋 有 斐 閣 三〇〇 法律法學通論

本版に於ては誤植を正し又修正加除をなせるところあり。

ヘンリーアール 經濟原論 中卷 米、シイガー 八二 一 中 三三 開 文 社 二〇六 經濟經 濟

生産及び分配、貨幣論及び米國の貨幣制度、信用及び銀行論、對外貿易及び貨幣問題等。

元祿時代觀 中 村 孝 也 八四 一 中 三三 啓 成 社 三〇六 歷史 日、本 歷史

元祿時代の地位、町人階級の勃興、政局、金銀貨改鑄、世態、文藝等に關する觀察。

校歌と寮歌 (學生生活叢書) 首藤政雄編 八四 一 小 一六 東 亞 堂 〇〇六 教育 校 歌

各高等學校及び全國中學校の主なるもの、校歌を集む。

新式 小賣店の客扱 商店雜誌社編 八三 一 小 三三 佐藤出版部 〇〇六 商業 小賣商店

販賣員が日常實際の役に立つ店頭讀本。

櫻田 高橋 諸 二版 一 小 三三 修 養 會 〇六五 倫理 修 養

櫻田門義學の源委を重修したるもの。

櫻田 赤川 源 一 九四 一 小 二九 海棠書房 一〇五 歷史 櫻田事件

易い算術の覚え方 岡 龜 三 郎 八三 一 小 二七 甲 陽 堂 〇〇五 數學 算 術

著者多年の經驗上より疑問多き難問題に就て叮嚀なる説明を加ふ。

自我批判の哲學 野村善兵衛 八四 一 小 二六 大同館 一〇五 哲學 哲 學

一名、文化哲學序論。

書及び書方の研究 (心理叢書第 八、九十册) 松本亦太郎等 八三 一 小 二五 心理學研究會 二〇〇 哲學 心 理

書及び書の鑑賞、書き方の分析的研究、書記時間の測定。

書畫掘出物語 波 邊 虹 衣 八三 一 小 二四 玄 文 社 一〇五 美術 骨畫 董畫

大阪を中心として近畿に於ける骨董界好事界の提出し珍談を集む。

神社境内の設計上 原 敬 二 八三 一 中 二四 嵩 山 房 四〇〇 神書 園神 藝社

幽邃なる神林の設計を詳細に圖解す。

眞善美日本人 (明治傑作叢書) 三宅雄二郎 八三 一 小 二二 天 佑 社 〇七〇 文學 文學—論說

日本人の本質、能力、任務を論ず。

新 農 村 論 山 本 慎 平 八四 一 小 二四 小西書店 〇〇六 農業 農 村

著者の農村改善策。

ストリンドベルグ (泰西文豪評傳) 廣 津 和 郎 八三 一 小 二四 春 陽 堂 〇六五 文學 ストリンドベルグ

著作目録を附す。

世界文明の新紀元 姉 崎 正 治 八三 一 小 二四 博 文 館 一〇五 哲學 哲學—論說

過去四年間に發表せる世界文明に關する感想と論文。

泰西名詩名譯集 生 田 清 平 編 八四 一 小 三〇 越 山 堂 〇八五 文學 歐米文學—詩

オフィリヤの歌(森鷗外譯)雲雀の歌(夏目漱石譯)日光と月光(高山樗牛譯)ヘクトルのわかれ(秋元蘆風譯)園丁(松浦一譯)等。

叩けよ開かれん 釋 宗 演 八三 一 小 三三 小西書店 一〇三 宗教 禪

禪話と支那漫遊所感等を收む。

デモクラシー講話 (現代叢書) 室 伏 高 信 八四 一 小 二八 日本評論社 一〇三 政治 デモクラシー

デモクラシーの概念、中心思想、組織、指導等に關する通俗的講述。

獨逸語獨修 大 島 宗 治 八四 一 小 二八 獨逸語學會 〇九五 語學 獨 逸 語

獨逸語の綱領を講述す。

マンダ 東洋旅行記 英、マンダグイル 金子健二譯 八四 小中の 四九 大 鏡 開 二、六 地誌 紀 行
グイル ジエルサレムを中心として東洋諸國の珍談奇話等を記述せり。

獨 歩 手 記 國木田治子編 八三 小 一三七 天 分 社 〇、益 文學 文學—雜誌
信仰生活、ワーツワースの自然主義と余、唯暗を見る、天地の大事業、與へたる書翰、感想斷片等。

ナイチンゲイル物語 松 尾 孝 輔 八三 小中の 一八 丁 未 出版 社 二〇〇 傳記 ナイチンゲイル
純潔博大な愛の化身としてのナイチンゲイルを傳す。

學生 日本歴史通覽 高 桑 駒 吉 八三 小中の 六六 實業之日本社 二〇〇 歴史 日本 歴史
中等程度の學生參考用。

俳句とその作り方 長谷川 諧 三 八三 小中の 一五 春 水 社 〇、七 文學 俳 諧
初心者の手ほどき。

芭蕉選集 (併書新選) 萩原 藤 吉 編 八三 小 一 九 現代 通 報 社 〇、六 文學 俳 諧
第一篇

輓近教育問題の研究 吉 田 熊 次 八三 一 中 四 天 佑 社 三〇〇 教育 教育—論說
教育原論、教授、訓育等に關する論文集。

客をそ 販賣談話術 清水 正 巳 八三 一 小 一 二〇 佐藤 出版 部 〇、六 商業 商 業
客の注意と興味を呼ぶべき販賣談話術を平易に講述す。

美容叢書 上の巻 帝國美容研究會編 八四 小中の 三三 帝國美容 研究會 二〇〇 家事 化 粧
入浴法、肌を美しくする法、肥り過ぎ、瘦せ過ぎを直す法、洗顔法、顔の化粧、化粧の秘訣等。

佛 心 鬼 語 高 島 大 圓 八四 小中の 一 二七 丙午 出版 社 一〇〇 文學 文學—論說
佛教、婦人、社會、農村、教育等に關する論文集。

法 幢 本 多 日 生 八三 小中の 四六 博 文 館 一、六 哲學 倫 理
海軍大學甲種學生のために道、國民道德、國民思想の三大目に就て講述せしもの、筆記。

民法研究 上卷 石坂 音 四 郎 八三 一 中 四 有 斐 閣 三、七 法律 民 法
故著者の友人門弟等が内容の系統を述べて改纂せるもの。

民本主義の眞髓 稻 毛 金 七 八三 小中の 四八 大 同 館 一、六 政治 デモクラシー
民本主義を最も廣汎にして根柢的なる立場より批評す。

メンデリウム 英、パネット 大平頼母、佐藤弘毅譯 八四 小中の 二四 岩 波 書 店 一、五 理學 遺 傳
遺傳の實驗的研究。

老人にならぬ健康法 佐 藤 壽 八三 小中の 二四 小 西 書 店 一、三 醫學 衛 生
健康長壽法。

第二 幼年書類

書 名	著 者	発行年月	大小冊数	頁數	發行所	定價	分類	件 名
池のぬし (家庭お伽噺 第三卷)	吉岡 郷 甫	二版 八三	小中の 一	一六	春 陽 堂 〇、六			
面白き應用算と おさらひの手引	山 本 孫 一	八三	中 六	七〇	博 文 館 三、七〇			
自尋常第一學年至第六學年。								
教育講談	早川 貞 水	八三	小中の 三	一〇〇	大 江 書 房 二、五			
國史美談	中 卷 北 垣 恭 次 郎	八四	小中の 一	三六	實業之日本社 二、〇			

最新知識	子供の聞きかたがる話	山田 枯柳	八三	小の	三四	誠文堂	二二〇
	こどもの創作 二學年	田中萬吉等編	八四	小の	一九	春陽堂	〇三五
	こどもの創作 三學年	田中萬吉等編	八四	小の	二〇	春陽堂	〇三五
	こどもの創作 四學年	田中萬吉等編	八四	小の	二〇	春陽堂	〇三五
	珍世界お伽噺 第五集	巖谷小波編	八三	小の	五六	博文館	一四〇
	天界世界の秘密 (趣味の地理 第六編)	白井規一 鳥田牛稚	八三	小の	一七	博文館	〇四〇
	中等學校 入學準備 理科 問答	日本少年理化學會編	八三	小の	一〇三	日本少年理化學會	〇四五

第三 小説及劇

書名	或女 前編 (有島武郎著作集 第八輯)	有島 武郎	八三	小の	二〇	叢文閣	〇九五
	ウキンダミーヤ夫人の扇	英、ロイルド 谷時潤一郎譯	八三	小の	一四	天佑社	一〇〇
	繪 絹 岡本 綺堂		八四	小の	四七	天佑社	一〇〇
	カルメン (エルテル叢書 第八編)	佛、メリメ 布施延雄譯	八三	小の	一七	新潮社	〇六五
	芍藥の歌	泉鏡花	八三	小の	五七	春陽堂	一〇〇

蘇	生 豐島與志雄	八四	小の	三四	新潮社	一五〇
啄木	全集 第一卷 小説 土岐善磨編	八四	小の	六一	新潮社	一七〇
路傍	の花 徳田 秋聲	八三	小の	三三	新潮社	一〇〇

第四 官公署出版物

書名	各國暴風信號標式一覽	中央氣象臺編	八三	一中	四	中央氣象臺	理學 氣象
	加奈陀太平洋岸鯨、大鯨漁業調査報告	水産講習所編	八三	一中	九	水産講習所	産業 漁業
	穀物倉庫の建築要綱 (農務局報第九號)	農商務省農務局編	八三	一中	六	大日本農會	産業 穀物倉庫
	重要物産同業組合一覽	農商務省編	八三	一中	二八	農商務省	産業 同業組合
	水産製造に關する調査、試験、研究項目及内容目錄並に抄録集	水産講習所編	八三	一中	一四	水産講習所	産業 水産製造
	第三回臨時海外派遣官報告集(第三)	農商務商工局編	八三	一中	五五	農商務商工局	産業 産業報告
	朝鮮地誌資料	朝鮮總督府	八三	小の	四六	朝鮮總督府	地誌 朝鮮
	紡織工業並雜工業に及ぼしたる時局の影響	農商務商工局編	八三	一中		農商務商工局	工業
	蜜柑蠅に對する調査 (病菌害蟲彙報 第五號)	農商務省農務局編	八四	一大	四	農商務省農務局	農業 害蟲

本目錄編纂の主旨は普通圖書館、學校、教育會、讀書家等の爲に、新刊良書の選擇購入、目錄編成の參考に供せんとするにあり、故に數多き新刊書中より特に記事正確、思想健全と認めたるものゝみを收載し其程度は符號にて内容は解説にて示せり、又官公署出版物の中より有益なるものを選びて紹介することゝなせり。

大正八年五月十七日印刷納本
 大正八年五月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 印刷所 東京市比谷區三軒屋 日本圖書館協會編輯部 發行所 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日本圖書館協會編輯部 郵稅不要 (一ヶ月前金壹圓郵稅不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷

△……專門的のもの
 ×……卑近のもの
 ○……一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 菊列半載以下

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
精神逸話の泉	高島平三郎編	八五	小の	一	洛陽堂	一〇〇	倫理	養
英文改作法	川畑篤恭	八四	小の	一〇六	東京出版社	一〇〇	語學	英
英文解釋法	山田惣吉編	八五	小の	七〇	開文社	一八〇	語學	英語—英文和譯
英文機械的解釋法	鬼島熊之助	八四	小の	一〇一	有精堂	一〇〇	語學	英語—英文和譯
英文和譯の仕方	小林愛蔵	八四	小の	一三三	有精堂	〇〇〇	語學	英語—英文和譯
工業管理の實際	藤本喜三編	八四	中一	一八五	有精堂	三〇〇	産業	工業管理法
刑法研究 第一 (刑事學叢書 第六篇)	牧野英一	八四	中一	一三五	有斐閣	三三〇	法律	刑法

△刑法の解釋に關する短篇を集む。「共犯の基礎觀念」より「刑法の解釋方法に付て」に至る二十三篇あり。

易し 中學英文法詳解 星野 久成 八四 小一 四四 東華堂 〇七〇 語學 英語—文典

中等 作文模範 光藤泰次郎 八五 小一 四四 大正塾 一〇〇 語學 日本語—作文

中一、二、三學年程度を目標としたもの。

趣味 通俗文學 前編 玉井廣平編 八四 小一 三三 帝國青年發行所 〇七五 文學 文學—合集

讀本 通俗文學 後編 長唄、和歌、義太夫、狂歌、歴史小説、謡曲、漢詩等國民道徳を鼓吹する資料を精選網羅したるもの。

東洋 文明の權威 本多 日生 八五 小一 三二 大鐘閣 一〇〇 宗教 日蓮會

日蓮主義を中心として國民道徳、日本國體、政治經濟、勞働問題に論及す。

ニイチエのツアラツストラに批評 阿部 次郎 八四 小一 三三 新潮社 二〇〇 哲學 ニイチエ

嘗つて「思潮」誌上に連載せしもの同書の成立、解剖、外見的矛盾、個人主義、超人、永劫回歸等。

日本 棉作要説 農業經營研究會編 八四 中一 五五 蠶業新報社 三三〇 農業 棉花棉絲

總説、草棉栽培の起原、棉の種類、棉栽培總論等及び世界各産地の諸況を述べたり。

自大正元年入學試験代數答案の書き方林 茂 増 八五 小一 三三 博文館 〇八五 數學 代數

至大正七年入學試験代數答案の書き方林 各學校別に索引を付せり。

跡見花咲 花の下みち 藤井瑞枝編 八五 小一 三三 實業之日本社 一〇〇 傳記 跡見花咲先生實傳

直話を基礎とし日記に参照して編纂せるもの。

輓近の兒童研究 關 寛之 八五 中一 三九 洛陽堂 一〇〇 教育 兒童研究

特に人類學的、社會學的、醫學並に教育病理學的、教育的の各方面に就き力説し、終りに重要著作及び研究の梗概を述ぶ。

平和と支那 綿業 絹川 太一 八四 中一 二四 丸山舎 三三〇 産業 外國貿易

南支、中支、北支、滿洲に亘る實況を述べ他國製品との長短、匡救方法を説示せり。

鑛山 ポケットブック 内田 巖五郎 八四 小一 四四 博文館 一〇六 産業 鑛山及鑛業技術者

採鑛技術の全部に亘りて論究したるもの。

母性 復興 瑞、エレン・ケイ 八五 小一 三〇 新潮社 〇七〇 社會 婦人問題

婦人と道徳、母心、母性の教育を論ず。

忠臣 歴 史 之 泉 上田 得水等 八五 中一 三六 松本商會 二〇〇 傳記 日本人合傳

菅公、平重盛、藤原藤房、大楠公、名和長年、兒島高德傳。

露 語 粹 八杉 貞利編 八四 小一 三六 大倉書店 一四〇 語學 露西亞語

露國知名作家の短篇より教室の讀み物として適するものを選集せり、原文のみ。

マルクス 資本論解説 獨、カウツキー 八五 小一 四三 實業新報社 二二〇 經濟 經濟學

マルクスの經濟説を資本論に俯つて簡単に概括し平易に解説したるもの。

三 田 文 選 三田 文學會編 八五 中二 三三 玄文社 七〇〇 文學 文學—合集

上には三田文學同人等の創作、翻譯を載せ、下は「蛙」と命名し、小説、脚本、抒情詩等森林太郎の翻譯のみを掲げたり。

我國の勞働問題 宇野 利右衛門 八五 小一 四四 工業教育會 二〇〇 社會 勞働問題

著者の研究、意見、演説及諸施設の實例等を蒐めたり。

和 顔 愛 語 釋 宗 演 八五 小一 三〇 博文館 一〇〇 宗教 倫理 修禪 養宗

著者の婦人に對する訓話。

分類 和文英譯研究の力 星野 久成 八五 小一 四三 岡村書店 一〇〇 語學 英語—和文英譯

中學生用及び高等の學校入學試験準備者用として分類歸納式に説明せるもの。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定價	分類	件名
入繪 イソップのはなし	藤 浪 水 處	八五	小中の	二六	交友社	一〇〇		
行つて参ります	與謝野 品子	八五	小中の	二六	天祐社	〇六〇		
面白き應用算と おさらいの手引	家庭の算術 尋常第三 品算學年	山 木 孫 一	八三	中六	博文館	各〇四		
高等綴り方模範文例	久 原 忠 太	八四	小中の	三九	明治出版株式會社	一〇〇		
こどもの創作 六年級	田邊 萬吉 等編	八四	小中の	二六	春陽堂	二〇〇		
こどもの創作 高等科	田邊 萬吉 等編	八四	小中の	二六	春陽堂	二〇〇		
こどもの創作 尋常科	田邊 萬吉 等編	八四	小中の	二六	春陽堂	二〇〇		
帝國少年讀本 第五學年	尋常科後期 小林 佐 源 治	八四	中一	二四	教育研究會	〇三三		
母を慕ひて	野邊 地 天 馬	八四	小中の	三三	丁未出版社	一五〇		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定價	分類	件名
川 德	後 編 村 上 浪 六	八五	中一	二〇〇	誠堂	一三〇		
源 平	集 岡 本 綺 堂	八五	小一	四三	春陽堂	一三〇		
戰國後 藤 隱	岐 碧 瑠 璃 園	八四	小中の	三六	大鏡閣	一三〇		

後 藤 又 兵 衛 碧 瑠 璃 園	八三	小中の	三六	大鏡閣	一三〇		
浪 六 全 集 第十三篇	村 上 信	八四	小一	六〇	至誠堂	二〇〇	
和 解	(代表表的名作選集) 第三十三編 志 賀 直 哉	八四	小一	一五	新潮社	〇三六	

第四 官公署出版物

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定價	分類	件名
教育會等に對する諮問事項並其答申要領	文部省普通學務局編	八三	中一	五二	文部省		教育教	育
自第一回 衆議院議案件名錄	衆議院事務局	八三	中一	八七	衆議院事務局		政治	帝國議會
衆議院三十年誌	衆議院事務局	八三	中一	三三	衆議院事務局		同	同
全國育英事業施設狀況	文 部 省	八四	中一	七二	文 部 省		教育育英事業	
戰時及戰後に於ける列國の勞働問題	内務省地方局	八三	中一	一六	内務省地方局		社會勞働問題	
(戰時列國地方資料第十一輯)								
大豆其他の豆類に關する調査	農商務省農務局	八三	大一	三三	農商務省農務局		農業	豆
(農務彙纂第七十四)								
臺灣犯罪統計 大正六年	臺灣總督府	八三	大一		臺灣總督府		法律犯	罪
千葉縣誌	千葉縣	八五	中二	二八	美多田屋書店	一〇〇〇	地誌	千葉縣

朝鮮巨樹老樹名木誌 朝鮮總督府 八四六一 一五七 朝鮮總督府 農業山林
 獨逸に於ける諸種の小産業 獨、ソリンレリ 農商務省農務局譯 八三 中一 一五五 農商務省 產業產
 糖業概覽 農商務省農務局 八三 六一 一〇八 農商務省農務局 農業砂糖業

長崎港最近二十五年概観 長崎商業會議所 八四 中一 二〇六 長崎商業會議所 地誌長崎縣
 (長崎商業會議所創立二十五週年紀念第八冊)

日本船名錄 大正八年 遞信省 八五 六一 一五二 帝國海事協會 三〇六 交通船
 日本帝國人口動態統計(五年) 內閣統計局編 八三 六一 一〇〇 內閣統計局 統計統

北海道史 附錄 北海道廳編 八四 中一 一〇〇 北海道廳 地誌北海道
 本邦産石炭分析表 第二號 地質調査所 八三 六一 一〇〇 農商務省 工學石炭

本邦に於ける家畜の登録 農商務省農務局 八四 中一 一三三 農商務省農務局 農業畜産
 本邦に於ける乳製品と肉製品 農商務省農務局 八三 六一 一〇〇 農商務省農務局 農業肉乳製品

本邦農業要覽 農商務省農務局 八三 六一 一〇〇 農商務省農務局 農業畜産
 於ける教育及び宗教の變遷 東川徳治 八三 中一 一三三 臨時調查會 宗教教育

大正八年六月十七日印刷納本 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 編輯兼發行者 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 大正八年六月三十日發行 印刷人 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第七卷

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	備註
愛玩種矮鶏の作り方	神・山 湖山	八五	小中の	二六	著者藏版	一〇〇	農業養禽	寫眞版及圖解あり。
愛兒の躰けと愛兒の教育	樋口 長市	八五	小中の	二四	隆文館	一五〇	教育兒童教育	一名學校と家庭との中間問題、學校側の家庭に對する註文等を述べ。
赤門ちゝろ	蟲藤 邑峯 雄	八五	小中の	三〇	培風館	一〇〇	文學日本文學	東京帝國大學學生生活の物語。
秋成遺文	藤井 乙男	八四	中一	六三	修文館	三〇〇	文學日本文學	上田秋成の遺文中從來上木せられざりしものを主として採集せり、秋成傳及年譜を付す。
維新史研究資料索引	日本歷史地理學會編	八三	中一	三〇〇	日本歷史地理學會	〇五	歷史明治維新	自明治九年三月、至大正三年十二月三十日雜誌所載關係記事索引。
誰にも	壹萬圓貯蓄法と債券利殖法	赤川 菊村	編	八六	小中の	二五	太陽堂	經濟貯蓄
國民新聞社募集	金一萬圓貯蓄法	當選四篇と秀逸廿一篇を蒐めたり。						
印刷術	上、下卷 矢野 道也	中二	七七	丸善株式會社	三〇	美術印刷	中學卒業程度の學力あるものにして印刷術を組織的に研究するものゝために書かれたり。	

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 ○………一般的なもの
 大 四六二倍以上
 中 四六判
 小 菊判半載以下

英國經綸上の大問題 英、バーカー、丸譯 八五 中一 三六 民友社 三〇〇 政治 英國の愛國者として歐米各國の政治的變遷、國際關係の真相を説明し世界戦争終末の諸問題を論ず。

英文法 誤用より正譯へ 佐川 春水 八六 小中 三五 尙文堂 一〇〇 語學 英文法 誤用より正譯へ 佐川 春水 八六 小中 三五 尙文堂 一〇〇 語學 英文

歐米勞働問題 窪田 文三 八五 中一 七六 丁未出版社 四〇五 經濟 勞働問題 重なる歐米諸國に於ける勞働問題を勞働者、國家、及企業者の三方面より觀察して其沿革、制度、組織等の概要を紹介せり。

陸稻の栽培附最新式米 田原 郷造 八五 小中 一四 小西書店 〇〇〇 農業 米 陸稻の栽培附最新式米 田原 郷造 八五 小中 一四 小西書店 〇〇〇 農業 米 著者の経験による早粳豫防及品質上進耕種法。

紀行文作法(文藝研究) 春陽堂編 八六 小中 一三 春陽堂 〇〇〇 語學 日本語作文 紀行文の自然描寫、人情風俗描寫其他に實例を擧げて研究す。

教育哲學概論 民本主義 米、デユウイ 帆足理一郎譯 八五 中一 六三 洛陽堂 三〇〇 教育 教育 教育哲學概論 民本主義 米、デユウイ 帆足理一郎譯 八五 中一 六三 洛陽堂 三〇〇 教育 教育 原著者の活動的哲學より見たる教育に付詳述す。

近世社會主義論 田島 錦治 八五 中一 三〇 法曹閣 三〇〇 社會 社會主義 近世社會主義論 田島 錦治 八五 中一 三〇 法曹閣 三〇〇 社會 社會主義 佛蘭西、日耳曼及基督教社會主義の三章に分ちて諸家の説を紹介し其歴史等を載す。

近世日本織田氏時代 中篇 徳富 猪一郎 八七 小中 五二 民友社 二〇〇 歴史 日本史 近世史 近世日本織田氏時代 中篇 徳富 猪一郎 八七 小中 五二 民友社 二〇〇 歴史 日本史 近世史 自天正時代の日本至山陰道と明智、年表を付せり。

近世の日本 内田 銀藏 八四 中一 四九 富山房 三〇〇 歴史 日本史 近世史 大阪懷徳堂に於ける通俗講演、江戸開府より維新に至る重要な事項、及び人物事蹟等。

△會社法講義 松本 蒸治 八二 中一 四〇 嚴松堂 三〇〇 法律 商法 會社法 東京帝大、法科大学に於ける著者の講義を補足上梓せるもの。

經濟眼 財部 靜治 八三 小中 四三 弘文堂 三〇〇 經濟 經濟 經濟眼 財部 靜治 八三 小中 四三 弘文堂 三〇〇 經濟 經濟 經濟に關する論說五、小品二十を蒐む。

△刑事訴訟法 牧野 英一 七二 中一 四六 有斐閣 三〇〇 法律 訴訟法 著者大正六、七年の講義案。

現行小學校令及學事關係 中文館編 八五 小中 一三 中文館 〇三六 教育 教育法規 現行小學校令及學事關係 中文館編 八五 小中 一三 中文館 〇三六 教育 教育法規 現代の遺傳進化學 阿部余四男編 八五 小中 一六 老鶴園 一六〇 理學 進化論 歐米遺傳學者中より廣く材料を得て現代の遺傳學を中心とし其進化論、人種改良及育成品種との關係を述ぶ。

現代文章講話 茅原 華山 八六 小中 一七 日本評論社 二〇〇 語學 日本語作文 名流諸家の文範を用ひて新しき文章の書き方を説けり。

かし家と建築圖案五十種 建築書院編 八六 中一 三四 建築書院 三〇〇 工學 建築 かし家と建築圖案五十種 建築書院編 八六 中一 三四 建築書院 三〇〇 工學 建築 五十種に付各案圖、平面圖を掲げ坪數、地形、木材、雜作、概算建築費を付記し終りに共通參考事項を述ぶ。

最近十高等學校入學試験問題集 自明治四十二年 受驗準備研究會編 八五 小中 一八 春和堂 〇三〇 教育 試験問題 最近十高等學校入學試験問題集 自明治四十二年 受驗準備研究會編 八五 小中 一八 春和堂 〇三〇 教育 試験問題 問題のみにて解釋なし。

今日の南米及び渡航 移住案内 瀧川 龜太郎 八六 小中 二六 廣文堂 〇六〇 地誌 南米 歴史、地理、現狀等を平易に述べたり。

最新桑樹栽培學 遠藤 保太郎 八四 中一 六五 丸山舎 四〇〇 農業 栽桑 蠶桑高等教育を受くる學生及び基礎ある合理的栽桑をなさんとするものために書かれたり。

日本讀岐の卷(日本傳説叢書) 刊行會編 八六 小中の 四九 日本傳説叢書 文學傳説

思想の勝利片上 仲 八五 小中の 三二 天佑社 一〇七 文學文學論文

思想問題其他十九論文を収む。

實蠶の品種改良法 高橋伊勢次郎 八四 中一 四〇 明文堂 二〇〇 農業蠶業

最近改良實驗全芽育蠶法 内田晴治 八四 中一 四三 丸山舎 三〇〇 農業蠶業

支那文學概論講話 鹽谷 溫 八五 中一 五〇 大日本雄辯會 三〇〇 文學支那文學

東京文科大學第一回夏期公開講演筆記を主とし是れに戯曲小説の發展を叙述修補したるもの。

△私法論文集 第三卷 松本 恣治 八六 中一 七六 巖松堂 三〇〇 法律

△社會問題及社會運動 河田 嗣郎 八六 中一 四三 岩波書店 二〇〇 社會社

現代の社會と經濟、同盟罷工、社會主義等に付き廣く是れを述べヴェルナー、ゾムバード教授の無資產階級論及何故亞米利加に社會主義なき乎の二編を附録とす。

曙 光土井 晚翠 八五 小一 三七 金港堂 二〇〇 文學新體文學詩

神社と宗教 安原清輔 八六 小中の 五〇 弘道館 三〇〇 神書神道

神社の研究、神道各教沿革及教義、神道の儀式、家庭に於ける神道等。

近心理學大集成 三浦藤作編 八六 中一 九九 中興館 四〇〇 哲學心理學

師範學校心理學の程度を標準とし最近に現はれたる學說、特殊の研究等を蒐録す。

生活と文化 金子 筑水 八六 中一 三六 南北社 三〇〇 文學文學論文

主として歐羅巴文明によりて生活の意義を觀測し分析し批判せるもの。

精神運動と社會運動 賀川 豊彦 八六 中一 七九 警醒社 三〇〇 哲學心理社會心理

著者が十年の貧民研究により過去一年中に發表したる論文を蒐集せり。

△生藥學 上卷 下山順一郎編 八六 中一 二七 蒼虬堂 三〇〇 醫學藥學

隱花植物、皮類、木類、根莖類、根類、草芥類の六章を載せたり。

戦後の日本及支那 竹内 正志 八五 中一 三〇 博文館 二〇〇 政治外交

著者が多年の支那研究及見聞に基き政情を述べ併せて持論と抱負とを披瀝せり。

智識及身體 善良なる雇人採用法 野口 直人編 八五 中一 三三 精文館 三〇〇 産業雇人

試験に依るケンブル氏の使用人選定法を基礎とし米國現行の諸法と著者立案の試験法を説けり。

創作的教育の研究 大久保 徳五郎 八五 中一 三二 金港堂 一〇〇 教育教育

兒童教育に對する著者の經驗及研究を載せたり。

自代數學講義 松村 定次郎 八五 中一 八三 日通堂 三〇〇 數學代數

中學檢定指針 大日本國民中學會編 八四 小中の 一四 國民書院 〇五 教育試験問題

專門學校入學者檢定試験自明治四十年至大正五年試験問題を付す。

釣魚獨案内 附釣師の日記 高橋 清三 八六 小一 一五 東文堂 〇五 娛樂釣

釣の心得、準備、器具、時刻等河海に亘りて面白く述べたり。

△手形 形 松本 恣治 八六 中一 五〇 巖松堂 三〇〇 法律商法手形法

著者自家の手形學說に基き一貫して各事項の説明を試みたり。

トルストイ全集第七卷 杜翁全集刊行會編 小中の 一 春秋社 文學トルストイ

解題、復活前後編、教義神學の批評。

日本アルプスと秩父巡禮 田部 重治 八六 小中の 北星堂 一五 地誌 日本アルプス
 著者が山岳、溪谷、深林の間に旅行したる過去十年間の記録。
 遊覽日本温泉案内 大正 東京温泉案内社編 八五 小中の 誠文堂 一五 地誌 温泉
 全圖百拾餘箇所に就き位置、歴史、効用、氣候、風景、交通、經費等を述べ入浴者の心得を付す。
 日本會計法規義解 平山 慶次郎編 八五 中一の 自 治 館 二五 財政會計法
 相互關係ある條文を各章節の初めに掲げ逐條解釋を施し關係法令等を網羅す。
 日本商標登録大全 第拾卷輯 上下巻 東京書院編 八四 大二二二七 東京書院 二五〇 産業商標
 日本藥草大觀 河村 九淵編 八五 中一の 小西書店 三〇 醫學藥用植物
 理に本邦に栽培若くは野生せる草木に就き栽培、收穫、加工、販賣等の順序方法を述べ。
 農村社會政策 森 賢 隆 八六 小中の 敬文館 三〇 農業農村
 百 姓 道 志 澤 光 郎 八五 小中の 三三 甲 陽 堂 一〇〇 農業農業道德
 農事従業者の精神を自覺せしめ、樂しむ可きことを教へ、其位置を他と平準ならしむる等につき著者の意見を述べ。
 婦人の勝利(現代叢書) 山川 菊 榮 八六 小中の 三六 日本評論社 一〇 社會婦人問題
 原始社會及文明社會の男女關係、近代婦人運動、婦人と職業問題等。
 佛 教 概 論 金子 大 榮 八六 中一の 大岩波書店 二五 宗教佛 教
 著者の大谷大學に於ける講義及研究。
 △法 學 通 論 中 村 萬 吉 八五 中一の 四六 早稻田法政學會 二〇 法律法學通論
 著者の早稻田大學に於ける講義稿本。
 △法律學說第四卷 民法債權編各論下 高窪 喜八郎編 八五 中二 法律評論社 二〇 法律法 律
 △判例總覽第八卷 商法債權編上

道連れとなつた社會矯風家 三省堂編 八五 小一の 二四 三省堂 〇三 語學英語翻譯
 (青年英文學叢書第四十篇)

民衆藝術論 加藤 一夫 八六 小中の 三〇 洛陽堂 二〇 文學文 學
 民衆藝術に關する論文、民主主義に關する考察其他五章三十二篇。

修養 明治兩陛下聖德記 末松 謙 澄 八五 小中の 三四 博文館 一〇〇 傳記 明治天皇
 寶鑑 新聞雜誌に掲載し又は口授講演せるもの等を纂む。

名 人 崎 人 木 山 荻 舟 八五 小一の 三六 玄文社 一〇〇 傳記 日 本 人
 池野大雅及二十四を擧げて其逸事を載せたり。

獨習 模範英語講義 正則タイピスト學校 八六 中一の 五三 甲寅出版社 三三 語學英 語
 自在 英語發音之原理、羅馬字、英文解釋の原理、和文英譯の原理、初等英文練習、英習字法。

入學試 模範答案集數學 研究社編 八六 小中の 七〇 研究社 二〇 數學數 學
 各專門學校自大正元年至大正七年問題及解釋。

農家 藥用植物栽培法 岡村 猪之助 八五 小中の 四四 實業之日本社 一五 醫學藥用植 物
 副業 栽培植物と野生植物とに分ち各品種毎に効用、使用法、栽培法を述べ。

大和名所圖會(大日本名所圖會) 大日本名所圖會刊行 八六 中一の 七三 大日本名所圖會
 第一輯第三編 會編 秩入 深田圖案研究所 三〇 美術圖 案
 輪廓圖 案續貳 深田圖案研究所編 八五 大一の 三〇 美術圖 案

靈 智 と 運 命 白、マーテルリンク 八五 小中の 三三 玄黃社 一五 哲學哲學雜 書
 栗原古城譯 運命に對する原著者の限想的直覺等。

比較 六十三大生活法 石上 玉汀 八五 小中の 三三 忠誠堂 一五 醫學衛生 生
 我國一流名士の生活に對する意見及其實際生活方法を蒐む。

我が往く處 岡本米藏 八六 小中の 一九 培風館 二四 倫理教訓
 著者の講演速記。人と土と神、日本と米國と世界。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
海の怪物 (理科物語叢書 第六編)	兒童讀物研究會編	八六	小中の	一六	鐘開	〇五〇		
大正少女傑作文 春夏の巻	葛原 齒編	八六	小中の	三三	正文堂	〇四五		
理科日本丸 (理科物語叢書 第五編)	兒童讀物研究會編	八五	小中の	一〇	大鐘開	〇五〇		
慾ばり猫 (世界童話集 第十一編)	鈴木三重吉編	八五	小中の	三三	春陽堂	〇六〇		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
惡靈前編	露、ドストエフスキー 米川正夫譯	八五	小中の	六四	新潮社	一七〇		
今の世の奇蹟	黒岩 涙香	八六	小一の	三四	扶桑堂	一〇〇		
白鳥	鳥田山 花袋	八五	小中の	三八	春陽堂	一八〇		

大正八年七月廿七日印刷納本
 大正八年七月三十日發行
 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 編輯兼發行者 吉井佳雄
 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 印刷人 鳥太郎
 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 印刷所 三秀會
 日比谷圖書館内 發行所 日本圖書協會編輯部 (金拾錢) (一ヶ年前金壹圓郵税不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷 第八號

第一 一般書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
イスラエル物語 大橋 房	橋 房	八六	小中の	四二	晉興社	三〇〇	宗教	基督教
アダム、エバのエデン生活に筆を起しバビロン王宮の壁書、エルサレムの再築を以て結べり。								
伊勢物語詳解 鎌田 正憲	鎌田 正憲	八六	中一の	五二	南北社	三六〇	文學	伊勢物語
經濟逸話道 話福祿壽人編	福祿壽人編	八六	小中の	三六	甲陽堂	一三〇	倫理	教訓
心學經濟に關し古今の政治家、經濟家、心學家、農工商農家等の眞理を含み人情の幾微を穿ちたるものを蒐めたり。								
英字新聞の研究 花園 兼定	花園 兼定	八六	小一の	三二	北星堂	一三〇	新聞	新聞
編輯及び記事、英米新聞の記事、用ひらるゝ主なる言葉、原稿修正の實例、世界の新聞等。								
英和建築語彙 建築學會編	建築學會編	八五	中一の	一七	丸善株式會社	三六〇	工學	建築
最近の科學 音樂の原理 田邊 尚雄	田邊 尚雄	八六	小中の	五八	老鶴園	三〇〇	諸藝	音樂
音響及音階に關することを専門に偏せざるやう述べたり。								
汽車の窓から 東北部 谷口 梨花	谷口 梨花	八六	小中の	四八	博文館	一三〇	紀行	紀行—内國
鐵道沿線の紀行及案内。								
教育の根本問題としての 宗 教 修 坂 國 松	坂 國 松	八六	中一の	三〇	集成社	三六〇	教育	教育

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 其他は………一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六四
 小 四六六
 菊列半載以下

本質論、關係論、宗教の差異と教育等にして京都帝國大學哲學科の卒業論文なり。

金 融 と 經 營 高 木 繁 太 八六 小中の 三〇 東 盛 堂 一三〇 經濟 金 融

金融業、信用、金融利用法、金融機關の發達、通貨との關係、放資、經營と發展等を述ぶ。

實 果 物 採 收 貯 藏 及 荷 造 法 恩 田 鐵 彌 八六 中一の 三〇 博 文 館 二〇〇 農 業 果 農 業 製 造 樹

主として理論を避け實際問題を記述し又研究者の爲めに參考資料を集録せり。

ケ ー ペ ル 博 士 小 品 集 獨、ラファエル、ケーベル 八六 小中の 一五 岩 波 書 店 二〇〇 哲 學 哲 學 一 雜

論文、斷想、問答、序文、演説、書簡等を蒐む。

健 康 法 辭 典 伊 藤 尚 賢 編 八六 小中の 五二 丙 午 出 版 社 二五〇 醫 學 衛 生

種々の強健法、食養法、運動法等を蒐めたり。

國 定 圖 畫 教 授 書 諸 澤 虎 雄 八三 中一の 四七 豐 盛 堂 三〇〇 教 育 教 授 法 一 圖 畫

家庭に

於ける 小 供 の 愛 護 高 峯 博 八六 小中の 四七 洛 陽 堂 三〇〇 教 育 家 庭 教 育

醫師として又子供の同情者としての研究觀察を蒐む、子供の觀察、子供の愛育、子供小品等。

米 代 用 食 料 品 料 理 法 報 知 新 聞 社 編 八六 小一の 一七 日 新 開 〇 壹 家 事 料 理

報知新聞懸賞募集當選答案及選外佳作を蒐めたり。

最 新 緬 羊 飼 育 法 莊 司 左 男 治 八六 小中の 三九 岩 本 農 園 一三〇 農 業 緬 羊

災害防止展覽會出品物を中心としてこれが解説並に關聯せる災害防止の心得を通俗に述べたり。

災 難 は 避 け ら れ る 培 風 館 編 八五 小中の 一五 培 風 館 〇 吾 社 會 災 害

自 學 主 義 の 教 育 法 樋 口 長 市 八六 中一の 三五 金 港 堂 一三〇 教 育 教 育

「現代教育」誌上に連載したるもの、斯道に關する諸説を網羅して實際的に叙述し、各論に於ては初等教育各科に互りて實例を挙げたり。

支 那 人 文 講 話 今 關 壽 磨 八六 小中の 三三 二 西 社 一〇〇 地 誌 支 那

文字、書籍、經學、文學、書道、繪畫、小説戲曲、道教、支那最近の思想に就き講述す。

支 那 佛 教 遺 物 松 本 文 三 郎 八六 小中の 二九 大 鐘 關 三〇〇 宗 教 佛 教

著者が支那漫遊中の見聞、事實を叙述し研究考證を加へたり。

十 九 世 紀 佛 國 繪 畫 史 獨、リヒャルト、ムツテル 八六 小中の 四六 日 本 美 術 學 院 三〇〇 美 術 繪 畫

原著者は有名なる美術史家なること人の知る所なり。

參 千 圓 以 下 趣 味 の 住 宅 納 谷 松 藏 八六 中一の 二三 鈴 木 書 店 一〇〇 工 學 建 築

外觀及室内寫眞並びに間取平面圖を附す。

神 道 沿 革 史 論 清 原 貞 雄 八六 中一の 四三 大 鐘 關 三〇〇 宗 教 神 道

原始期より徳川時代の終りに至る。

西 洋 畫 の 描 き 方 高 村 眞 夫 八六 中一の 一七 日 進 堂 一〇〇 美 術 西 洋 畫

素人の爲め初歩より平易に説けり。

世 界 十 萬 哩 無 錢 旅 行 鳥 井 三 鶴 八六 小中の 四六 廣 文 堂 一〇〇 紀 行 紀 行 一 外 國

南洋、印度支那、海峽殖民地、印度等の紀行文。

測 量 手 實 用 測 量 術 大 谷 保 藏 八六 小中の 五三 博 文 館 一〇〇 工 學 測 量

實際最も必要な數多の事項を詳述し、應用を明かにし、公式、對數表等必要な諸表を付せり。

泰 西 の 繪 畫 及 び 彫 刻 第 八 卷 近 洛 陽 堂 編 八六 中一の 一七 洛 陽 堂 三〇〇 美 術 美 術

第六卷に續きて讀まる可きもの、挿繪はデューラー、アイク、エイデン、メモリンク、マシス、マビユーセ、レイデン、クラナツハ、テイントレット、グレコ作品。

鐵 及 び 鋼 の 研 究 本 多 光 太 郎 八六 大一の 一五 老 鶴 岡 三〇〇 工 學 鐵

大正五年以降東北大學研究所にて爲されたる鐵鋼の冶金的研究の講演。

通俗電氣の世界 堀 七 藏 八六 小の 四 英文館 三〇〇 工學電氣工學

講義 電氣の發送、諸般の應用實例を述べ、燈火の變遷、郵便事業の發達、郵便爲替、郵便貯金等を附録す。

天台宗綱要 乾 坤 前 田 謙 雲 八六 中二 三〇 丙午出版社 二〇〇 宗教佛

歴史の叙略、教義の述要、三大部の提綱。附録佛性論外八編。

天文 文 大 觀 新城 新 藏 八六 中一 三六 岩波書店 一〇〇 理學天文學

天文學の大體を通俗的に紹介す。

△土壓及擁壁設計法 吉田 德次郎 八六 中一 三九 丸善株式會社 三〇〇 工學土木工學

多數の理論を統一的に記述し算例と評論とを加へたり。

隣れる部室 (警醒叢書) 警 醒 社 編 八六 小一 一五 警 醒 社 〇〇 宗教基督

米、ライマン、アボットのデ、アザ、ルームの翻譯、附録神の人モーセの死外四編。

舞臺のお 中村 吉右衛門 安 部 豊 編 八六 小の 九 好 文 社 二〇〇 諸藝演 劇

狂言別に筋書又は科白拔萃及扮装寫真(六四枚)を挿入す、初代中村吉右衛門傳二九頁を附録とす。

鑑定 日本刀の位列と價格 高 瀬 梧 堂 編 八六 小の 二五 富 山 房 一〇〇 兵事刀 劍

備考 古人先輩の穩健にして要秘を傳へたる言説を蒐めて初學者の爲め鑑刀の第一歩を述べ。

微分積分早わかり 秋 山 武 太 郎 八五 小の 二四 高 岡 書 店 〇八五 數學微分積分

解析幾何の智識なき初學者にも微積分の如何なるものなるやを充分に知らしむるやう書かれたり。

富 源 西 伯 利 松 井 甚 右 衛 門 八六 小の 三〇 日 露 俱 樂 部 二〇〇 地誌西 伯 利

地理、住民、沿革、交通、産業、重要都市、外國貿易、日本との輸出入品、統計、商習慣等に就き記述し地圖必要法令類を附

録とす。

婦人の日常生活 山 脇 房 子 八六 小の 二四 日 新 閣 一〇〇 家事家 事

修養、結婚、家庭、經濟、交際、禮儀、教育等に關する談話を蒐む。

新しい女子 婦人も働け 本 下 幹 編 八六 小の 二五 日本評論社 〇七五 社會職 業

職業案内 婦人の家庭内職、商賣、職業等を紹介し内情、方法等を教へたり。

フランス大革命史前編 箕 作 元 八 八六 中一 六四 富 山 房 四〇〇 歴史西 洋 史

原因、萌芽期、發生期、成長期一七九二年八月王宮攻撃迄、挿圖及年表を付す。

抱 月 全 集 第一卷 片 村 抱 月 著 八六 中一 四六 天 祐 社 文學日本文學

文藝評論。

北 半 球 一 周 高 原 操 八五 小一 一八五 文 雅 堂 〇七五 紀行紀行—外國

獨を發し諸、瑞を經、露より獨に歸る北海旅行、西伯利亞橫行記、樺太踏査記。

増 鏡 (國文口譯叢書) 文 會 堂 編 八六 小の 六〇 文 會 堂 一〇〇 文學增 鏡

原文對照、終りに註解を付す。

實民事訴訟手續總攬 田 山 卓 爾 八七 中一 六三 有 斐 關 三〇 法律民事訴訟法

實務上の經驗に基き實在の訴訟事件に應用せらるゝ狀況を紹介す、一切の關係法令及慣例をも網羅せり。

名 將 回 顧 錄 原 田 指 月 八七 小の 三三 國 民 書 院 一三〇 兵事 史 傳 事

大島、由比、一月、兒玉、大久保、木越、龜岡、奥の諸將軍が經たる戰役等の回顧談を蒐む。

緬 羊 の 飼 ひ 方 和 田 稔 八五 小一 一七 帝國青年發行所 〇七五 農業 牧 畜

副業的飼養法及緬羊に關する事項を問答體を用ひて平易に述べたり。

模 範 女 子 作 文 大 町 桂 月 八六 小の 五三 止 善 堂 一七〇 語學 日本語—作文

著者及男女諸水名流の文を蒐む、紀敘、日記、紀行、書翰、評論など。

△利 子 步 合 論 高 城 仙 太 郎 八六 中一 四〇 有 斐 關 三〇 經濟利 子

利子歩合決定の法則に關し、三田學會雜誌既載の研究に改訂補正を加へたるもの。

ロード、クライヴ詳解 英、ロード、マコレル 七〇 小の 一 長 南 北 社 一〇〇 語學 英文和譯

六 大 浮 世 繪 師 野口米次郎 八六 小中の 一 三三 岩波書店 一八〇 美術 浮世繪
 歌麿、春信、清長、廣重、寫樂、北齋、芳年の作品等に就き及び浮世繪の蒐集等に就き述べたり、作品複製二十葉を付す。

わかき 結婚と自覺 沼田 笠 峰 八六 小中の 一 三六 洛陽堂 一〇六 社會 婦人問題
 婦人の

高等女學校の上級より結婚前後にある人に結婚と家庭生活とに對する正しき理解を得せしむがために。

第二 幼年書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁數	發行所	定價	分類	件名
寶塚歌劇集	久松一聲	八五	小中の	三三	玄文社	一五		
伽傳教大師	巖谷小波	八五	小中の	〇	比叡山延曆寺藏版	〇・五		
ろしあ童話集	露國民衆文學 第三編 昇曙夢編	八六	小中の	一	大倉書店	一五		

第三 小説及劇

書名	著者名	発行年月	冊数	頁數	發行所	定價	分類	件名
明るみへ	廣津和郎	八七	小中の	三五	新潮社	一五		
或女後編	有島武郎	八六	小中の	三八	叢文閣	一三		
荷風全集	第二卷 永井荷風	八六	小中の	七六	春陽堂	一八〇		
俠骨三人男	前編 村上瀨六	八六	小中の	三三	帝國出版協會	一八〇		

熊澤蕃山	(國民小説文庫 第七編)	平井 晩村	八七	小一	二二	國民書院	〇・五	
栗山大膳	碧瑠璃園	八四	小中の	四六	大鐘閣	三〇		
懸賞五百萬圓	佛、アンリオリ	八七	小一	二四	白水社	〇・〇		
西行上野松峯	八七	小中の	二九	聽松書院	三〇			
殘月波邊霞亭	八七	小中の	六四	玄文社	一六〇			
憧憬相馬泰三	八六	中一	三五	新潮社	一五〇			
小さな王國	谷崎潤一郎	八六	小中の	二八	天佑社	一六〇		
地に潜むもの	(地一巻上) 島田清次郎	八六	小中の	三五	新潮社	一三〇		
浪六全集	第十四篇 村上瀨六	八五	小一	八六	至誠堂	一六〇		
白痴後論	(ドストエーフ スキイ全集四) 露、ドストエーフ、スキイ 米川正夫譯	八六	小中の	六三	新潮社	一五〇		
風流佛附録一口劔	(明治傑作叢書 第二編) 幸田露伴	八六	小一	一五	天佑社	〇・五		
山中鹿之助	(碧瑠璃園傑作 叢書 第十編) 碧瑠璃園	八六	小一	七三	大鐘閣	一五〇		
レ、ミゼラブル	第三卷 佛、ユゴー 豐島典志雄譯	八六	小一	六九	新潮社	一六〇		
ロオレンの少女	佛、モオリスバレス 新城和一譯	八六	小中の	三三	洛陽堂	一〇〇		
露國十六文豪集	(世界短編傑作叢書 一) 露、トーマス、セルヂエル編 衛藤利夫譯	八七	小一	四〇	新潮社	一〇〇		

第四 官公署出版物

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
役員用牛の體型に關する調査	農商務省農務局	八一	大	一〇	農商務省農務局		農業	牛
勸業模範場研究報告(害虫に關する調査)	朝鮮總督府勸業模範場	八一	大	三	同		農業	害虫
京都府史蹟勝地調査會報告 第一冊	京都府	八一	大	一五	京都府		地誌	京都府
酸性土壤調査報告(勸業模範場研究報告)	上杉綱雄等	八一	大	一五	朝鮮總督府勸業模範場		農業	酸性土壤
實業補習教育に關する施設の狀況	文部省專門學務局	八一	中	七	文部省專門學務局		教育	實業補習教育
世界戰爭に於ける主要交戰各國金融事項要覽	大藏省臨時調査局	八一	大	一五	大藏省		經濟	金融
獨逸國勞働保險事業成績	內務省衛生局	八一	大	二	內務省衛生局		社會	勞働保險
馬鈴薯飯の調理法(食糧増殖獎勸資料第一號)	農商務省農務局	八一	中	一〇	農商務省農務局		家事	馬鈴薯飯
米國に於ける農業教育	文部省實業學務局	八一	中	一〇	文部省		教育	農業教育
北海道拓殖功勞者旌彰錄	北海道廳	八一	大	一六	北海道廳		地誌	北海道

大正八年八月十八日印刷納本
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 印刷所 三秀舎(定価一冊) 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 發行所 日本圖書協會編輯部(郵税不要) 日比谷圖書館内(一ヶ月前金壹圓郵税不要)

日本圖書協會選定 新刊圖書目錄 第九卷

第一 一般書類

書名	著者名	発行年月	冊数	頁数	発行所	定価	分類	件名
開黒の倫敦より	稲原勝治	八一	中	五	外交時報社	三〇	地誌	紀行—外國
安全 第一 生活法	内田嘉吉 北林忠吉 編	八一	小	三三	文豐社	二〇	社會	生活法
十六夜日記新釋	佐野保太郎	八一	小	三〇	有精堂	二〇	文學	十六夜日記
現代語譯、註解、索引を付す。								
歐米教育の印象	野上俊夫	八一	中	二八	岩波書店	一三〇	教育	教育
オリンピック競技法	米、マ、イ、フ、イ、金栗四三、石貫鐵心 譯	八一	中	一三	菊屋	〇八五	諸藝	遊戯
應用機械學	蘭川武	八一	中	三三	啓正社	三〇〇	工學	機械學
東京高等工業學校附屬補習學校に於ける著者の教材を整理せるもの。								
女の旅	高桑文子	八一	中	四五	寶學館	三〇〇	地誌	紀行—內國
著者の旅よりの消息及旅日記を蒐む。								
實家庭漬物の仕方	奥村繁次郎	八一	小	一七	忠文堂	〇七五	家事	料理

△………専門的のもの
 ×………卑近のもの
 ○………一般的なもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 菊列半載以下

蔬菜、果實、魚貝、牛鳥肉等の漬方及味噌類、ひしほ等の拵へ方を述ぶ。

△カン 道徳哲學原論 獨、カ、ン ト 安倍能成、藤原正譯 八八 中一 一五 岩波書店 一〇〇 哲學 哲學

原書成立の由來と内容の解説を序説とす。 支那鮑翅と其酵母改菊池式家庭 菊池 正助 八六 中一 一四 博文堂 〇三三 家事 鮑

良の研究より得たるパン製造法 菊池 正助 八六 中一 一四 博文堂 〇三三 家事 鮑

著者發明のパン製法及其應用製法を述ぶ。 草の芽片山 伸 八七 小一 一六 南北社 一〇三 文學 文學—論説

最近十ヶ年間の著者の論文、文藝批評等を蒐む。 鶏卵の御料理 (家庭料理講義) 東京製菓講習會編 二版 中一 一〇五 東京製菓講習會 〇〇六 家事 理

鶏卵の料理法數十種。 激動の中を行く 興謝野晶子 八八 中一 一〇三 ア、ル、ス 一〇〇 文學 文學—論説

著者の最近八九ヶ月の間に雑誌上に發表せる感想の中より選集せるもの。 賢哲傳 上卷 有馬祐政編 八七 小一 一〇六 弘道館 二〇〇 傳記 日本人同傳

太宰府天滿宮故實其他八書を收む。 現代短歌用語辭典 松村英一編 八七 小一 一〇〇 短歌雜誌社 〇五五 文學 和歌

説明及用語を讀込める應用例を付す。 現代哲學科 學と宗教 佛、ブ、ト、ル、一、赤松智城、宇野圓空譯 八七 中一 一〇七 博文館 三〇〇 宗教 宗

現代知識階級運動と成金とデモクラシー 米田庄太郎 二版 小一 一〇三 弘文堂(京都) 一八〇 社會 社會

何れも社會問題の一として研究せるもの。 時間及疲工場と労働 佐野克己編 八七 中一 一〇二 精文館 三〇〇 工業 工場管理法

近代の疲勞に對する研究の結果を述べ労働法其他取締規則等に及ぶ。 向陵 三 年 山岡柏郎 八八 小一 一〇三 博文館 二〇〇 教育 高等學校

第一高等學校時代の追憶談。 國語の發音とアクセント 佐久間鼎 八八 中一 一〇〇 同文館 二八〇 語學 日本語

訛音の矯正及びアクセントの整理等に關して依據すべきところを示せり。 國民哲學の建設 田中喜一 八八 小一 一〇六 天祐社 二〇五 哲學 哲學—論説

哲學に關する論文十一篇を收む。 古事記及日本書紀の新研究 津田左右吉 八八 中一 一〇二 洛陽堂 四〇五 歴史 日本歴史

記紀の一般的性質と其の神武天皇以後仲哀天皇以前の部分とに對する研究。 趣味の旅 古跡めぐり 笹川臨風 八七 小一 一〇九 博文館 二〇三 地誌 紀行—内國

子供と金 錢野中 正 八八 小一 一〇三 東亞堂 一〇三 教育 家庭教育

財政的訓練、金儲、貯金、消費及給與之方法等米書ユーズ、アブ、マネーの翻譯を基礎とす。 護謨栽培事業 加藤至徳 八七 中一 一〇三 南洋協會 二〇五 農業 護謨

歴史及び栽培、供給、需要、放資等の現狀に就き詳述せり。 西教史 談山本秀雄 八八 小一 一〇三 洛陽堂 二〇〇 宗教 基督教史

佛教と基督教との衝突、誓詞、自殺の問題及び切支丹婦人の節操等に關する物語を集む。 最新遺傳論 丘淺次郎 八七 中一 一〇六 盟館 三〇五 理學 遺傳

實地調査 最新十大副業 産業調査會編 八七 小一 一〇三 二松堂 二〇〇 農業 副業

養蜂、養豚、山羊の飼方、家兎の飼育、養煙、鶉の飼育法其他。 社會思想及社會組織の研究 菊池兵衛編 八八 小一 一〇三 日新閣 二〇〇 社會 社會—論説

社會研究に關し著者が雜誌又は講演にて公にせるものを集む。

自然界と人間界 木戸忠太郎 小中 二四 博文館 一〇〇 理學 學

手工科教材集成簡易木工篇 岡山秀吉編 小中 一五七 博文館 三〇〇 教育 教授法—手工

省略算及び簡便算(數書叢書第佛、フアスピンドル、ローゲル林鶴一譯) 小中 一四〇 大倉書店 一〇〇 數學 省略算

森林の水源涵養論 山本徳三郎 小中 一三五 東文堂 〇〇五 農業 農業—林政

續名人崎 人本山 萩一舟 二版 小中 一三三 玄文社 一〇〇 傳記 日本人

測量學講義 上卷 坂岡末太郎 小中 一〇七 裳華房 三〇〇 工業 測量

貸借對照表論(私經濟學研究第一卷) 國松 豐 小中 一四九 實文館 三〇〇 商業 簿記 學

胎兒及子供の腦髓、たましひの怪談傳説、修養思想信仰等に關することを平易に述ぶ。 胎兒及子供の腦髓、たましひの怪談傳説、修養思想信仰等に關することを平易に述ぶ。

絞染と其圖案 藤岡龜三郎 小中 一四〇 品梅津書店 〇五〇 工業 絞染

地質學攬要 橫山又次郎 小中 一五八 早稻田大學出版部 三〇〇 理學 地質學

帝國の危機 大谷光瑞 小中 一三三 民友社 〇〇五 政治 政治—論說

特別保護建造物綜覽 木村貞吉編 小中 一六六 須原屋書店 美術 特別保護建造物

農村教育と生活問題 澤村 眞 小中 一五七 三美止善堂 一〇〇 農業 農村

馬鈴薯調理法及其他各種製法 國食改良研究會編 小中 一六六 國食改良研究會 一〇〇 家事 料理

北米ローマン 郷倉白雅 小中 一三三 東洋書籍出版協會 一七〇 地理 米

天台蓮法華經要義 清水龍山 小中 一五八 大坂屋 三〇〇 佛教 法華經

對照論述法 華經要義 清水龍山 小中 一五八 大坂屋 三〇〇 佛教 法華經

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

著者の講演草稿

△保險研究 第一卷 瀧谷 善一 八七 中一 四二 實文館 三六〇 經濟保險

民本主義と國民教育 橋本 文壽 八六 中一 一八 實文館 二〇三 教育

浪人と なりて 永田 秀次郎 八八 小の 二六 耕文堂 一〇三 文學文學—論說

第三 小説及劇

書名	著者名	發行年月	大小冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
赤門だより	志摩 五郎	八一	小一	二九	東亞堂	〇七五		
落	潮 小栗 風葉	八一	小の	四三	新潮社	一八〇		
鏡	影 有鳥 生馬	八一	小の	三三	春陽堂	一六五		
白樺脚本集	白樺 同人	八一	小の	三三	新潮社	一〇〇		
水滸傳物語	大町 桂月	八一	小一	三三	新潮社	一〇〇		
浪六全集	第十五編 村上 浪六	八一	小一	七五	誠堂	一〇〇		
マノン、レススコオ	佛、アベ、ブレゾオ 廣津和郎譯	八一	小一	三〇	新潮社	〇七五		

本目錄編纂の主旨は普通圖書館、學校、教育會、讀書家等の爲に、新刊良書の選擇購入、目錄編成の參考に供せんとするにあり、故に數多き新刊書中より特に記事正確、思想健全と認めたるものゝみを收載し其程度は符號にて内容は解説にて示せり、又官公署出版物の中より有益なるものを選びて紹介することゝなせり。

大正八年十月十八日印刷納本
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地
 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 大正八年十月二十日發行
 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 發行所 日本圖書館協會編輯部
 (一ヶ月前金壹圓郵稅不要)

小學 學習態度論 (自動教育叢書 第二編) 自動教育研究會 八九 中一 六六 明 誠 館 三〇 教育 自動教育
 兒童 被教育者の自發的方面を重する教育法を論ず。
 教育者の思想と生活 三浦 修 吾 八八 小中 四四 大同 館 三〇 教育 教育 | 雜
 教育者自己の思想と生活の爲め或は職務の爲めの思想との不一致に就て述ぶ。
 現今の奴隸態度 (社會思想普及叢書 第六卷) 露、トルストイ 八八 小中 二〇〇 文 雅 堂 一〇〇 文學 トルストイ
 現代の三大思潮批判 佐々木吉三郎 八八 小一 二〇〇 大日本圖書株式會社 二〇〇 社會 社會問題
 個人主義、民主主義、社會主義。
 鑛業分析 第三卷 野村 堅 八五 中一 三四 日本鑛業新聞社 三〇 工學 鑛業分析
 第二編元業特論。
 立言國政夜話 岡田 泰藏 八八 小中 三四 博文 館 一〇〇 政治 政治 | 論說
 政治家たる著者の主張。
 國體新論 物集 高見 八八 中一 五九 廣文庫刊行會 四〇 政治 政治 | 論說
 日本の皇室と國民との特殊なる關係を述べ、尙日本國民の特性等に付き古今に亘り幾多の事例、人物等を擧げて示せり。
 悟道の妙味 高階 瑞仙 八八 小中 二〇〇 隆文 館 一〇〇 宗教 禪
 著者の隨所に宣述せし禪語を集む。
 急所裁縫 奧 儀 東京和服裁縫研究編 八八 中一 三四 梅津書店 二〇 家事 裁縫
 和服裁縫の急所を圖解を加へて詳説せり。
 最近十八年間官立諸學校入學試驗 栗原 保次郎 八八 小中 四四 東華 堂 〇〇 語學 日本語 | 作文
 作文 答案 模範 文例 遠山 操 十版 小中 一〇 四四 東華 堂 〇〇 語學 日本語 | 作文
 自三十五年至大正八年。
 試驗に出算術の解法 石上 錄之助 八八 小中 三〇 鈴木書店 二〇 數學 算術
 さうな

中學校入學試驗程度より高等學校試驗程度まで。
 山陽詩鈔註釋 峰谷 柳莊 八八 小一 四三 大 鐘 關 二〇 文學 漢詩
 農村に於ける生活難の原因、救済策。
 自然派の倫理學 島本 愛之助 八八 中一 三四 目黒 書房 三〇 倫理 倫理學
 著者の自然主義的倫理學說、同主義的考察に基づくニイチエ、ベルグソンの倫理學。
 市町村改良と社會教育 佐々木吉三郎 八八 中一 四四 目黒 書房 三〇 教育 社會教育
 著者の「家庭改良と家庭教育」の續篇、農村改良、都市改良、社會教育の章により教育を社會に關係せしめて論ず。
 現兒童救護の實際 關 寬 之 八八 小中 三〇 洛陽 堂 二〇 社會 兒童救護
 最近内外に於ける兒童救護、教育的施設の状態を記し、我國情に照準す。
 絞り染圖案集 (第一) 富田 輝夫 八八 大一 大倉書店 二〇 工業 絞り染
 色刷四枚、下圖二十六枚より成るマツペにして、下圖は用途上の實物大とし、加工法色彩等の簡單なる説明書を附す。
 資本論 (第一冊) 獨、マルクス 八八 小中 三四 經濟 濟社 一〇 經濟 資本
 資本論第一冊の全譯。
 住宅と庭園の設計 上原 敬二 八八 中一 二八 嵩山房 三〇 工學 建築
 一般中流階級を標準とし住宅及び庭園設計上の主要點を平易に述ぶ。
 儒教と現代思想 (國民思想涵養叢書 第三編) 服部 宇之吉 八八 小一 二四 大 鐘 關 〇〇 政治 儒教 | 論說
 現代思想と宋代諸學者、泰西哲學者等の學說を對比して儒教とデモクラシー等に就き簡單平易に述ぶ。
 聖德太子實錄 久米 邦武 八八 中一 二五 丙午出版社 二〇 傳記 聖德太子
 上宮太子實錄の改版、改題。
 商法原理 (第一卷) 寺尾 元彦 八八 中一 三四 巖 松 堂 二〇 法律 商法

原理原則を闡明するを主旨とす。

常識 知らぬと恥 樋口 麗陽 八六一 三四 實業之日本社 二〇〇 社會常 識

教科書 服裝、食事、起居、習慣、交際、法律、衛生等に付必要なる注意を述べ。 新 化 學 講 義 田 中 伴 吉 八八 中一 四六 北 星 堂 三〇 理學化 學

中學卒業程度、化學方程式に留意し、附録に各種方程式を採録し、卷末過去數年間の諸官立學校入學試験問題、計算問題を附し、解答を加ふ。

節約新 生活 法 類 田 豐 八六 小中 三〇 實業之日本社 二〇〇 社會生 活

最近の榮養學說に據つて安價生活法を説く。 神道各教派の表裏 藤 田 香 陽 八九 小中 三〇 下村書房 二〇 宗教神 道

各派の教祖傳、教理集。

染色工業用藥品 西田博太郎 八八 中一 一〇 博文館 二〇 工業染色工業

染色工業用藥品の製法、性質を明らかにし、その應用を略記す。

川柳を作る人々に井上劍花坊 八八 小中 三〇 南北社 二〇 文學川 柳

川柳の變遷を叙し、川柳に對する雜感を述べ。

續 生活 難 の 研究 杉 山 榮 八八 小中 一〇 都市事情研究会 〇〇 社會生 活

代數學一次方程式(初等數學叢書 第十編) 高野 泰 藏 八七 小中 一五 大會書店 〇 數學叢 數

中等學校在籍者及卒業者用並びに獨習者用。

誰にも 電 氣 の 話 松 川 雄 三 八九 小中 二四 通俗大學會 三〇 工學電 氣

性質、磁氣、無機、電線路、電燈、電力、電鐵、電信、電話、電氣化學、發電所等の學理及實際を平易に述べ。

△デカルト 方法省察原理 佛、デカルト 出 隆 譯 八八 中一 四三 大村書店 二〇 哲學哲 學

デカルト「方法叙説」、第一哲學の省察」の全部「哲學原理」第一部の譯。

△改訂 鐵筋混凝土之設計及施工法 小 川 敬 次 郎 八八 中一 八五 裳 華 房 三〇 工學 鐵筋混凝土

初版に比し改訂増補する所多し。

傳 説 の 朝 鮮 三 輪 環 八八 小中 三〇 博文館 〇 文學 傳説—朝鮮

山川、人物、動植物、雜、童話の章による。

電 氣 ロー マ ン ス 山 下 行 雄 八八 小中 二四 山下行雄 一〇 工學電 氣

興味方面より見る電氣の話を集む。

闘 牛 馬 場 孤 蝶 八八 小中 三六 天 佑 社 二〇 文學 文學—雜

著者の隨筆に「闘牛」及「機運と洞察」の二篇を加ふ。

東京府各學校入學試験問題及模範答 武田芳進堂編 八七 小中 三三 武田芳進堂 〇 教育 試験問題

大正八年度東京府管内中學校入學試験問題集。

虹 著者の第二詩集。 千 家 元 廣 八八 小中 二四 新潮社 二〇 文學和 歌

著者の第二詩集。

知つて 日 常 の 作 法 長谷川喜努子 八八 小一 三四 佐藤出版部 二〇 社會作 法

不遠系統の禮法を動作の根柢とし日常生活上の作法を述べ。

日 本 畫 の 描 き 方 西 澤 富 敏 八八 中一 三四 日 進 堂 三〇 美術日 本 畫

初學者の爲めに山水、花鳥、人物、動物等全般に通じ平明に其眞髓を述べ。

日本工場法と労働保護 神 田 孝 一 八八 中一 三〇 同 文 館 二〇 工業工 場 法

勞資協調と生産能率増進を目的とする工場法の研究。

日本の國體美 (國民思想涵養 叢書 第四編) 佐 藤 鐵 太 郎 八八 小中 四六 大 盤 閣 〇 政治 政治—論說

デモクラシーに對する著者の意思と道德的に結合せる日本の國體美に就きて簡單平易に述ぶ。
作り方を主とし 俳句の解し方 零 餘 子 八六 小一 三四 春 水 社 二〇〇 文學 俳
句 たる俳句講話 俳句の解し方を示し、古今二十八大家の句を四季一句づゝを擧げて解釋を加ふ。

ハ ウ ス 大 佐 星 一 八九 小中 一 二五 新報知社 〇五 傳記 ハ ウ ス
D. Howden Smith. "The Real Colonel House" の譯。 三版 一
火 の 鳥 興 謝 野 晶 子 八六 小中 一 二〇 文 淵 堂 一六〇 文學 和 歌
著者の短歌集。

不 死 長 壽 論 佛、メチニコッフ 中瀬 古六郎 譯 八九 小中 一 四〇 文明書院 一七〇 醫學 長 壽 法
大日本文明叢書中の同書を縮刷せしもの。
新 文 章 の 作 り 方 佐 久 間 信 吉 八九 小中 一 文 盛 堂 〇七〇 語學 日本語—作文
一般人士に文章の作り方を説明せるもの。

ベ ス タ ロ ッ チ ー の 生 涯 及 事 業 小 川 正 行 八六 中一 四〇 目黒書店 二六〇 教育 ベスタロッヂー
一般の普通教育者に教育史上の參考資料を提供し併せて修養的讀物たらしむことを期せり。
ベ ン 畫 の 兵 隊 太 田 政 之 助 八九 小中 一 二一 天橋書房 〇七五 美術 繪畫—ベン畫
多數のベン畫を挿入して兵營生活を紹介す。

滿 鮮 の 五 十 日 間 野 暢 壽 八九 小一 五七 國民書院 一六〇 地誌 紀行—滿洲
東京高商に學籍を置く著者の滿鮮の遊記。
耶 馬 漢 清 の 禪 海 和 尙 物 語 秋 山 元 米 信 義 八六 小一 一三 通俗社會 教育研究會 〇五 佛敎 佛敎—雜
洞門由來記 體を浪花節の曲調に假りし敎訓叙事詩。

幼 兒 の 世 界 及 育 兒 (科 學 及 人 生 叢 書 第 四 編) 恩 地 孝 編 八六 小中 一 四六 洛 陽 堂 二〇〇 家事 育 兒

勞 働 問 題 の 眞 髓 瀨 川 源 司 編 八九 小中 一 二九 博文 館 一五 社會 勞 働 問 題
専門學者の研究と勞働者の實生活に基く「眞の要求」を編集す。

我 國 の 米 問 題 大 脇 正 醇 八九 小中 一 三六 博文 館 一〇〇 經濟 米
米の供給充實策、米價調節論により我國の米問題を論ず。附録、農商務省農務局、農學會、國民經濟調査會に於ける本問題に
關する立案。

第二 幼年書類

書 名	著 者 名	發 行 年 月	大 小 冊 數	頁 數	發 行 所	定 價	分 類	件 名
お伽夜話 (前編)	巖谷小波	八九	小中	五〇	博文館	一八〇		
黄金の獅子	高野辰之	八九	小中	一九	春陽堂	〇五五		
少年教育新お伽	武田櫻桃	八九	小中	三四	交盛館	〇七〇		
七面鳥の踊	鈴木三重吉	八九	小中	二〇	春陽堂	〇八五		

第三 小説及劇

書 名	著 者 名	發 行 年 月	大 小 冊 數	頁 數	發 行 所	定 價	分 類	件 名
鏡 中 影	有島生馬	八六	小中	三三	春陽堂	一六五		

小三	金五郎	碧瑠璃園	八七	小中の	元一	大	登	開	一五〇
屍の中	より	大倉桃郎	八八	小中の	五四	大	日本	雄辯會	一六〇
史劇	ナアマ	米、ウ	八八	小中の	三五	岩	波	書店	一五〇
酒中	日記	眞山青果	八九	小中の	三七	新	潮	社	〇八〇
父と	子	露、ツルゲ	八九	小中の	四三	新	潮	社	一三〇
ヘンリー	四世(第一部)	坪内逍遙	九〇	小中の	三四	早	稲田	大學出版部	一八〇
モン	クリスト伯爵	佛、ヂュウマ	九〇	小一の	六三	新	潮	社	一五〇
呼子		鳥長田幹彦	八七	小中の	七八	玄	文	社	一八〇
隣		人相馬泰三	三〇	小中の	三三	天	佑	社	一五〇

大正八年十一月十八日印刷納本
 大正八年十一月二十日發行
 編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日本圖書協會編輯部
 發行所 日本圖書協會編輯部
 (一ヶ月前金査圖郵税不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷 第十一號

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	大小冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名	
滋養安全食療法	高橋潤二	二八〇	小中の	一〇六	誠文堂	一五〇	醫學	食療法	
新解十六夜日記	古典研究會編	八九	小一の	一五	東京書房	〇四	文學	日本文學	
遺傳か	小供の性質	服部北溟	八九	小中の	三〇	隆文館	二〇〇	理學	遺傳
補浮世繪の印象	尾崎楓水	八九	小中の	一	天佑社	一五	美術	浮世繪	
近世日本國民史	織田氏時代(後篇)	德富猪一郎	八九	小中の	六五	民友社	一六〇	歴史	日本歴史
蠶の遺傳	講話	田中義磨	八九	中一の	三六	明文堂	三〇	農業	蠶業
海上衝突豫防法の研究	藤尾正重	八九	小中の	四八	丸善株式會社	三〇	交通	交通	

△………專門的のもの
 ×………專近的のもの
 ○………一般的のもの
 其他は………一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 四六列
 小 菊判半載以下

改造途上の社會	石井宗吉	ハル	小中	四三	佐藤出版社	三〇	社會社會—論說
解 放 の 教 育	西宮藤朝	ハコ	小中	三〇	天佑社	一八〇	教育教育—雜
手輕て 家庭パンの造り方	指原乙子	ハル	小中	三	東京家政研究會	〇四	家事料理
種々のパン、ジャム、サンドウイッチの簡易なる製法。							
金になる土の話	秋本長次	ハコ	小中	三〇	日本書院	二〇〇	理學士
一般土の利用法を平易に記述す。							
歌舞伎 狂言 細見	飯塚友一郎	ハル	中一	六八	歌舞伎新報社	四〇〇	文學 戲曲
各狂言の典據、沿革、梗概、短評を叙し、參考書を擧ぐ。							
株式市價の經濟的研究	木下茂	ハハ	小中	二六	實業之日本社	一七〇	商業株式
株式市價に關する理論的説明と最近十五年間の記録。							
教 育 的 生 物 學	江 幡 龜 壽	ハコ	小中	二六	大 同 館	一八〇	理學 生物 育學
生物學上の事實にして特に教育と關する問題に就きて述ぶ。							
教育者の思想と生活	三浦修吾	ハハ	小中	四四	大 同 館	二〇〇	教育教育—雜
著者の雜感と追憶。							
新 潮 教 授 汎 論 大 集 成	近代學術研究會編	ハコ	中一	六四	中 興 館	三〇〇	教育 教授 法
教授汎論に關する諸説を集成し、簡單なる體系の中に收む。							
狂 言	畫 伊勢門水筆	ハハ	中一		川瀬書店	五〇〇	美術 日本 畫
筆者の狂言を描きし畫集。							

增補 希臘及北歐神話	杉谷代水譯補	ハセ	小一	四八	富山房	二〇〇	宗教 神話
縮刷 希臘神話に北歐神話を増補し縮刷せしもの。							
銀 行 會 計	兒林百合松	ハコ	小中	三六	天地書房	三〇〇	產業 銀行會計
英米の事例を參照して我國銀行會計の整理法を述ぶ。							
改 刻 近 世 化 學 講 義 (有 機 部)	加 納 清 三	ハル	中一	七八	内田老鶴圃	四〇〇	理學 化學—有機
初版を有機無機に分冊し新研究、新問題を増補す。							
改 刻 近 世 化 學 講 義 (無 機 部)	塚本又三郎	ハル	中一	七三	内田老鶴圃	五〇〇	理學 化學—無機
初版を有機無機に分冊し新研究、新問題を増補す。							
近 代 文 學 に 兩 性 問 題	島村民藏	ハル	小中	三〇	天 佑 社	一八〇	文學 歐米文學—雜
現 代 文 學 に 兩 性 問 題 を 中 心 と し た 近 代 ヨ ロ ッ パ 文 學 の 文 明 史 的 研 究 。							
現 代 の 電 話 工 學	若目田利助	ハセ	中一	四〇	建築書院	四〇〇	工學 電 話
中學程度の教科、參考用として一般的事項を説く。							
憲 法 之 眞 髓	北野豊次郎	ハル	中一	四一	日本大學法制學會出版部	四〇〇	法律 憲 法
我國體、國民性に照準して憲法の條章を解釋す。							
高 等 利 息 算	原口亮平	ハル	中一	一五	實 文 館	三〇〇	數學 利 息 算
卷末、二項定理、對數、級數、諸表を附す。							
昆 蟲 學 汎 論 (下 卷)	三宅恒方	ハコ	中一	七三	裳 華 房	五〇〇	理學 昆 蟲 學
昆蟲と植物、動物、人類、土地との關係、研究、分類、採集の諸法、昆蟲學歷史の概要を述ぶ。附録、「原語索引」「邦語索引」「昆蟲文書」。							
實 見 最 近 の 勞 働 運 動	鷺尾正五郎	ハコ	小中	二五	日本文協會	一八〇	社會 勞 働 問 題
著者の歐米に於ける實見に基く勞働問題に關する諸論。							

大人格 西郷南洲翁 (上巻) 雜賀 鹿野 八〇 中一 四三 止 善 館 二八〇 傳記 西郷隆盛
の偉觀 明治維新を背景として西郷隆盛を眞情の人として説く。

算術新教授法の原理及實際 佐藤 武 八八 中一 四二 同 文 館 二八〇 教育 教授法—算術
(成城小學校研究叢書第三編)

算術教授の理論と實際の緊密なる關係を見、發生學的、心理學的基礎に特に注意せり。
實用主義の庭園 田村 剛 八八 中一 五六 成 美 堂 四〇〇 農業 庭 園

前編、果樹、蔬菜、花卉、庭木、芝生等の庭園の構造、管理を説き建設物の材料構造を解説す。
後編、果樹園以下各局部を按排布置しての庭園の設計、應用を述ぶ。

宋元 儒學年表 今關 壽 唐 八八 中一 二八 著 者 三三〇 哲學 支那哲學—年表
自、明道元、後一條天皇長元五、西紀一〇三二、至、宣統四(大正元、西紀一九一三)。

實地 趣味の寫眞術 三宅 克己 八八 小一 二四 三 ア ル ス 二八〇 美術 寫 眞
指導 一般的に、趣味ある印畫の製法を述ぶ。

大正 八 年 小學校教材年鑑 木藤 重徳 八八 小一 二五 東京出版社 二〇〇 教育 教授—教材
各科に分類して編す。

人種改善學の理論、實際を譯述しアルレス氏の雌雄淘汰に依る社會改善策を加ふ。
新聞記者の生涯 米、ブライズ 郡山幸男 譯 八八 小一 二六 縱 横 社 二三〇 新聞 新 聞

著者のゼ、メイキング、オヴ、エ、ニユースペーパーマンの譯。
西洋歴史集成 (中巻ノ上下) 坂本 健一 八八 中二 二四 隆 文 館 八〇〇 歴史 西洋 歴史
中世界前期。

禪の立場より處世法を説く。
善の本質 福井晋太郎 八八 小一 二六 目黒書店 一五〇 倫理 倫 理 學
米、バルターの著 The Nature of Ethics の解説。

大正 一 萬 句 選 長谷川 譜三 八八 小一 二九 春 水 社 一三〇 文學 俳 句
大正元年十二月より大正八年六月に至る雜話ホトギス地方俳句界句集。

代數學補習教科書 代數式及數ノ計算法 山内 鷲 八八 小一 二六 松邑三松堂 〇〇〇 數學 代 數
(第一卷)
受驗準備用。

鐵道論 中川 正左 八八 中一 二六 鐵道講習會 二五〇 交通 鐵 道
實地、學理の二方面より我國有鐵道の眞相を闡明にし、獨逸國有鐵道と比較す。

東京府史蹟寫眞集 東京府 編 八八 大 一 洪 洋 社 三三〇 地誌 東 京 府

童謡 村尾 節三 八八 小一 三三 洛 陽 堂 一八〇 文學 日本文學—童謡
我國各地方の童謡、卷首に著者の童謡に對する解説を記す。

獨論 七 年 板垣 退助 八八 小一 四〇 廣 文 堂 三三〇 社會 社會 政策
著者の社會政策に關する論文集。

新解 土佐 日記 古典研究會編 八八 小一 一五 東京書房 〇〇〇 文學 日本文學
新 土壌肥料百話 富田 文雄 再版 八八 中一 二四 農 華 房 一五〇 農業 肥 料

著書の大分縣下各地に於ける講演の材料に基き一般的に土壌肥料に就き叙述す。

南 歐 遊 記	濱田 青陵	ハ二〇	小中の	一八九	大	鐘	關	三〇〇	地誌 紀行 外國
著者の伊太利、南佛の旅行記。									
日蓮 聖訓 要義 (第四卷)	本多 日生	ハ二	小中の	二番	大	鐘	關	二五	宗教 佛教 經論
撰時鈔を説く。									
日本改造の意義及其綱領	鈴木 梅四郎	ハ二	中一の	二八	實生活	社	三〇	政治 政治 論說	
著者の「皇室社會新政」の姉妹篇、歐米諸國の大戦前後の社會狀態の批判より我國改造に及ぶ。									
日本の文明と佛教	長沼 賢海	ハ二	小中の	二番	大	鐘	關	二〇	宗教 佛
我國文明發達に於ける佛教の効果を叙す。									
俳 味 と 信 仰 味	廣川 靈城	ハ二	小中の	三〇	光	融	館	一〇〇	宗教 佛教 雜
古今の名句を借りて、佛教の醍醐味を説く。									
増補 發 動 機 大意	吉田 賢吉	ハ二	中一の	二番	信	友	堂	二〇〇	工學 機械 工學
各種の發動機の動作構造、使用法を説く。									
麵麩の智識と製法	土岐 章	ハ二	中一の	二三	富	山	房	一〇	家事 料
一般的に平易に述ぶ。									
家庭衛生 婦人一生の心得	吉岡 彌生	ハ二	小中の	三〇	日	新	關	一〇	家事 家庭 衛生
著者口述せしものを集む。									
舌の べ ン の 尖	平沼 淑郎	ハ二	小中の	長四	如	山	堂	一八〇	社會 社會 論說
著者の社會問題、經濟問題に就いての論集。									
マルクス 經濟學說要旨	獨、マルクス 松浦要譯	ハ二〇	小中の	一番	經	濟	社	〇五	經濟 經 濟 學
「價值價格及び利潤」の譯。									

馬來半島に於ける余の猛獸狩	吉井 信照	ハ二	中一の	三三	泰	盛	社	二八〇	諸 獵 狩	
著者の實驗談。										
民法總則提要 (第二册)	三浦 信三	ハ二〇	中一の	三九	有	斐	關	二〇	法律 民	
世を 拗ねて	大庭 河公	ハ二	小中の	三五	止	善	堂	一〇	隨筆 隨	
隨筆なり。										
勞 働 者 問 題	獨、ブレンター、森戸辰勇譯	ハ二〇	小中の	三五	岩	波	書	店	一八〇	社會 勞 働 問 題

第二 幼年書類

書 名	著 者 名	發 行 年 月	大 小 冊 數	頁 數	發 行 所	定 價	分 類	件 名
母の お 伽 噺 (第一卷だ)	大井 冷光	ハ二	小一の	二七	ヨウ	ネン	社	一〇
童話集 熊 野 詣	沖野 岩三郎	ハ二〇	小中の	一九	警	醒	社	一〇〇

第三 小説及劇

書 名	著 者 名	發 行 年 月	大 小 冊 數	頁 數	發 行 所	定 價	分 類	件 名
蒼 め た る 馬	獨、ロープシン 青野季吉譯	ハ二〇	小中の	二八	冬	夏	社	一〇

有島武郎著 或女 (後編) 有島武郎 八七 小中の 五三 叢文社 二五
 作集第九輯
 ガリヅア旅行記 英、シヨナサン、スウィフト 中村詳一 譯 八九 小中の 五三 國民書院 一八〇
 タツソ 獨、ゲイ、テ 關口存男 譯 八〇 小中の 一七 以文社 二〇〇
 近松世話浄瑠璃集成 小林榮子校訂 八九 小中の 七〇 大同館 三六〇
 近松の世話浄瑠璃全二十四篇を集む。
 縮白髮鬼 (涙香集) 伊、ヘビヨ、ローマナイ 黒岩涙香 譯 八〇 小一 五三 扶桑堂 一八〇
 聊齋志異 志 異 柴田天馬 八〇 小中の 五三 玄文社 二〇〇
 和 靈 鐘 (前篇) 小杉天外 八九 小中の 五三 實業之日本社 二五〇
 靈 鐘 (前篇) 小杉天外 八九 小中の 五三 實業之日本社 二五〇
 レ・ミゼラブル (第四卷) 佛、ユイ、ゴ、リ 豊島與志雄 譯 八〇 小一 七〇 新潮社 一八〇

大正八年十二月十三日印刷納本 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
 大正八年十二月十五日發行 編輯兼發行者 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日比谷圖書館内 秀 (定價一册) 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 發行所 日本圖書館協會編輯部 (金拾錢) (一ヶ年前金壹圓郵税不要)

日本圖書館協會選定 新刊圖書目錄 第六卷 第十二號

△………專門的のもの
 ×………專近のもの
 ……一般的のもの
 大 四六二倍以上
 中 菊四六判
 中の小 菊四六判
 小 菊判半載以不

第一 一般書類

書名	著者名	發行年月	冊數	頁數	發行所	定價	分類	件名
英勞働組合法と勞働組合規則	阿部龜藏編	八〇	小中の	三六	白水社	三〇〇	經濟	勞働組合
歐洲最近外交史	佛、ドビドゥール 煙山專太郎譯	八九	中一	六六	早稻田大學出版部	三〇〇	政治	外交史
著者の「維也納公會より伯林公會までの歐洲外交史」の續篇「伯林公會より現今までの歐洲外交史」の譯。前篇「武裝的平和」、後篇「大戰前」、(二八七八—一九一六)より成る。								
女の立場から山川菊榮	八〇	小中の	三九	三田書房	一五	社會	婦人問題	著者の婦人問題に對する雜感。
義士傳	有馬祐政	八〇	小中の	六四	弘道館	三〇	傳記	赤穂義士
赤穂義人録補正、赤城土話、赤穂義士傳、泉岳寺書上、義人遺草、赤穂書翰實錄を收む。								
國民道徳大集成	三浦藤作編	八〇	中一	六〇	中興館	三〇	哲學	倫理
理解し易き體系により諸説を集成し、補説參考學説を掲ぐ。附録、「國民道徳思想研究書目」								
自覺主義の教育	石黒あさ	八〇	小中の	二〇	開發社	二〇	教育	教育
著者の經驗に基づく教育に對する雜感。								
支那に遊びて	河東碧梧桐	八〇	小中の	三九	大阪屋號書店	三〇	地誌	紀行—支那

著者の南支遊記。

一九一四世界大戰史 (後篇)	箕作元八	八一	小一	一五五	富山	房	九〇〇	歴史	歐洲戰亂
一九一九世界大戰史 (復原期)	木村莊八	八一	小一	一三三	洛陽	堂	三三	美術	美術史
繪畫叢書の五。									
最新トランプの手引	伊東昌三郎	八一	小一	一〇六	自強	館	〇六	娛樂	遊戯
四十一種のトランプ遊戯法を述べ巻末切抜賭札を附す。									
ヴァイオリンの正しさひき方	煤木光太郎	八一	小一	一七〇	精禾	堂	一三	音楽	ヴァイオリン
大體フランク、スイムルトン著「近世ヴァイオリン扶技巧論」に據れりといふ。									
俳句の作り	かた中内	蝶	二八一	小一	四三	日本書院	一五	文學	俳句
第一篇、作法。第二篇、歴史及小傳。第三篇、季寄。									
ホイットマン訪問記	英、カアベンダー	川崎備寛	八一	小一	二四	聚英閣	一四	文學	ホイットマン
並に彼れの生涯と作品に對する考察。									
△民事訴訟法一斑	仁井田益太郎	八一	中一	一七五	有斐閣	三七	法律	民事訴訟法	
△利益分配の理論と實際	米、バリット等	板橋卓一	八一	中一	三七	日本評論社	一〇	經濟	勞働問題

第二 幼年書類

「赤い鳥」童謡 (第一集)	鈴木三重吉編	八一	中一	一六	赤鳥社	〇六			
---------------	--------	----	----	----	-----	----	--	--	--

北原白秋、西條八十作詩。成田爲三作曲。清水良雄裝畫。かなりや外四種を含む。

大法螺 (世界童話集 第十四篇) 鈴木三重吉 八一 小一 一〇 春陽堂 一〇

とんぼの眼玉 北原白秋 八一 小一 一三 アルス 一〇

涙の花 (少年小説集) 平井晩村 八一 小一 一八 大日本雄辯會 一〇

第三 小説及劇

雨談集	泉鏡花	八一	小一	一六	芙蓉	陽堂	三三〇		
永遠の良人 (ドストエーフスキイ全集 6)	原白	八一	小一	一六	新	潮社	一七〇		
かたおもひ (春葉全集 第一卷)	柳川春葉	八一	小一	一八	金尾文淵堂	三六〇			
焰の舞	眞山青果	八一	小一	一四	新	潮社	三三〇		
モントクリスト伯爵 (後篇)	三谷上	八一	小一	一七	新	潮社	一〇		

大正八年十二月十八日印刷納本
大正八年十二月二十日發行

編輯兼發行者 東京市四谷區谷町一丁目拾八番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 東京市比谷區日本圖書館協會編輯部 (定額一冊 金拾錢 郵税不要)

印刷 東京市神田區美土代町貳丁目壹番地 日本圖書館協會編輯部 (一ヶ月前金壹圓郵税不要)

317
80

終